



PUBLIC (公開)

SAP BusinessObjects

ドキュメントバージョン: 4.3 Support Package 4 – 2023-12-07

SAP BusinessObjects Analysis, edition for OLAP ユーザガイド

目次

1	ドキュメント履歴.....	11
2	SAP BusinessObjects Analysis, edition for OLAP の概要.....	12
2.1	SAP BusinessObjects Analysis, edition for OLAP について.....	12
	Analysis と SAP BusinessObjects Business Intelligence platform との統合.....	12
2.2	このガイドについて.....	13
	ドキュメンテーション.....	13
	このガイドの対象読者.....	14
2.3	はじめに.....	14
3	Analysis の基本操作.....	15
3.1	用語およびアイコン.....	15
3.2	Analysis ワークスペースの作成.....	18
	BI ラウンチパッドから Analysis ワークスペースを作成する.....	19
3.3	データの分析.....	20
	クロスタブにデータを追加する.....	21
	不要なメンバーの削除.....	21
	データの並べ替え.....	22
	データのフィルタ処理.....	22
	条件付き書式設定を追加する (例外の強調表示).....	23
	計算を追加する.....	24
3.4	チャートとクロスタブの追加.....	25
	チャートまたはクロスタブのシートへの追加.....	25
3.5	ワークスペースの保存.....	28
	新規作成したワークスペースを保存する.....	29
	変更内容を新しいワークスペースとして保存する.....	29
	変更内容を既存のワークスペースに保存する.....	29
	自動的に保存されたワークスペース.....	29
3.6	別の Analysis ワークスペースの開始.....	30
	Analysis から新しい Analysis ワークスペースを作成する.....	30
	既存の Analysis ワークスペースを開く.....	31
	キューブに階層メンバーがないときに警告ポップアップを表示する.....	31
4	分析.....	33
4.1	分析およびビジュアルコンポーネントの説明.....	33
4.2	新しい分析を定義する.....	34
4.3	分析を変更する.....	35
	[レイアウト] パネルを使用して分析を変更する.....	35

4.4	分析の追加	37
	分析をシートに追加する	37
4.5	複合分析を作成するためのネストされた階層	38
4.6	分析の削除	38
	分析を削除する	38
4.7	レイアウトの自動更新	38
	レイアウトの自動更新を切り替える	39
5	クロスタブ	40
5.1	Analysis クロスタブの概要	40
5.2	クロスタブの追加	41
	クロスタブを分析ウィンドウを追加する	42
5.3	クロスタブへのデータの追加	42
6	チャート	43
6.1	Analysis チャートの概要	43
6.2	チャートの追加	44
	分析ウィンドウへチャートを追加する	44
6.3	チャートへのデータの追加	45
	空のチャートコンポーネントを使用した分析の定義	46
6.4	チャートの種類	46
	棒チャートと縦棒チャート	47
	複数折れ線チャート	48
	複数円チャート	48
	その他のチャート	49
	チャートの種類を変更する	52
6.5	チャート内のスクロール	53
6.6	チャートのカスタマイズ	54
	サブ分析名と説明	54
	チャートスタイル	55
	チャートのカラーパレット	55
	表示フォント	56
	チャートの合計表示	56
	ウォーターフォールチャートでの親の合計の表示	57
	階層別チャートラベルの表示	57
	チャートの凡例の非表示	58
	チャート軸ラベル	58
	Y 軸の目盛とシンボル	58
	散布図とバブルチャートのメジャー	59
	円チャートラベルの設定	59
7	サブ分析	61

7.1	サブ分析を作成する.....	61
7.2	サブ分析でのデータのサブセットの表示.....	62
	データのサブセットに分析をフォーカスする.....	62
7.3	サブ分析の更新を一時停止する.....	62
7.4	サブ分析のリンク解除.....	63
	サブ分析のリンクを解除する.....	63
8	データのフィルタリング.....	64
8.1	メジャー別のフィルタ処理.....	64
	メジャー別の SAP BW データのフィルタ処理.....	66
	フィルタタイプ.....	66
	メジャー別にフィルタする.....	67
	既存のフィルタを変更する.....	68
	フィルタの削除.....	68
	並べ替えとフィルタの自動削除.....	68
8.2	メンバー別フィルタ.....	69
	個別のメンバーを削除または追加する.....	69
	メンバーの検索.....	70
	メンバーの範囲を選択する.....	73
	選択したメンバーのみ表示.....	73
	メンバーキーとテキストの表示を変更する.....	73
	親の名前の表示.....	74
	階層ビューおよびリーフメンバービュー.....	74
	お気に入りフィルタ.....	74
	表示されているメンバーの削除.....	76
8.3	BEx 条件による SAP BW データのフィルタ.....	76
	BEx 条件を有効化または無効化する.....	77
8.4	バックグラウンドフィルタ.....	77
	新しいバックグラウンドフィルタを追加する.....	77
8.5	NULL 値およびゼロ値の削除.....	78
	NULL およびゼロの行と列を除外する.....	79
9	並べ替え.....	80
9.1	値の並べ替え.....	80
	値を並べ替える.....	81
	並べ替え方向を逆にする.....	81
9.2	メンバー名の並べ替え.....	81
9.3	並べ替えの削除.....	82
	値の並べ替えを削除する.....	82
	メンバーの並べ替えを削除する.....	83
	並べ替えとフィルタの自動削除.....	83
10	条件付き書式設定 (例外の強調表示).....	84

10.1	条件付き書式設定の適用	84
	条件付き書式設定を適用する	86
	SAP BW データソースに条件付き書式設定を適用する	87
10.2	条件付き書式ルール編集	87
	条件付き書式ルールを編集する	87
10.3	条件付き書式設定の削除	87
	条件付き書式設定を削除する	88
	条件付き書式設定を切り替える	88
11	計算	89
11.1	計算の概要	89
11.2	計算の作成	90
	単純計算を追加する	91
	カスタム計算を追加する	91
	動的な計算を追加する	92
	計算を編集する	92
	計算を削除する	93
11.3	並べ替えによる計算	93
11.4	計算の説明	93
11.5	各種データソースに対する計算のサポート	97
12	合計、親、および集計	100
12.1	集計について	100
12.2	メンバー合計の表示/非表示を切り替える	101
12.3	合計と親の位置を設定する	102
12.4	集計タイプを変更する	103
13	分析の閲覧	104
13.1	親メンバーの展開と折りたたみ	104
	クロスタブの親メンバーを展開する	105
	クロスタブの親メンバーを折りたたむ	105
	クロスタブで特定のレベルまで階層を展開する	105
	チャートの親メンバーを展開する	105
	チャートの親メンバーを折りたたむ	105
13.2	階層の交換	106
	2つの階層を交換する	106
	すべての行とすべての列を交換する	106
	並べ替えとフィルタを含む階層の交換	106
13.3	階層のピボット	107
	階層をピボットする	107
13.4	階層の削除	107
	チャートまたはクロスタブから階層を削除する	107

13.5	ネストされた階層.....	108
	階層をネストする.....	108
	ネストされた階層の表示を最小化する.....	109
	ネスト階層の順序変更.....	109
13.6	バックグラウンドフィルタの変更 (スライスの変更).....	110
	バックグラウンドフィルタメンバーを選択する.....	110
13.7	階層レベルの非表示.....	110
	階層レベルを非表示にする.....	110
13.8	メンバーの並べ替え.....	111
	メンバーを並べ替える.....	111
13.9	カスタムグループとしてのメンバーの結合.....	111
	カスタムグループを作成する.....	112
	クロスタブへのカスタムグループの追加.....	116
	カスタムグループを編集する.....	117
	カスタムグループの共有.....	118
	カスタムグループの新しいコピーを保存する.....	119
	カスタムグループを削除する.....	119
13.10	コンポーネントのサイズ変更および移動.....	120
	チャートまたはクロスタブを移動またはサイズ変更する.....	120
13.11	コンポーネントのコピー.....	121
	コンポーネントをコピーする.....	121
13.12	セル内容のコピー.....	121
13.13	元に戻すおよびやり直し.....	121
13.14	データのコメント.....	122
	コメントを追加する.....	123
	コメントを編集する.....	123
	コメントを削除する.....	123
14	表示属性.....	124
14.1	表示属性を追加または削除する.....	124
14.2	表示属性を使用したフィルタ処理.....	125
15	データの書式設定.....	126
15.1	クロスタブのデータの書式設定.....	126
	表示データの書式を設定する.....	127
	データの書式設定を削除する.....	127
15.2	クロスタブのメンバーの表示設定.....	128
15.3	チャートラベルの書式設定.....	128
15.4	列のサイズの変更.....	129
	列のサイズを変更する.....	129
15.5	行のサイズの変更.....	129
	行のサイズを変更する.....	129

16	シート.....	130
16.1	シートの挿入、削除、および名前変更.....	130
	シートを挿入する.....	130
	シートを削除する.....	131
	シート名を変更する.....	131
17	ワークスペースの保存と共有.....	132
17.1	他のユーザとの共有のための Analysis ワークスペースの保存.....	132
	ワークスペースをパブリックフォルダに保存する.....	132
17.2	別のユーザへの Analysis ワークスペースの送信.....	133
	別の BI プラットフォームユーザへの Analysis ワークスペースの送信.....	133
	電子メール受信者へのワークスペースの送信.....	134
17.3	ワークスペースの共有を目的とした OpenDocument URL の使用.....	134
	ワークスペースの URL を取得する.....	135
	パラメータ付き URL.....	135
18	印刷と PDF ファイル.....	136
18.1	シートの印刷.....	136
18.2	データの印刷.....	137
18.3	PDF にエクスポートする.....	137
18.4	印刷オプション.....	137
19	データのエクスポート.....	139
19.1	Excel にデータをエクスポート.....	139
	Excel にデータをエクスポートする.....	140
19.2	カンマ区切り (.csv) ファイルへのデータのエクスポート.....	140
	データを .csv ファイルにエクスポートする.....	141
19.3	分析アプリケーションへのエクスポート.....	141
	分析アプリケーションをエクスポートする.....	142
	分析アプリケーションで利用できるチャートの種類.....	143
20	OLAP データソースへの接続.....	144
20.1	OLAP データソースオブジェクト.....	144
20.2	データソースの追加.....	144
	データソースをワークスペースに追加する.....	145
	ワークスペース内での OLAP データの表示.....	146
20.3	データソースの変更.....	146
	別のデータソースに変更する.....	146
20.4	データソースの削除.....	147
	ワークスペースからデータソースを削除する.....	147
20.5	無効なデータソース接続.....	148
21	レポートへのリンク.....	149

21.1	レポートへのジャンプリンクを作成する.....	149
21.2	リンクされたレポートを表示する.....	150
21.3	レポートへのジャンプリンクを削除する.....	150
21.4	リンクに使用できるレポート.....	150
22	その他の SAP BusinessObjects アプリケーションでの分析の使用.....	151
22.1	分析ビューをエクスポートする.....	151
22.2	分析ビューをインポートする.....	152
23	SAP BW データソース.....	153
23.1	キー数値と書式設定値.....	153
	キー数値のない書式設定.....	153
23.2	レポート間インタフェース.....	154
	RRI ターゲットへのアクセス.....	154
23.3	相互排他階層.....	155
23.4	非バランス型階層と不完全型階層.....	155
23.5	スケール係数.....	155
23.6	[背景] フィルタ領域でのデフォルト値による特性の制限.....	156
23.7	SAP BW データの日付の書式設定.....	156
23.8	通貨変換.....	156
24	SAP HANA データソース.....	158
24.1	SAP HANA データソースの時間階層.....	158
25	SAP BW データソースおよび SAP HANA データソースのプロンプト.....	159
25.1	[プロンプト] ダイアログボックスのナビゲート.....	159
25.2	必須プロンプトとオプションプロンプト.....	160
	必須またはオプションのプロンプトの表示.....	160
	すべてのオプションプロンプトの展開.....	161
25.3	プロンプトの種類.....	161
	複合選択プロンプトでの複数値の設定.....	163
25.4	プロンプト値の確認.....	163
25.5	プロンプト値を入力する.....	163
25.6	プロンプト値を変更する.....	165
25.7	プロンプトの結合.....	165
25.8	SAP バリエーションによるプロンプト値の設定.....	166
	新しいバリエーションを作成する.....	167
	バリエーションを使用してプロンプトを設定する.....	167
	バリエーションのプロンプト値を変更する.....	167
26	Microsoft Analysis Services のデータソース.....	169
26.1	一部のメンバーが見つからないカスタム計算.....	171
26.2	基になるリレーショナルデータへのドリルスルー.....	171

	リレーショナルデータをエクスポートする.....	172
27	Oracle Essbase データソース.....	173
27.1	属性のディメンション.....	173
	フィルタ データへの属性のディメンションの使用.....	173
27.2	メジャー階層.....	174
27.3	エイリアステーブルの選択.....	174
28	アクセシビリティ.....	177
29	OLAP について.....	179
29.1	OLAP の概要.....	179
29.2	多次元データ キューブ.....	179
29.3	階層データ.....	181
30	ユーザインタフェースのリファレンス.....	182
30.1	ワークスペースリファレンス.....	182
30.2	分析ウィンドウ リファレンス.....	182
30.3	[レイアウト] パネルリファレンス.....	183
	[レイアウト] パネルのドロップゾーン.....	183
	[レイアウト] パネルの階層機能.....	184
	バックグラウンドフィルタでのカスタムグループと複数のメンバー.....	184
	レイアウトパネルでの追加詳細.....	185
30.4	タスクパネルリファレンス.....	185
	[データ] パネル.....	186
	[プロパティ] パネル.....	191
	[アウトライン] パネル.....	193
30.5	ツールバーリファレンス.....	193
	ツールバーの概要.....	193
	アプリケーションボタン.....	194
	[分析] タブのボタン.....	199
	[挿入] タブのボタン.....	202
	[表示] タブのボタン.....	203
30.6	クロスタブコンポーネントリファレンス.....	206
	クロスタブのドロップゾーン.....	207
	クロスタブの階層機能.....	208
	クロスタブグリッド.....	208
	クロスタブの表示オプション.....	210
	クロスタブのツールヒント.....	212
30.7	チャートリファレンス.....	213
	チャートの範囲スライダ.....	213
	チャートのグラフ.....	215

チャートの表示オプション.....	217
-------------------	-----

1 ドキュメント履歴

次の表に、文書の重要な変更点をまとめます。

バージョン	日付	説明
SAP BusinessObjects Analysis, edition for OLAP 4.3	2020 年 4 月	初期リリース

2 SAP BusinessObjects Analysis, edition for OLAP の概要

- [SAP BusinessObjects Analysis, edition for OLAP について \[12 ページ\]](#)
- [ドキュメンテーション \[13 ページ\]](#)
- [このガイドの対象読者 \[14 ページ\]](#)
- [Analysis の基本操作 \[15 ページ\]](#)
- オンラインの製品マニュアルには、<http://help.sap.com> からアクセスしてください。

2.1 SAP BusinessObjects Analysis, edition for OLAP について

SAP BusinessObjects Analysis, edition for OLAP が提供するパワフルな Web ベースの OLAP 分析ツールによって、ビジネスデータへの見識が深まり、企業の業績に影響するインテリジェントな決断が可能になります。

OLAP データは、クロスタブおよびチャートを含む分析ウィンドウに表示されます。ワークスペースを作成し、クロスタブおよびチャートオブジェクトを分析ウィンドウに追加して、これらのオブジェクトを OLAP データソースに接続し、結果に応じて分析を定義してデータを詳細に調べることができます。

Analysis は直感的で使いやすく、異なるキューブおよびプロバイダからのデータを同時に表示する機能を含んだ、独自の分析機能があります。たとえば、Microsoft Analysis Services キューブの売上データを SAP BW キューブからの金融データと同じシートに表示できます。

Analysis, edition for OLAP は Web ブラウザの BI ラウンチパッドからアクセスします。必要なのは、Analysis, edition for OLAP をインストールした SAP BusinessObjects Business Intelligence platform システムへの接続だけです。Analysis, edition for OLAP をローカルマシンにインストールする必要はありません。

Analysis を Microsoft Excel および PowerPoint と統合した、SAP BusinessObjects Analysis for Microsoft Office も使用できます。

2.1.1 Analysis と SAP BusinessObjects Business Intelligence platform との統合

Analysis, edition for OLAP は、SAP BusinessObjects Business Intelligence platform の BI 起動パッドからアクセスし、Analysis のワークスペースおよびデータソース接続は、BI プラットフォームセントラル管理コンソール内で管理されます。

- Web にアクセスでき、BI プラットフォームの適切な権限を持つユーザは、Analysis にアクセスできます。
- Analysis ワークスペースは、SAP BusinessObjects Business Intelligence platform を使用して Web に公開できます。

Analysis ワークスペースの Web への公開

BI プラットフォームは、Analysis ワークスペースを、組織全体および組織外の多数のユーザへ Web を通じて配布できる多層サーバアーキテクチャです。

ワークスペースを Web に公開することにより、必要な権限を持つ組織内の全ユーザが分析にアクセスできるようになります。

2.2 このガイドについて

2.2.1 ドキュメンテーション

ドキュメンテーションは、次のガイドおよびオンラインヘルプ情報から構成されます。

SAP BusinessObjects Analysis, edition for OLAP 管理者ガイド

このガイドでは、システム管理者が Analysis をインストール、構成、および管理する際に役立つ詳細情報について説明します。

SAP BusinessObjects Analysis, edition for OLAP ユーザガイド

このガイドには、Analysis を使用するために必要な概念情報、手順、および参考資料が含まれています。

SAP BusinessObjects Analysis, edition for OLAP オンラインヘルプ

オンラインヘルプは、Analysis の日常業務に対する迅速な回答を提供できるように最適化されます。

① 注記

SAP BusinessObjects Analysis, edition for Microsoft Office は、SAP BusinessObjects Analysis, edition for OLAP と密接に関連していますが、ユーザガイドやオンラインヘルプなどの独自のドキュメンテーションがあります。

2.2.2 このガイドの対象読者

マニュアルシステムは、ユーザの特定のニーズに合わせて調整されています。このユーザガイドは、SAP BusinessObjects Analysis を使用して、OLAP データを操作するデータアナリストを対象としています。

2.3 はじめに

Analysis ワークスペースを操作し、データを分析するには [Analysis の基本操作 \[15 ページ\]](#) を参照してください。OLAP の概念と用語で不明な点がある場合は、OLAP テクノロジーの概要 [OLAP について \[179 ページ\]](#) を参照してください。

3 Analysis の基本操作

SAP BusinessObjects Analysis, edition for OLAP には、OLAP データを扱う際に実行する次のようなタスクがあります。

- [Analysis ワークスペースの作成 \[18 ページ\]](#)
- [データの分析 \[20 ページ\]](#)
- [チャートとクロスタブの追加 \[25 ページ\]](#)
- [ワークスペースの保存 \[28 ページ\]](#)

既存のワークスペースを開いて編集する場合は、[別の Analysis ワークスペースの開始 \[30 ページ\]](#)を参照してください。

関連情報








[用語およびアイコン \[15 ページ\]](#)

[OLAP について \[179 ページ\]](#)

3.1 用語およびアイコン

ドキュメントを詳細に読む前に、基本的な OLAP と Analysis 用語を理解していると便利です。

Analysis で使用されるアイコン

	ディメンション
	メジャーまたはキー数値のディメンション
	表示属性グループ
	お気に入りフィルタ
	階層 (デフォルトの階層は太字で表示されます。)
	階層レベル
	単一メジャー



個別表示属性 (デフォルトの階層は太字で表示されます。)

Analysis で使用される用語

キューブ	顧客や製品ラインなどの情報を表すディメンション別に、データを集計、連結、および格納するマルチディメンションまたは OLAP データベース。
ディメンション	階層のコレクション、またはメジャーのコレクション。 <div> <p>① 注記</p> <p>この用語の用法は、SAP BW の用語とは異なります。SAP BW では、階層またはメジャーのコレクションは特性とも呼ばれます。特性のグループはディメンションと呼ばれます。</p> </div>
階層	関連するデータメンバーのコレクションで、通常、階層構造に編成されたもの。たとえば、"<地域>" 階層では、国が階層内の 1 レベルを構成し、都市が下位レベルを構成します。
メンバー	<p>マルチディメンションの OLAP データベース内のエンティティを表すデータの基本単位。たとえば、"<地域>" 階層に含まれるメンバーには、"<南極>"、"<ストックホルム>"、"<チベット>" などがあります。</p> <p>階層内のメンバーは、親メンバーと子メンバーを持つことができます。"<スウェーデン>" は "<ストックホルム>" の親メンバーになります。</p> <p>メンバーは、クロスタブの場合は列と行で表現され、チャートの場合は円スライス、ライザ、折れ線、またはその他のビジュアライゼーションで表現されます。</p>
メジャーディメンション	実際のデータ(数値)を表すディメンション。たとえば、メジャーディメンションには、"<売上げ>"、"<経費>"、"<利益>" などのメジャーが含まれます。
ファクトディメンション	データ自体ではなくデータの特性を表すディメンション。たとえば、"<顧客>"または"<製品>"はファクトディメンションになります。
属性、または表示属性	メンバーのプロパティ。メンバーを分類するための代替手段を提供します。たとえば、"<製品>" 階層の属性には、色、メーカー名、ケースサイズ、生産国などがあります。
ワークスペース	Analysis のデータ分析ドキュメント。
分析	<p>OLAP データの特定のサブセット。階層、メジャー、およびフィルタのほか、表示の強調やユーザ定義の計算を含めることができます。</p> <p>分析の詳細については、分析およびビジュアルコンポーネントの説明 [33 ページ]を参照してください。</p>
分析ビュー	<p>分析のナビゲーションステータスが保存されたもの。保存された情報には、適用されたフィルタ、階層、使用可能なメタデータなどが含まれます。SAP BusinessObjects Analysis (OLAP 版と Microsoft Office 対応版の両方)、SAP Crystal Reports、SAP BusinessObjects Web Intelligence などのアプリケーション間で分析ビューを共有できます。</p> <p>分析ビューの詳細については、その他の SAP BusinessObjects アプリケーションでの分析の使用 [151 ページ]を参照してください。</p>

データソース	<p>OLAP キューブまたはクエリ。通常、データソースはリモートサーバ上にあります。データソースをワークスペースに追加すると、ワークスペースからキューブまたはクエリ内のデータにアクセスできます。</p> <p>データソースの詳細については、OLAP データソースへの接続 [144 ページ]を参照してください。</p>
分析ウィンドウ	クロスタブおよびチャートコンポーネントを含む、Analysis のメインウィンドウ。
クロスタブコンポーネント	分析ウィンドウに追加してデータの分析を開始する、2 次元のテーブルオブジェクト。
チャートコンポーネント	分析ウィンドウに追加してデータをビジュアル表示する、棒、折れ線、またはその他の種類のチャートオブジェクト。
タスクパネル	<p>Analysis 画面の左側のパネル。[データ]、[プロパティ]、[アウトライン] の各パネルが含まれます。</p> <p>タスクパネルには、[計算]、[フィルタ]、[条件付き書式設定] など、タスク固有の各パネルも表示されます。</p> <p>分析ウィンドウのサイズを最大化するためにタスクパネルを非表示にし、計算を追加するときなどの必要な場合には自動的に表示されるようにすることもできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [データ] パネルは、データソースを分析に追加したり、または分析から削除する際に使用します。このパネルにはメタデータエクスプローラも含まれています。メタデータエクスプローラを使用すると、行または列への階層の追加、バックグラウンドフィルタ ("スライス" と呼ばれることもあります) の追加、お気に入りグループの追加など、ナビゲーション機能を実行できます。 • [プロパティ] パネルには、列幅やチャートスタイルなど、選択されたコンポーネントの設定可能なプロパティが表示されます。 • [アウトライン] パネルには、現在のワークスペースの概要が示されます。これは、ワークスペースにシートが多数含まれている場合に便利です。また、このパネルを使用すると、ワークスペース内の別の分析にすばやく切り替えたり、余分な分析を削除することもできます。
メタデータエクスプローラ	[データ] パネル内のこの領域には、データソースに含まれるメタデータ (メジャー、ディメンション、および階層) が表示されます。
[レイアウト] パネル	<p>分析ウィンドウの左側のパネル。選択した分析の定義が含まれます。[レイアウト] パネルには階層およびメジャーをドラッグできます。[レイアウト] パネルではさらに、オブジェクトのフィルタ処理、再並べ替え、交換など、階層およびメジャーに関するナビゲーション操作も実行できます。</p> <p>[レイアウト] パネルでは、クロスタブやチャートで利用できる機能を複製できますが、さらにバックグラウンドフィルタの一部であるメンバーも示されます。</p> <p>[レイアウト] パネルを非表示にして、分析ウィンドウのサイズを最大化することができます。</p>

バックグラウンドフィルタ	<p>コンピュータのモニタで表示できるのは2次元空間のみですが、Analysis では複数のデータディメンションを同時に扱うことができます。分析対象のディメンションおよび階層は、クロスタブの行および列に配置して作業しますが、ほかの階層のメンバーを選択してクロスタブのデータを絞り込むことにより、分析範囲を狭めることもできます。表示されない階層は、バックグラウンドでフィルタの役割を果たします。</p> <p>たとえば、データキューブに "<製品>"、"<市場>"、"<年>" の3つの階層があり、2010年のすべての市場における製品の動向だけを分析する場合、"<年>" 階層をバックグラウンドフィルタとして使用して、"<年>" 階層から <2010> 年のメンバーのみを選択します。これにより、分析のクロスタブの表示軸に表示されるのは、"<製品>" 階層と "<市場>" 階層だけになります。</p>
ヘッダ、またはメンバーヘッダ	クロスタブに表示されるメンバー行またはメンバー列の最初のセル。メンバーヘッダにはメンバーテキストまたはキーが含まれます。
軸	Analysis のクロスタブまたはチャートのコンポーネント上の任意の空間軸。たとえば、クロスタブは、Excel スプレッドシートに似た2次元テーブルとして表示されます。クロスタブには Excel の垂直軸および水平軸に似た2つの表示軸があります。2つの表示軸は、行軸と列軸と呼ばれます。
シート	<p>Analysis ワークスペースのすべての画面ページ。</p> <p>新しいワークスペースには3枚のシートが含まれていますが、1つのワークスペースには任意の数のシートを含めることができます。分析は任意のシートに追加でき、あるシートから別のシートに既存の分析を移動することができます。ここでは、新しいシートの追加、シートの名前の変更、またはシートの削除を実行できます。</p> <p>シートは分析を分類する場合に便利です。たとえば、最初のシートには4つの集計チャートを含め、その他のシートには各分析の詳細を含めることができます。</p>

関連情報

[OLAP について \[179 ページ\]](#)

[Analysis ワークスペースの作成 \[18 ページ\]](#)

[データの分析 \[20 ページ\]](#)

[チャートとクロスタブの追加 \[25 ページ\]](#)

[ワークスペースの保存 \[28 ページ\]](#)

[別の Analysis ワークスペースの開始 \[30 ページ\]](#)

3.2 Analysis ワークスペースの作成

Analysis ワークスペースは、データキューブの表示や検討のための直感的なインタフェースを提供します。

Analysis ワークスペースは、Excel ワークブックと同様に OLAP データに接続し、それを分析できる対話型のドキュメントです。データは、ワークスペースのシートに追加するクロスタブコンポーネントとチャートコンポーネントで視覚化されます。各シートに最大4つのコンポーネントを追加でき、シートの数には制限がありません。

① 注記

ワークスペースを作成するには、"Analysis ワークスペースの作成" 権限が必要です。この権限がない場合は、*SAP BusinessObjects Analysis, edition for OLAP* 管理者ガイドを参照するか、管理者に連絡してください。

関連情報

[ワークスペースリファレンス \[182 ページ\]](#)

[BI ラUNCHパッドから Analysis ワークスペースを作成する \[19 ページ\]](#)

3.2.1 BI ラUNCHパッドから Analysis ワークスペースを作成する

1. BI ラUNCHパッドを起動してログオンします。
BI ラUNCHパッドへのログオンについては、*BI ラUNCHパッドユーザガイド*を参照してください。






2. [\[マイアプリケーション\]](#) 領域で、[\[SAP BusinessObjects Analysis, edition for OLAP\]](#) アイコンをクリックします。

[\[データソースを開く\]](#) ダイアログボックスが表示され、データの取得に使用できるすべてのデータソースが表示されます。Analysis により、未定義の分析が含まれる空のワークスペースも作成されます。

① 注記

定義済みのデータソースがない場合、データをワークスペースに追加することはできません。Analysis でデータを分析するには、事前にシステム管理者がデータソースを定義しておく必要があります。

3. 一覧からデータソースを選択します。データソースの名前がわかっている場合は、[検索](#)バーにデータベースの名前を入力します。
 -  キューブを選択した場合は、[\[OK\]](#) をクリックして、ワークスペースに追加します。
 -  クエリを選択した場合は、[\[OK\]](#) をクリックします。
 -  システムを選択した場合は、[\[次へ\]](#) をクリックして、そのシステムから使用できるキューブおよびクエリを表示します。キューブまたはクエリを選択するか、または [\[検索\]](#) タブをクリックしてキューブまたはクエリを検索した後、[\[OK\]](#) をクリックしてデータソースをワークスペースに追加します。
4. データソースに認証が必要な場合は、[\[ログオン\]](#) ダイアログボックスに認証情報を入力し、[\[OK\]](#) をクリックします。
5. プロンプトを含む SAP BW または SAP HANA データソースを選択した場合には、[\[プロンプト\]](#) ダイアログボックスが開きます。プロンプト値を選択します。
プロンプトの詳細については、[SAP BW データソースおよび SAP HANA データソースのプロンプト \[159 ページ\]](#)を参照してください。

認証が成功すると [\[データ\]](#) パネルの最上部の一覧にデータソースが表示され、メタデータエクスプローラには、データソースに含まれるデータオブジェクト (メタデータ) が表示されます。

認証が失敗した場合は、まず認証情報を正しく入力したかどうかを確認します。それでも認証が失敗する場合は、システム管理に連絡してください。セントラル管理コンソールで認証情報が適切にセットアップされていないか、OLAP サーバーがオフラインの可能性もあります。

関連情報

[Analysis ワークスペースの作成 \[18 ページ\]](#)

[既存の Analysis ワークスペースを開く \[31 ページ\]](#)

[用語およびアイコン \[15 ページ\]](#)

[データの分析 \[20 ページ\]](#)

[チャートとクロスタブの追加 \[25 ページ\]](#)

[ワークスペースの保存 \[28 ページ\]](#)

[別の Analysis ワークスペースの開始 \[30 ページ\]](#)

[OLAP データソースへの接続 \[144 ページ\]](#)

3.3 データの分析

ワークスペースを作成してデータソースを接続したら、次の手順として、分析を定義し、分析ウィンドウでデータを使用した作業を開始します。

分析とは、OLAP キューブからのデータの特定のサブセットのことです。OLAP データをクロスタブに追加して分析を作成した後に、並べ替えやフィルタ処理などのデータ操作をします。

- [クロスタブにデータを追加する \[21 ページ\]](#)

次のタスクを実行すると、Analysis で使用できる一部の分析機能が導入されます。それぞれのタスクを実行するか省略するかを選択し、任意の順序でタスクを実行し、各タスクで使用できるさまざまなオプションで試すことができます。

- [不要なメンバーの削除 \[21 ページ\]](#)
- [データの並べ替え \[22 ページ\]](#)
- [データのフィルタ処理 \[22 ページ\]](#)
- [条件付き書式設定を追加する \(例外の強調表示\) \[23 ページ\]](#)
- [計算を追加する \[24 ページ\]](#)

関連情報

[分析 \[33 ページ\]](#)

[用語およびアイコン \[15 ページ\]](#)

[Analysis ワークスペースの作成 \[18 ページ\]](#)


[チャートとクロスタブの追加 \[25 ページ\]](#)

[ワークスペースの保存 \[28 ページ\]](#)

[別の Analysis ワークスペースの開始 \[30 ページ\]](#)

3.3.1 クロスタブにデータを追加する

分析を定義する最初の手順は、データをクロスタブに追加することです。データはディメンションと階層によって表されるので、階層を追加することによってクロスタブにデータを移入します。

1. [\[データ\]](#) パネルで階層をクリックして選択します。
必要に応じて、ディメンションを展開し、階層を表示します。
2.  [\[列に追加\]](#) ボタンをクリックして、選択した階層をクロスタブの列に追加します。
別の方法として、階層を [\[レイアウト\]](#) パネルの [\[列\]](#) 領域またはクロスタブの [\[列のドロップ\]](#) 領域にドラッグすることもできます。
3. これらの手順を繰り返して、クロスタブにさらに階層を追加します。



列に加えて、行またはバックグラウンドフィルタにも [\[行に追加\]](#) ボタンおよび [\[バックグラウンドに追加\]](#) ボタンを使用して階層を追加することができます。

① 注記

クロスタブには、メジャーを追加して初めて番号が表示されます。

4. 階層を展開して、階層内のメンバーを調べます。

3.3.2 不要なメンバーの削除

最も関心があるデータに注目できるように、メンバーを削除またはフィルタ処理することができます。

1. クロスタブでメンバーを右クリックして [\[削除\]](#) を選択し、そのメンバーを分析から削除します。
メンバーを後でクロスタブに戻す場合は、[\[フィルタ\]](#) パネルを使用して追加することができます。
2. [\[レイアウト\]](#) パネルでいずれかの階層をダブルクリックします。
[\[フィルタ\]](#) パネルが開きます。パネルには、選択した階層のコンテンツと最初に選択したすべてのメンバーが表示されます。
3. 分析に含めるメンバーのみを選択します。
4. [\[OK\]](#) をクリックして、クロスタブを更新します。

関連情報

[データのフィルタリング \[64 ページ\]](#)

3.3.3 データの並べ替え

メンバーヘッダを右クリックし [\[並べ替え\]](#) をポイントして [\[昇順\]](#) または [\[降順\]](#) をクリックします。

関連情報

[並べ替え \[80 ページ\]](#)

3.3.4 データのフィルタ処理

フィルタ処理は Analysis の中核ワークフローの 1 つです。フィルタ処理とは、重要なデータのみを選択するアクションです。たとえば、アイスホッケー装具の社内売上が最も低い地域に関心がある場合は、ケニアやインドネシアなどの国を選択します。

1. [\[レイアウト\]](#) パネルの階層を右クリックして [\[フィルタ\]](#) をポイントし、その後 [\[メジャー別\]](#) を選択します。

① 注記

メジャーによるフィルタ処理は、SAP HANA データソースでは使用できません。

たとえば、データソースにアイスホッケー装具の売上が含まれている場合は、"[<地域>](#)" 階層を選択してケニアとインドネシアを選択します。

[\[フィルタ\]](#) パネルで、フィルタの条件を定義します。"**1000 より大きい**" などの単一条件のフィルタ、または複数の条件を含む複合フィルタを定義できます。

2. 選択した階層に複数のレベルが含まれる場合は、フィルタ処理する階層レベルを選択します。
1つの階層に複数のメンバーレベルが含まれることがありますが、フィルタは階層内の単一のレベルに適用されます。たとえば、"[<地域>](#)" 階層のレベル 1 に "[<国>](#)"、レベル 2 に "[<州>](#)"、レベル 3 に "[<都市>](#)" が含まれる場合は、"[<国>](#)" レベルを選択してケニアとインドネシアを選択します。
3. フィルタを設定するメジャーを選択します。
たとえば、売上数の少ない国を含める場合は、"[<販売注文>](#)" などのメジャーを選択できます。
4. 演算子およびオペランドを追加して条件を定義します。
たとえば、"**下位 10**" という条件を定義するには [\[下位 N\]](#) 演算子を選択して、オペランドとして「**10**」と入力します。これにより、販売注文数が最も少ない 10 か国のみが分析に含まれます。
5. [\[追加\]](#) をクリックしてフィルタに条件を追加します。
6. フィルタの定義が終了するまで、さらにフィルタ条件を追加します。
7. 複数の条件を作成した場合は、フィルタするデータに条件を適用する方法に応じて [\[AND\]](#) または [\[OR\]](#) を選択します。
8. [\[OK\]](#) をクリックします。

クロstab表示が更新され、フィルタ処理されたデータが表示されます。

① 注記

フィルタ条件を定義してフィルタ処理することを、“メジャーによるフィルタ処理”と呼びます。一覧からメンバーを個別に選択または削除することによってフィルタ処理することを、[節 不要なメンバーの削除](#)

[21 ページ]で説明するように“メンバー別のフィルタ処理”と呼びます。[レイアウト] パネルで階層をダブルクリックして、メンバー別にフィルタ処理することができます。

関連情報

[データのフィルタリング \[64 ページ\]](#)

3.3.5 条件付き書式設定を追加する (例外の強調表示)

指定した条件に一致するデータを強調表示することができます。たとえば、負数を含むセルに赤の背景色を適用して強調表示することができます。これを行うには、条件付き書式設定を適用します。

1. メンバーのヘッダを選択し [分析] ツールバータブをクリックして [条件付き書式設定] をクリックします。
別の方法として、メンバーのヘッダを右クリックし [条件付き書式設定] をポイントして [新規] をクリックすることもできます。
2. [条件付き書式設定] パネルで、適用する書式設定を識別する名前を入力するか、デフォルトの名前を受け入れます。
3. 書式設定の基準となるメジャーを選択します。
たとえば、棚卸資産内のすべての負数を強調表示する場合、"<棚卸資産>" メジャーを選択します。
4. 書式設定の種類を選択します。
強調表示の方法として、セルに背景色を追加するか、セルのテキストの色を変更するか、セルに記号を追加することができます。
5. メジャー書式の拡大/縮小を定義してあり、メジャーに条件付き書式設定を以下のタイミングで適用しようとしています。
 - 拡大/縮小後の場合、[計算および拡大/縮小後の評価] チェックボックスを選択します。
 - 拡大/縮小前の場合、チェックボックスを未選択のままにします。
6. 色または記号を選択します。
7. 条件演算子としきい値を選択します。
たとえば、すべての負数を強調表示するには [より小さい (<)] 演算子を選択し、値に「0」（ゼロ）と入力します。
8. [追加] をクリックしてから [OK] をクリックし、書式設定を追加します。

① 注記

SAP BW データソースを基準にした分析では、[表示] ドロフでその他のオプションも使用できます。

関連情報

[条件付き書式設定 \(例外の強調表示\) \[84 ページ\]](#)

[SAP BW データソースに条件付き書式設定を適用する \[87 ページ\]](#)

3.3.6 計算を追加する

1. メジャーディメンションからメンバーのヘッダを 2 つ選択します。
複数のメンバーのヘッダを選択するには、**Ctrl** キーを押したまま複数のメンバーのヘッダをクリックします。

① 注記

メジャーディメンションのメンバーのことを、""メジャーメンバー"" または単に ""メジャー"" といいます。

2. **[計算]** ボタンの横の矢印をクリックします。
3. **[加算]**、**[減算]**、**[乗算]**、または **[除算]** の単純計算のいずれかを選択します。
計算がクロスタブに追加されます。

① 注記

[減算] および **[除算]** の計算を使用する場合、メンバーを選択した順序に基づいて計算が定義されます。

→ ヒント

計算式は、計算のヘッダにマウスを置くとツールヒントに表示されます。

4. 任意のメジャーメンバーのヘッダを選択します。
5. **[分析]** タブで **[計算]** をクリックします。
6. **[計算]** パネルで、追加する計算を識別するために名前を入力します。
7. 計算の基準となる階層を選択します。
たとえば、**[メジャー]** を選択します。
8. 計算を挿入する場所を選択します。
9. **[関数]** ボタンおよび **[メンバーの追加]** ボタンを使用して、計算を定義します。
たとえば、以下の方法を実行して単純な除算計算を追加できます。
 - a. **[関数]** をクリックして演算子を追加します。
 - b. **[DIVISION]** 演算子を選択します。
 - c. 引用符が含まれている **operand1** テキストを選択します。
 - d. **[メンバーの追加]** をクリックして、除算計算用の最初のオペランドを選択します。
 - e. **operand2** テキストを選択します。
 - f. **[メンバーの追加]** を再度クリックして、2 番目のオペランドを選択します。
10. **[確認]** をクリックして、計算の定義が正しいことを確認します。
確認が失敗すると、**[ステータス]** フィールドにエラーの原因が表示されます。計算のエラーをすべて修正したら、**[確認]** を再度クリックします。
11. 確認が正常に終了したら **[OK]** をクリックして計算をクロスタブに追加します。

関連情報

[計算 \[89 ページ\]](#)

3.4 チャートとクロスタブの追加

Analysis では通常、ワークスペースを作成してからクロスタブでデータの分析を始めます。すぐに気付くことですが、クロスタブを使用することは分析に不可欠であるものの、これはビジネス業績を分析するには抽象的すぎる方法であり、視覚的な効果が不足しています。1つ以上のチャートを分析に追加すると、分析の影響力が大幅に向上し、より興味深い分析になると同時に、より理解しやすい分析を作ることができます。

さらにクロスタブコンポーネントを分析に追加すると、同じデータを異なる配置で比較することもできます(異なるデータを比較する場合は、[分析の追加 \[37 ページ\]](#)を参照してください)。

1枚のシートに配置できるコンポーネントは最大4つですが、ワークスペースには必要に応じてさらにシートを追加することができます。

関連情報

[Analysis チャートの概要 \[43 ページ\]](#)

[チャートリファレンス \[213 ページ\]](#)

[クロスタブ \[40 ページ\]](#)

[クロスタブコンポーネントリファレンス \[206 ページ\]](#)

3.4.1 チャートまたはクロスタブのシートへの追加

ワークスペースを作成し、クロスタブに分析を定義すると、**[挿入]** タブにある任意のチャートボタンをクリックするだけでチャートをシートに追加できるようになります。シート上に複数の分析がある場合、追加したチャートは選択した分析にリンクされます。通常、チャートはクロスタブに定義されている分析にリンクされ、したがってクロスタブと同じデータが表示されます。

元のコンポーネント (この場合はクロスタブ) がメイン分析で、追加したチャートはサブ分析になり、メイン分析にリンクされます。メイン分析に対する変更はサブ分析に反映されますが、サブ分析に直接行った変更はメイン分析に反映されません。

データを別の配置で調査する場合は、別のクロスタブをサブ分析としてシートに追加できます。または、複数のデータ集合を分析する場合は、クロスタブを新しい分析としてシートに追加できます。

既存のコンポーネントをコピーして、コピーに対して変更を行うこともできます。

フォーカス分析

分析をフォーカス分析モードに設定すると、メイン分析でメンバーを選択した場合に、サブ分析のコンポーネントに選択したメンバーだけを表示できます。この機能により、分析を何度も再定義する必要なく、分析のさまざまな部分に一時的に焦点を絞ることができます。

たとえば、世界各国のスノーボード用具の売上高を分析していて、サウジアラビアの売上高に興味深い変則性が見られたとします。この場合、チャートを追加してフォーカス分析モードをオンにし、分析内のサウジアラビア

のデータのみを選択することができます。すると、チャートにはサウジアラビアのデータのみが表示されますが、クロスタブには引き続き世界各国のデータが表示されます。

追加したチャートコンポーネントまたはクロスタブコンポーネントをメイン分析にリンクさせない場合は、メイン分析とコンポーネントのリンクを解除し、新しい分析を作成できます。前の例で、サウジアラビアの状況に十分注意する必要があると判断したとします。この場合、チャートとメイン分析のリンクを解除し、(元のクロスタブで) 引き続き世界各国のスノーボード用具の売上を分析しながら、サウジアラビアの売上も分析します。

関連情報

[用語およびアイコン \[15 ページ\]](#)

[Analysis ワークスペースの作成 \[18 ページ\]](#)

[データの分析 \[20 ページ\]](#)

[ワークスペースの保存 \[28 ページ\]](#)

[別の Analysis ワークスペースの開始 \[30 ページ\]](#)

[コンポーネントのサイズ変更および移動 \[120 ページ\]](#)

[サブ分析 \[61 ページ\]](#)

[サブ分析のリンク解除 \[63 ページ\]](#)

[分析の追加 \[37 ページ\]](#)

[コンポーネントのコピー \[121 ページ\]](#)






3.4.1.1 シートにチャートを追加する

1. 分析ウィンドウで、チャートのリンク先となるコンポーネントを選択します。
2. **[挿入]** タブにあるチャートボタンのいずれかをクリックします。

チャートがサブ分析として追加され、選択したコンポーネントにリンクされます。追加したチャートは、シート上の既存コンポーネントの下または右に配置されます。

① 注記

チャートボタンの一部はチャートのファミリーを表しています。ボタンをクリックして、デフォルトのチャートの種類をそのファミリーからシートに追加できます。または、ボタンの横にある矢印をクリックして、そのファミリー内の使用可能なチャートの種類の中から選択できます。

-  縦棒チャートファミリー
-  複数折れ線チャート
-  複数円チャート
-  棒チャートファミリー
-  その他のチャート

または、**[挿入]** タブから分析ウィンドウの選択した位置までチャートをドラッグすることができます。

① 注記

チャートファミリのボタンを分析ウィンドウへドラッグすると、そのチャートファミリのデフォルトの種類のチャートが分析ウィンドウに追加されます。チャートの種類は、必要に応じて後で変更できます。




1 枚のシートに複数のコンポーネントが存在する場合に、コンポーネントのビューを拡大するには、コンポーネントのタイトルバーにある [最大化/復元] ボタンを使用してコンポーネントを最大化したり、元のサイズに戻すことができます。

関連情報

[コンポーネントのサイズ変更および移動 \[120 ページ\]](#)

3.4.1.2 シートにクロスタブをサブ分析として追加する

以下の手順では、クロスタブをサブ分析として追加する方法を説明します。クロスタブを新しい分析として追加するには、[分析の追加 \[37 ページ\]](#)を参照してください。

1. 分析ウィンドウで、クロスタブのリンク先となるコンポーネントを選択します。
2.  [挿入] タブで、[クロスタブ] ボタンの横にある矢印をクリックし、[サブ分析の挿入] を選択します。



クロスタブがサブ分析として追加され、選択したコンポーネントにリンクされます。追加したクロスタブは、シート上の既存コンポーネントの下または右に配置されます。

または、[挿入] タブから分析ウィンドウの選択した位置までクロスタブをドラッグすることができます。



1 枚のシートに複数のコンポーネントが存在する場合に、コンポーネントのビューを拡大するには、コンポーネントのタイトルバーにある [最大化/復元] ボタンを使用してコンポーネントを最大化したり、元のサイズに戻すことができます。

3.4.1.3 既存のクロスタブまたはチャートをコピーする

1. 分析ウィンドウで、コンポーネント内の任意の場所をクリックしてコピーするクロスタブまたはチャートを選択します。
2.  ツールバーの [コピー] ボタンをクリックします。
3.  コピーしたコンポーネントを同じシートに追加する場合は、[貼り付け] ボタンをクリックします。

または、コピーしたコンポーネントを別のシートに追加する場合は、先に他のシートのタブを選択してから [貼り付け] ボタンをクリックします。

コピーがシート上の既存コンポーネントの下または右に追加されます。

3.4.1.4 コンポーネントをシートから削除する



コンポーネントのタイトルバーの右側にある **[削除]** ボタンをクリックします。

3.5 ワークスペースの保存

Analysis では、ワークスペースが BI プラットフォームリポジトリに保存されます。このリポジトリから、各自のワークスペースを、インターネットに接続している任意のマシンで Web を介して開くことができます。

変更内容を既存のワークスペースに保存するか、または変更されたワークスペースを新しいワークスペースとしてリポジトリに保存できます。

ワークスペースに未保存の変更がある場合、その名前の前にアスタリスク (*) が表示され、保存する必要があることが示されます。

① 注記

ワークスペースを BI プラットフォームリポジトリに保存するには、適切な権限が必要です。公開権限の有無が不明な場合には、システム管理者に確認してください。

ワークスペースがアイドルのままであると、セッションが終了する前に、ワークスペースは“自動保存”ファイルとして **[お気に入り]** フォルダに自動保存されます。通常、セッションは、システム管理者がタイムアウトを別の値に設定していない限り、非アクティブになってから約 20 分で終了します。

[ワークスペース自動保存] 機能のデフォルト動作を **[基本設定]** ページから設定することもできます。

① 注記

ワークスペースが自動保存されるたびに、自動保存ワークスペースは上書きされるため、ワークスペースを保持するには、一意ファイル名を付けて手動で保存する必要があります。

ワークスペースを保存する以外に、ワークスペースから Microsoft Excel、PDF ファイル、またはカンマ区切り値 (CSV) ファイルにデータをエクスポートすることもできます。

関連情報

[用語およびアイコン \[15 ページ\]](#)

[Analysis ワークスペースの作成 \[18 ページ\]](#)

[データの分析 \[20 ページ\]](#)

[チャートとクロスタブの追加 \[25 ページ\]](#)

[別の Analysis ワークスペースの開始 \[30 ページ\]](#)

[データのエクスポート \[139 ページ\]](#)

3.5.1 新規作成したワークスペースを保存する



1. ツールバーで **[保存]** をクリックします。
2. フォルダツリーで、ワークスペースを保存するフォルダを参照します。
3. ワークスペースのファイル名を入力します。
4. **[保存]** をクリックします。

3.5.2 変更内容を新しいワークスペースとして保存する



1. ツールバーで、**[保存]** ボタンの横に表示されている矢印をクリックし、**[名前を付けて保存]** を選択します。
2. フォルダツリーで、ワークスペースを保存するフォルダを参照します。
3. ワークスペースのファイル名を入力します。
4. **[保存]** をクリックします。

3.5.3 変更内容を既存のワークスペースに保存する



ツールバーで **[保存]** をクリックします。

① 注記

- 既存のワークスペースを現在のフォルダに保存すると、**[確認]** ダイアログで「**同じ名前のファイルがすでに存在します。このファイルを上書きしますか?**」というプロンプトメッセージは表示されません。
- プロンプトメッセージの上書きは、**[名前を付けて保存]** アクションを実行し、同じワークスペースを選択するか、既存のワークスペースの名前を入力すると表示されます。

関連情報

[別のユーザへの Analysis ワークスペースの送信 \[133 ページ\]](#)

3.5.4 自動的に保存されたワークスペース

ワークスペースが数分間アイドル状態であると、ワークスペースのコピーは **[お気に入り]** フォルダに自動保存され、セッションが終了します。

セッションが終了する前にセッションに戻ると、自動保存サイクルがリセットされ、次にワークスペースが数分間アイドル状態になったときにもう一度自動保存されます。

[ワークスペース自動保存] 機能のデフォルト動作を [基本設定] ページから設定することもできます。

ワークスペースのデフォルト動作を設定するには、これらのステップを実行します。

1. SAP BusinessObjects BI ラUNCHパッドで [基本設定] ページを開きます。
2. [Analysis, edition for OLAP] を選択します。
3. 適切な [ワークスペース自動保存] ラジオボタンを選択します。

オプション	説明
無効	自動保存オプションは OLAP ワークスペースに対して無効です。
新しいワークスペースのみに対して有効	自動保存オプションは新しい OLAP ワークスペースのみに対して有効です。
新規および既存のワークスペースに対して有効	自動保存オプションは新規および既存の OLAP ワークスペースに対して有効です。

4. BI ラUNCHパッドからログオフし、再びログオンします。

3.6 別の Analysis ワークスペースの開始

現在のワークスペースでの作業を終了したら、BI ラUNCHパッドへ戻らずに新しいワークスペースを開始できます。

あるいは BI プラットフォームリポジトリにすでに保存されているワークスペースを開いて編集できます。ほかのアナリストによってリポジトリのパブリックフォルダに保存されているワークスペースを開くこともできます。

関連情報

[用語およびアイコン \[15 ページ\]](#)

[Analysis ワークスペースの作成 \[18 ページ\]](#)

[データの分析 \[20 ページ\]](#)

[チャートとクロスタブの追加 \[25 ページ\]](#)

[新規作成したワークスペースを保存する \[29 ページ\]](#)

3.6.1 Analysis から新しい Analysis ワークスペースを作成する


1.  ツールバーで、[ワークスペースの新規作成] ボタンをクリックします。

2. 新しいワークスペースを作成すると、現在のワークスペースの保存されていない変更は失われることを確認します。
新しいワークスペースを BI ラウンチパッド から作成する時と同様に、データへのアクセスに利用できるすべてのデータソースを示した [\[データソースを開く\]](#) ダイアログボックスが表示されます。

関連情報

[Analysis ワークスペースの作成 \[18 ページ\]](#)

3.6.2 既存の Analysis ワークスペースを開く

1.  ツールバーで [\[開く\]](#) ボタンをクリックします。
2. ワークスペースをフォルダリストから選択し、[\[開く\]](#) をクリックします。

既存のワークスペースを BI ラウンチパッドの [\[ドキュメント\]](#) タブから開くこともできます。

ワークスペースの現在のシートで使用されているすべてのデータソースに対する認証情報を入力する必要がない場合には、ワークスペースの現在のシートが開きます。

現在のシートで使用されているいずれかのデータソースに対する認証情報が必要である場合には、ログオン認証情報の入力を求められます。認証情報を入力してから [\[OK\]](#) をクリックし、各データソースにログオンします。あるいは複数のデータソースがあり、現在のシート上のすべてのデータソースに同じ認証情報でログオンする場合には、[\[これらの認証情報を、同じページのすべての接続に適用します\]](#) を選択してから、[\[OK\]](#) をクリックします。

認証に失敗した場合には、[無効なデータソース接続 \[148 ページ\]](#) を参照するか、またはシステム管理者に連絡してください。認証情報がセントラル管理コンソールで適切に設定されていない、あるいは OLAP サーバがオフラインである可能性があります。

① 注記

ワークスペースのほかのシートへ移動する時に、そのシートのコンポーネントが認証を必要とするほかのデータソースにリンクされている場合には、認証情報の入力を再度求められることがあります。

3. ワークスペースにプロンプトを含む SAP BW または SAP HANA データソースがある場合には、[\[プロンプト\]](#) ダイアログボックスが開きます。プロンプト値を選択します。
プロンプトの詳細については、[SAP BW データソースおよび SAP HANA データソースのプロンプト \[159 ページ\]](#) を参照してください。

3.6.3 キューブに階層メンバーがないときに警告ポップアップを表示する

BI ラウンチパッドの [\[基本設定\]](#) で、既存のクエリで使用される一部のオブジェクトが変更されたりキューブから削除されたりした場合に警告を表示するかどうかを選択できます。

1. BI ラウンチパッドのツールバーで、[\[基本設定\]](#) をクリックして [\[基本設定\]](#) ダイアログボックスを開きます。
2. [\[基本設定\]](#) 一覧で [\[Analysis edition for OLAP\]](#) を選択します。
3. [\[キューブにオブジェクトがないときに警告を表示\]](#) チェックボックスを選択します。
4. [\[保存して終了\]](#) をクリックします。
これらの変更は、次回 Analysis, edition for OLAP ドキュメントを開いたときに有効になります。

4 分析

Analysis では、データソースに接続した後、使用可能な分析機能を使用して役立つ情報をデータから取得します。

クロスタブにデータを埋め込んで、分析を定義します。最初に、クロスタブの行軸と列軸、およびバックグラウンドフィルタに追加する階層を選択します。次に、Analysis で提供される数々のツールを使用して分析を拡張および詳細設定します。

また、チャートコンポーネントを使用して、分析を定義することもできます。

関連情報

[チャートへのデータの追加 \[45 ページ\]](#)

[クロスタブコンポーネントリファレンス \[206 ページ\]](#)

[チャートリファレンス \[213 ページ\]](#)

4.1 分析およびビジュアルコンポーネントの説明

分析

分析では、分析する OLAP キューブからのデータの特定のサブセットが定義されます。このサブセットは多次元キューブの 2 次元 "スライス" であるため、"スライス" と呼ばれることがよくあります。たとえば、"売上げ" キューブのデータを分析する場合、毎年の店舗経費の分析を定義できます。

分析を定義するには、含めるメジャーと階層を指定します。これを行うには、分析する階層またはメンバーをクロスタブまたはチャートコンポーネントに追加します。前述の例では、"<店舗経費>" と "<年>" が、この分析を定義するときに使用する 2 つの階層になります。

Analysis ワークスペースには複数のページを含むことができますが、分析は 1 ページでのみ有効です。そのため、シート 1 の分析がシート 2 のコンテンツに影響を及ぼすことはありません。

分析はデータの構造と値を格納し、一方、クロスタブとチャートのビジュアルコンポーネントはデータを表示する、ということを理解することは重要です。

ビジュアルコンポーネント

分析をクロスタブや横棒チャートなどのさまざまな種類のビジュアルコンポーネントで表示できます。

同じ分析に属するクロスタブとチャートは、同じキューブデータセットを表示するため、リンクされていると考えることができます。あるビジュアルコンポーネント上で何らかの変更を行うと、リンクされたコンポーネント

上でも同等のアクションが実行されます。たとえば、国メンバーを展開してその国の州のデータをクロスタブコンポーネント上に表示すると、リンクされたチャートも更新され、州のデータが表示されます。

新しいクロスタブコンポーネントまたはチャートコンポーネントをサブ分析としてシートに追加すると、追加されたコンポーネントはアクティブ分析にリンクされます。クロスタブを新規分析として追加することもできます。

階層またはメンバーがコンポーネントに追加されると、分析およびビジュアルコンポーネントはデータソースに固定されます。別のデータソースからこのコンポーネントにメンバーを追加することはできなくなります。

関連情報




[サブ分析 \[61 ページ\]](#)

[OLAP について \[179 ページ\]](#)

4.2 新しい分析を定義する

1. [\[データ\]](#) パネルで、クロスタブの最初の軸に追加する階層を選択します。
階層全体ではなく、1つまたは複数の階層レベルのみを選択することもできます。
2. 階層を [\[データ\]](#) パネルから [\[レイアウト\]](#) パネルへドラッグします。
 - 選択した階層をクロスタブの行に追加するには、それらを [行領域](#)にドラッグします。
 - 選択した階層をクロスタブの列に追加するには、それらを [\[列\]](#) 領域にドラッグします。
 - 選択した階層をクロスタブのバックグラウンドフィルタに追加するには、それらを [\[バックグラウンド\]](#) フィルタ領域にドラッグします。
 - メジャーディメンションのメンバーをクロスタブに配置する場合は、それらをクロスタブコンポーネントの主要グリッドにドラッグすることもできます。

[\[データ\]](#) パネルのメタデータエクスプローラの上のボタンを使用して、クロスタブに埋め込むこともできます。分析ウィンドウでコンポーネントを選択してから、以下のボタンのいずれかをクリックして、階層をクロスタブに追加します。

-  選択した階層をクロスタブの行に追加するには、[\[行に追加\]](#) をクリックします。
-  選択した階層をクロスタブの列に追加するには、[\[列に追加\]](#) をクリックします。
-  選択した階層をバックグラウンドフィルタに追加するには、[\[バックグラウンドフィルタに追加\]](#) をクリックします。

3. クロスタブのその他の軸を対象に、ステップ 2 を繰り返します。

→ ヒント

分析の定義中には、レイアウトの自動更新をオフにできます。自動更新がオンの場合には、各階層を [\[レイアウト\]](#) パネルに追加すると、クロスタブコンポーネントとチャートコンポーネントが更新され、短い遅延が生じます。自動更新をオフにするには、ツールバーの [\[自動更新\]](#) をクリックします。

① 注記

同じ階層から2つの軸へメンバーを追加することはできません。

① 注記

軸に階層を配置すると、デフォルトメンバーが自動的に選択されます。

① 注記

SAP BW データソースでは、同じディメンションに属している階層は互いに排他的です。たとえば、2つの階層、<Country_1>、<Country_2> を含む "<顧客>" ディメンションを含んだキューブについて考えます。同じ分析の行軸に <Country_1>、バックグラウンドフィルタに <Country_2> を指定することはできません。

4.3 分析を変更する

分析を変更するには、いくつかの方法があります。

- 階層にフィルタを適用する、またはフィルタを変更する。
- 並べ替え、条件付き書式設定、ツールバーにあるその他の機能を適用する。
- 新しい階層を同じデータソースから[レイアウト]パネルに追加するか、軸間で階層を移動するか、あるいは階層を[レイアウト]パネルから削除する。

関連情報

[メンバー別フィルタ \[69 ページ\]](#)

[ツールバーリファレンス \[193 ページ\]](#)

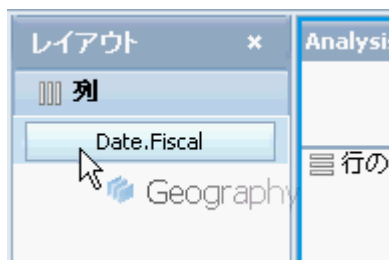
[親メンバーの展開と折りたたみ \[104 ページ\]](#)

4.3.1 [レイアウト] パネルを使用して分析を変更する

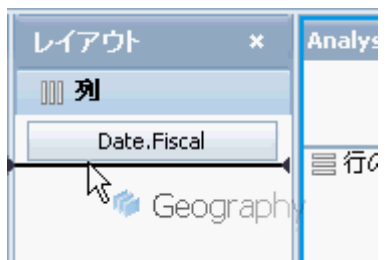
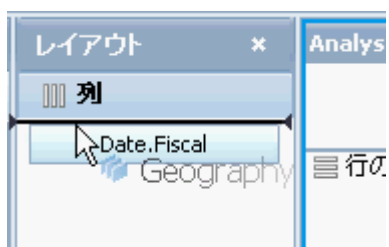
1. [データ] パネルで、クロスタブまたはチャートの最初の軸に追加する階層を選択します。
階層全体ではなく、1つまたは複数の階層レベルのみを選択することもできます。
2. 階層を[データ]パネルから[レイアウト]パネルの該当する軸へドラッグします。

既存の階層を置き換えるか、新しい階層を既存の階層とネストさせるかを選択できます。

階層を置き換えるには、選択した階層を既存の階層にドラッグします。既存の階層が強調表示されます。マウスボタンを離すと、選択した階層がクロスタブまたはチャートの既存の階層と置き換わります。



選択した階層とクロスタブの既存の階層をネストさせるには、選択した階層を既存の階層の上か下にドラッグします。この方法は複合分析の作成に使用されます。詳細については、[複合分析を作成するためのネストされた階層 \[38 ページ\]](#)を参照してください。



[データ] パネルのメタデータエクスプローラ領域の上に表示されているボタンを使用して、クロスタブに埋め込むこともできます。分析ウィンドウでコンポーネントを選択してから、以下のボタンのいずれかをクリックして、階層をクロスタブに追加します。

- 行への追加
- 列への追加
- バックグラウンドフィルタへの追加

3. クロスタブまたはチャートのその他の軸を対象に、ステップ 2 を繰り返します。

① 注記

同じ階層から 2 つの軸へメンバーを追加することはできません。

① 注記

行軸、列軸、またはバックグラウンドフィルタに階層を配置すると、デフォルトメンバーが自動的に選択されます。Microsoft Analysis Services を使用すると、デフォルトメンバーを OLAP サーバに設定できま

す。その他の OLAP プロバイダの場合は、階層の最上位にある最初のメンバーがデフォルトメンバーです。

① 注記

階層を、すでに同じ階層が含まれている分析に追加すると、過去に階層に適用されたすべての並べ替え、フィルタ、および条件付き書式が無効になります。

4.4 分析の追加

ワークスペースを作成してデータソースを接続すると、分析が生成され、そのデータソースにリンクされます。分析の目的によっては1つの分析で十分であることもありますが、分析を追加する必要があることがあります。たとえば、1つのシートで2つの異なるデータセットを比較する場合などです。

分析を追加する方法はいくつかあります。

- クロスタブをシートに追加する。デフォルトでは、新しいクロスタブを追加すると、新しい分析が生成されます。新しい分析は、[データ] パネル上で選択されているデータソースに接続されます。
- 新しいデータソースをワークスペースに追加してから、クロスタブをシートに追加します。新しい分析は新しいデータソースに接続されます。
- サブ分析として、別のクロスタブコンポーネントまたはチャートコンポーネントをシートに追加します。サブ分析は元の分析のリンクにリンクされますが、新しいコンポーネントと元の分析のリンクを解除し、個別分析を作成できます。

分析を追加した後、クロスタブまたはチャートに階層およびメンバーを追加して分析を定義します。

関連情報

[サブ分析 \[61 ページ\]](#)

[サブ分析のリンク解除 \[63 ページ\]](#)

4.4.1 分析をシートに追加する



ツールバーで [挿入] を選択してから、[クロスタブの挿入] ボタンをクリックして、分析を現在のシートに追加します。

新たな分析は選択されているデータベースに接続され、自動的に割り当てられた名前で [アウトライン] パネルに追加されます。

① 注記

クロスタブをサブ分析として追加するには、[クロスタブの挿入] ボタンの横に表示されている矢印をクリックします。

4.5 複合分析を作成するためのネストされた階層

OLAP キューブには、複数の階層を含めることができます。複数の階層のデータを分析に含ませる場合は、階層をネストします。

“ネストされた階層”とは、同じ軸に2つ以上の階層を配置することです。たとえば、異なる地域の売上高を複数の会計年度にまたがって表示するとします。この場合には、1つの軸に "<会計年度日付>" 階層と "<地域>" 階層をネストできます。


関連情報

[ネストされた階層 \[108 ページ\]](#)

4.6 分析の削除

使用されていない分析と、その分析に関連するすべてのチャートコンポーネントおよびクロスタブコンポーネントを削除できます。

4.6.1 分析を削除する

1. [\[アウトライン\]](#) パネルで、分析を選択します。
2.  [\[アウトライン\]](#) パネルで、[\[削除\]](#) をクリックします。

4.7 レイアウトの自動更新

デフォルトでは、レイアウトを変更するたびに、分析に関連するすべてのクロスタブコンポーネントとチャートコンポーネントが自動更新されます。たとえば、行に階層を追加したり、フィルタを適用したりすると、その分析に関連するクロスタブは自動更新され、追加した階層と適用したフィルタが表示されるようになります。

ただし、データをデータソースから取得中に、自動更新によって一時的に遅延が生じることがあります。多くの階層やフィルタを伴う複合分析を定義する際には、レイアウトの自動更新を一時的に無効にできます。分析定義の完了後に、自動更新を有効化してから、データの分析を開始できます。

4.7.1 レイアウトの自動更新を切り替える

1. クロスタブコンポーネントまたはチャートコンポーネントを選択します。
2. ツールバーで、[自動更新] をクリックします。
分析に関係するすべてのクロスタブコンポーネントとチャートコンポーネントが一時的に無効になります。

5 クロスタブ

このセクションでは、クロスタブの追加および使用方法について説明します。

5.1 Analysis クロスタブの概要

クロスタブコンポーネントは、キューブからのデータを表示するグリッドであり、スプレッドシートに似ています。大抵の場合には、ほとんどのデータ分析タスクはクロスタブを使用して実行されます。たとえば、クロスタブのデータの並び替え、計算の追加、条件付き書式設定の追加、分析に関係ないデータのフィルタをできます。

次の図に、Analysis クロスタブの要素を示します。

Product Model Category	Internet Sales Amount	Internet Order Quantity	Internet Extended Price	Internet Tax Amount	Internet Freight Cost	Internet Profit
All Products	29,358,677.2	60,398	\$ 29,358,677.22	\$ 2,348,694.23	\$ 733,969.61	\$ 17,275,013.38
Accessories	700,760.0	36,092	\$ 700,759.96	\$ 56,060.80	\$ 17,520.56	\$ 627,128.64
Bikes	28,318,144.7	15,205	\$ 28,318,144.65	\$ 2,265,451.62	\$ 707,954.31	\$ 16,844,738.72
Clothing	339,772.6	9,101	\$ 339,772.61	\$ 27,181.81	\$ 8,494.74	\$ 304,096.06
Components						

1. 行の階層またはディメンション
2. 列の階層またはディメンション
3. 行メンバー
4. 列メンバー

クロスタブは3つの軸によって構成されますが、画面上にはそのうちの2つのみ表示されます。

- 行軸：データの行を表示する垂直軸。
- 列軸：データの列を表示する水平軸。
- バックグラウンドフィルタ軸、またはスライス軸: 2次元クロスタブ表示に垂直な軸。

行軸に配置された階層を行階層と呼びます。同様に、列階層とバックグラウンドフィルタ階層を分析に使用することもできます。

行階層と列階層では、クロスタブの複数のメンバーを同時に見ることができます。ただし、バックグラウンドフィルタ階層では、クロスタブのデータのスライスを常に固定します。バックグラウンドフィルタ階層で選択したメンバーをバックグラウンドフィルタメンバーまたはスライスメンバーと呼びます。たとえば、"<週>"がバックグラウンドフィルタ階層である場合には、週をバックグラウンドフィルタメンバーとして選択できます。

SAP BW や Microsoft Analysis Services などの OLAP プロバイダでは、階層の複数のメンバーをバックグラウンドフィルタとして選択できます。ただし、メジャーディメンションの複数のメンバーをバックグラウンドフィルタとして選択することはできません。

行軸、列軸、またはバックグラウンドフィルタ軸で使用されていないキューブのすべての階層には、クロスタブのデータを生成するためにデフォルトメンバーが使用されます。したがって、他のすべての階層にはデフォルトメンバーが使用されるため、行軸と列軸にのみ階層を配置することで、有効な分析を生成できます。バックグラウンドフィルタに階層を配置し、デフォルトメンバーを変更しない場合には、クロスタブのデータも変更されません。

行軸または列軸に複数のディメンションや階層を表示することもできます。たとえば、"<メジャー>" ディメンションと "<年>" 階層の両方を同じ軸に配置することで、数年間の "<メジャー>" ディメンションからのデータを表示できます。これを“ネストされた階層”と呼びます。

Analysis, edition for OLAP では、クロスタブの行ヘッダまたは列ヘッダのディメンションおよびメジャーが固定されます。これにより、データの複数の行または列を分析するためにスクロールしても、行ヘッダと列ヘッダが表示されます。

関連情報

[クロスタブの追加 \[41 ページ\]](#)

[クロスタブへのデータの追加 \[42 ページ\]](#)

[分析 \[33 ページ\]](#)

[OLAP について \[179 ページ\]](#)

[タスクパネルリファレンス \[185 ページ\]](#)

[ネストされた階層 \[108 ページ\]](#)

5.2 クロスタブの追加

クロスタブやチャートの種類のようなビジュアルコンポーネントは、ツールバーを使用して分析ウィンドウに追加します。クロスタブを追加するには、[クロスタブ] ボタンをクリックするか、または [クロスタブ] ボタンを分析ウィンドウヘドラッグします。

関連情報

[クロスタブへのデータの追加 \[42 ページ\]](#)

[分析 \[33 ページ\]](#)

5.2.1 クロスタブを分析ウィンドウを追加する



ツールバーの[[クロスタブ](#)] ボタンをクリックします。

コンポーネントがシート上の既存コンポーネントの下または右に追加されます。コンポーネントの位置やサイズは、必要に応じて後で変更できます。

あるいは、ツールバーから[[クロスタブ](#)] ボタンをドラッグすることで、分析ウィンドウの特定の場所にクロスタブを配置することもできます。

① 注記

クロスタブにデータが表示される前に、データソースをシートに追加し、データをクロスタブに追加する必要があります。

関連情報

[OLAP データソースへの接続 \[144 ページ\]](#)

[クロスタブへのデータの追加 \[42 ページ\]](#)

[コンポーネントのサイズ変更および移動 \[120 ページ\]](#)

5.3 クロスタブへのデータの追加

新しい Analysis ワークスペースを作成すると、そのワークスペースには空のクロスタブが含まれます。データを追加するには、ディメンションと階層をメタデータエクスプローラからクロスタブへ追加します。

クロスタブに少なくとも 1 つのメジャーを配置すると、そのクロスタブにはデータが移入されます。これで分析を実行できるようになります。

関連情報

[クロスタブにデータを追加する \[21 ページ\]](#)

[クロスタブの追加 \[41 ページ\]](#)

[分析 \[33 ページ\]](#)

6 チャート

このセクションでは、使用できるチャートの種類でビジネスデータを視覚化する方法について説明します。

6.1 Analysis チャートの概要

チャートをワークスペースに追加して、データをグラフィック表示できます。チャートは、データの不規則性や傾向を強調し、その領域について重点的にビジネス分析を行うために役立ちます。

データの視覚化に役立ついくつかのチャートの種類があります。

- [集合棒チャートと集合縦棒チャート \[47 ページ\]](#)
- [積み上げ棒チャートと積み上げ縦棒チャート \[47 ページ\]](#)
- [100% 積み上げ棒チャートと 100% 積み上げ縦棒チャート \[48 ページ\]](#)
- [立体縦棒チャート \[48 ページ\]](#)
- [複数折れ線チャート \[48 ページ\]](#)
- [複数円チャート \[48 ページ\]](#)
- [散布図 \[49 ページ\]](#)
- [ボックスプロットチャート \[49 ページ\]](#)
- [バブルチャート \[49 ページ\]](#)
- [レーダーチャート \[50 ページ\]](#)
- [ウォーターフォールチャート \[50 ページ\]](#)

チャートコンポーネントとクロスタブコンポーネントは分析にリンクされます。一般的な分析シナリオでは、クロスタブコンポーネントをまず作成してから、チャートコンポーネントをメイン分析にリンクするサブ分析として追加します。両方のコンポーネントで同じデータが表示され、どちらか一方のコンポーネントが変更されると、両方のコンポーネントが同時に更新されます。この対話操作で分析を繰り返し定義したり、絞り込んだり、変更の結果をリアルタイムでグラフィック表示したりできます。

フォーカス分析をオンにすると、サブ分析ではメイン分析のデータのサブセットのみが表示されます。たとえば、メイン分析にはクロスタブを使用して、フォーカスサブ分析にはチャートを使用できます。その結果、クロスタブのデータを選択すると、チャートにはデータの選択したサブセットのみが表示されます。

現在の分析へのチャートサブ分析のリンクを解除して、そのチャートサブ分析を新たな個別分析に変換することもできます。

チャートは簡単にカスタマイズできます。チャートの種類やチャートの表示方法を変更して、より分かりやすくすることができます。チャートのデータを展開して、データを詳しく調べることもできます。チャート軸を交換することで、表示が改善されることもあります。

このセクションでは、チャートの種類、シートへのチャートの追加方法、チャートへのデータの追加方法、およびチャートの外観のカスタマイズ方法について説明します。

関連情報

[分析 \[33 ページ\]](#)
[サブ分析 \[61 ページ\]](#)
[チャートの追加 \[44 ページ\]](#)
[チャートへのデータの追加 \[45 ページ\]](#)
[チャートの種類 \[46 ページ\]](#)
[チャート内のスクロール \[53 ページ\]](#)
[チャートのカスタマイズ \[54 ページ\]](#)
[チャートラベルの書式設定 \[128 ページ\]](#)

6.2 チャートの追加

クロスタブやチャートの種類のようなビジュアルコンポーネントは、ツールバーを使用して分析ウィンドウに追加します。チャートを追加するには、チャートボタンをクリックするか、または場合によってはチャートボタンを分析ウィンドウヘドラッグします。チャートボタンの一部は個々のチャートの種類を集めたファミリを表しています。たとえば、縦棒チャートファミリには、積み上げ縦棒チャートや立体縦棒チャートなどのチャートが含まれます。

関連情報


[チャートへのデータの追加 \[45 ページ\]](#)
[チャートの種類 \[46 ページ\]](#)
[チャート内のスクロール \[53 ページ\]](#)
[チャートのカスタマイズ \[54 ページ\]](#)

6.2.1 分析ウィンドウへチャートを追加する

ツールバーのチャートボタンのいずれかをクリックします。

① 注記

チャートボタンの一部はチャートのファミリを表しています。ボタンをクリックして、デフォルトのチャートの種類をそのファミリからシートに追加できます。または、ボタンの横にある矢印をクリックして、そのファミリ内の使用可能なチャートの種類の中から選択できます。

 たとえば、[棒チャート]ボタンの横にある矢印をクリックすると、使用可能な棒チャートの種類のリストが表示されます。チャートの種類のいずれか1つを選択すると、このチャートが分析ウィンドウに追加されます。

コンポーネントがシート上の既存コンポーネントの下または右に追加されます。コンポーネントの位置やサイズは、必要に応じて後で変更できます。

または、ツールバーのチャートボタンをドラッグすることにより、チャートを分析ウィンドウ内の指定した位置に配置できます。チャートコンポーネントをマウスポインタの位置に配置できるかどうかはカーソルによって示されます。マウスポインタが有効なドロップゾーン内にある場合、そのドロップゾーンは強調表示されます。

① 注記

チャートファミリのボタンを分析ウィンドウヘドラッグすると、そのチャートファミリのデフォルトの種類のチャートが分析ウィンドウに追加されます。チャートの種類は、必要に応じて後で変更できます。

① 注記

データをチャートに表示するには、データソースをシートに追加し、データをチャートに追加する必要があります。

関連情報

[OLAP データソースへの接続 \[144 ページ\]](#)

[チャートへのデータの追加 \[45 ページ\]](#)

[チャートの種類を変更する \[52 ページ\]](#)

[コンポーネントのサイズ変更および移動 \[120 ページ\]](#)

6.3 チャートへのデータの追加

分析を含むシートにチャートを追加すると、チャートはサブ分析に追加され、選択した分析にリンクされます。そのため、分析が事前に定義されている場合には、チャートにデータが自動的に埋め込まれます。

たとえば、1つのシートに1つのクロスタブのみが含まれていて、そのクロスタブが分析の定義に使用されている場合、つまりデータがクロスタブに追加された場合には、そのシートに新しいチャートを追加すると、チャートにはクロスタブと同じデータが埋め込まれます。

空白のクロスタブと未定義の分析のみを含む新しいシートにチャートを追加する場合には、チャートにデータを追加するために分析を定義する必要があります。

チャートコンポーネントを使用して、分析を定義することもできます。

関連情報

[チャートの追加 \[44 ページ\]](#)

[分析 \[33 ページ\]](#)

[サブ分析 \[61 ページ\]](#)

[チャートの種類 \[46 ページ\]](#)
[チャート内のスクロール \[53 ページ\]](#)
[チャートのカスタマイズ \[54 ページ\]](#)

6.3.1 空のチャートコンポーネントを使用した分析の定義

チャートコンポーネントのみを含むシートを作成する場合には、空のチャートコンポーネントを使用して分析を作成できます。最初にクロスタブコンポーネントの分析を定義する必要はありません。

6.3.1.1 チャートコンポーネントを使用して分析を作成する

1. ワークスペースに少なくとも1つのデータソースが追加されていることを確認します。
2. 新規シートまたは既存シートで、すべてのクロスタブコンポーネントとチャートコンポーネントを削除します。
3. 空のシートにチャートコンポーネントを配置します。
4. メタデータエクスプローラで、チャートに追加するディメンションまたは階層を選択します。
5. 階層を [\[レイアウト\]](#) パネルの該当する領域にドラッグします。
6. 分析するすべての階層が [\[レイアウト\]](#) パネルに配置されるまで、ステップ 4 と 5 を繰り返します。






生成された分析が有効な場合には、チャートには分析から返されたデータが表示されます。












関連情報

[分析 \[33 ページ\]](#)

6.4 チャートの種類

データの視覚化に役立ついくつかのチャートの種類が提供されています。

 縦棒チャート	 集合縦棒チャート	集合棒チャートと集合縦棒チャート [47 ページ]
	 積み上げ縦棒チャート	積み上げ棒チャートと積み上げ縦棒チャート [47 ページ]
	 完全な積み上げ縦棒チャート	100% 積み上げ棒チャートと 100% 積み上げ縦棒チャート [48 ページ]
	 立体棒チャート	立体縦棒チャート [48 ページ]

 棒チャート	 集合棒チャート	集合棒チャートと集合縦棒チャート [47 ページ]
	 積み上げ棒チャート	積み上げ棒チャートと積み上げ縦棒チャート [47 ページ]
	 完全な積み上げ棒チャート	100% 積み上げ棒チャートと 100% 積み上げ縦棒チャート [48 ページ]
折れ線チャート	 複数折れ線チャート	複数折れ線チャート [48 ページ]
円チャート	 複数円チャート	複数円チャート [48 ページ]
その他のチャート	 散布図	散布図 [49 ページ]
	 バブルチャート	バブルチャート [49 ページ]
	 ボックスプロットチャート	ボックスプロットチャート [49 ページ]
	 レーダーチャート	レーダーチャート [50 ページ]
	 ウォーターフォールチャート	ウォーターフォールチャート [50 ページ]

関連情報

[チャートリファレンス \[213 ページ\]](#)
[チャートの追加 \[44 ページ\]](#)
[チャートへのデータの追加 \[45 ページ\]](#)
[チャート内のスクロール \[53 ページ\]](#)
[チャートのカスタマイズ \[54 ページ\]](#)

6.4.1 棒チャートと縦棒チャート

6.4.1.1 集合棒チャートと集合縦棒チャート

集合棒チャートと集合縦棒チャートは、カテゴリ間で、または一定期間内で比較した値を表示します。たとえば、各地域の毎月の売上げなどです。いくつかの値("クラスタ")が各カテゴリや期間で一緒にグループ化されて表示されます。

6.4.1.2 積み上げ棒チャートと積み上げ縦棒チャート

積み上げ棒チャートと積み上げ縦棒チャートには、関連する値の集合間の相対的な割合と全体に占める割合が表示されます。積み上げ棒チャートは 100% 積み上げ棒チャートに似ていますが、積み上げ棒チャートは各メンバーが合

計に占める絶対的なパーセンテージを表すのに対して、100% 積み上げチャートは各メンバーが合計に占める相対的なパーセンテージを表します。

たとえば、製品ごとの売上げを表す縦棒チャートを作成する場合には、積み上げ縦棒チャートを使用することで、数年間のデータを積み重ねて表示できます。

6.4.1.3 100% 積み上げ棒チャートと 100% 積み上げ縦棒チャート

完全な積み上げ棒チャートと完全な積み上げ縦棒チャートは、全体に占める各メンバーのパーセンテージを視覚的に表現します。100% 積み上げチャートは積み上げチャートに似ていますが、すべての棒または縦棒の長さが同じであり、合計の 100% を表している点が異なります。100% 積み上げチャートは各メンバーが合計に占める相対的なパーセンテージを表すのに対して、積み上げチャートはメンバーが合計に占める絶対的なパーセンテージを表します。100% 積み上げ棒チャートの各セグメントのサイズは、各メンバーが合計に占めるパーセンテージを表します。

6.4.1.4 立体縦棒チャート

立体縦棒チャートは、3 次元のデータをビジュアルで比較する場合に使用されます。通常、立体チャートは、カテゴリ間および一定期間のデータ系列を表示します。

6.4.2 複数折れ線チャート

折れ線チャートは、一定期間またはカテゴリ間のデータの傾向を示す場合に使用します。データ値が存在する折れ線の各ポイントにマーカーを表示できます。

6.4.3 複数円チャート

円チャートは、項目の合計に比例した、データ系列を構成する項目のサイズを表示します。円チャートは、値の相対的寄与率を表示するために使用され、データ内の重要な要素を強調する場合に便利です。

円チャートを見やすくするために、小さな円スライスのラベルを非表示にできます。円スライスのラベルにパーセント値または実際の値のどちらかを表示するように設定することもできます。

関連情報

[円チャートラベルの設定 \[59 ページ\]](#)

[チャートラベルの書式設定 \[128 ページ\]](#)

6.4.4 その他のチャート

6.4.4.1 散布図

散布図は、2つの変数またはメジャーの相関関係を示すために使用します。データは、点のセットとして表示され、チャートのXY座標は、2つのメジャーの値によって指定されます。たとえば、散布図がチャートの左下から右上への直線で大まかにグループ化されたデータ要素群を表示している場合、正の相関関係を示しています。

折れ線チャートが非数値ラベルとして1つの値セットを扱うのに対して、散布図は数値データとして2つの値セットを扱います。そのため、散布図には2つのメジャーだけが必要です。後で分析が変更され、チャートに含まれるメジャーが2つ未満になった場合、散布図にはデータが表示されません。

[プロパティ] パネルから、X軸およびY軸にプロットできるメジャーを指定できます。

6.4.4.2 バブルチャート

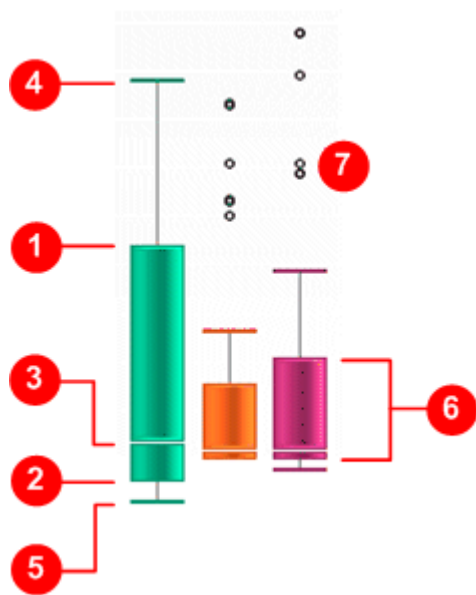
バブルチャートは、3つの変数またはメジャーを比較するものです。これは散布図と似ていますが、3番目のメジャーを表すバブルサイズがあります。たとえば、バブルチャートを使用すると、特定の地域で売れた製品の個数を効果的に表示できます。バブルが大きくなるほど、その地域で多く売れたことを示すことができます。

折れ線チャートが数値データとして1つの値セットだけを扱い、散布図が数値データとして2つの値セットを扱うのに対して、バブルチャートは数値データとして3つの値セットを扱います。そのため、バブルチャートには少なくとも3つのメジャーが必要です。後で分析が変更され、チャートに含まれるメジャーが2つ以下になった場合、バブルチャートはデータを表示できません。

[プロパティ] パネルでは、X軸とY軸にプロットされる利用可能メジャーと、バブルサイズで表されるメジャーを指定できます。

6.4.4.3 ボックスプロットチャート

ボックスプロットは、ヒストグラムや縦棒チャートには適さない小さなデータセットを分析するのに便利です。ボックスプロットのサイズは小さいため、チャート内の複数のボックスプロットを比較するのは容易です。ボックスプロットはヒストグラムの代替や補完に適しており、複数の同時比較を表示するのに通常優れています。



1. 第3四分位点
2. 第1四分位点
3. 中央値
4. 最大値、または最大の非外れ値
5. 最小値、または最小の非外れ値
6. 四分位範囲 (IQR)
7. 外れ値

四分位数間領域 (IQR) は、3 番目の四分位を 1 番目の四分位で引いたものです。1 番目の四分位から $1.5 \times \text{IQR}$ より小さい値、または 3 番目の四分位から $1.5 \times \text{IQR}$ より大きい値は、“異常値”と見なされます。

異常値は、ボックスプロットにおいて小さな円で表示されます。データセットに異常値が含まれていない場合、下側の縦線は最小値に、上側の縦線は最大値に対応します。データセットに異常値が含まれている場合、下側の縦線は最小の非異常値、上側の縦線は最大の非異常値に対応します。

デフォルトでは、子メンバーが分析に含まれている場合、その親メンバーはプロットされません。

6.4.4.4 レーダーチャート

レーダーチャートは、複数のデータ系列の値を比較して、それらのデータセットの概要を視覚的に表示するのに便利です。たとえば、さまざまな都市の年間降雨量をレーダーチャートにプロットする場合、チャート上で大きな形になるデータ系列は、年間降雨量が多いことを表しています。また、各都市のプロットの実際の形は、全体的な比較表示になります。

6.4.4.5 ウォーターフォールチャート

ブリッジチャートとも呼ばれるウォーターフォールチャートでは、縦棒が表示されます。1 つ 1 つの縦棒は、前の縦棒が終わるレベルから始まるため、縦棒は浮いているように見えます。このタイプのチャートは、連続する正の変化と負の変化を表示するときに便利です。

ウォーターフォールチャートは、単一のメンバーについて複数のメジャーを比較する場合や、複数の異なるメンバーについて単一のメジャーの値を比較する場合に役立ちます。

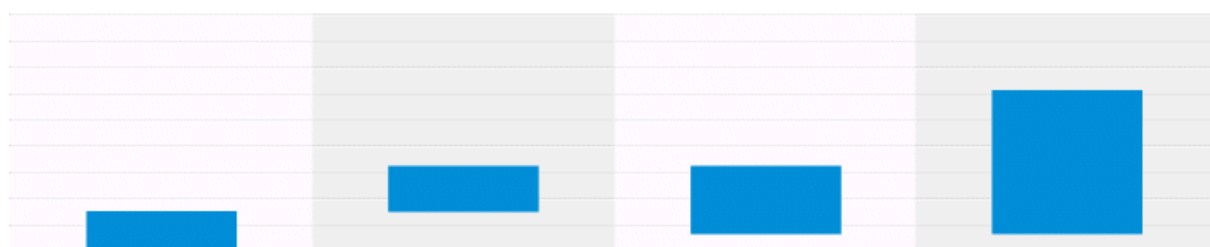
ウォーターフォールチャートの軸は1つであるため、ウォーターフォールチャートを追加すると、フォーカス分析がデフォルトで有効化されます。このチャートには、クロスタブで選択した行のデータが表示されます。

ウォーターフォールチャートは1色のみで表示されます。初期値、合計、小計、正の値、または負の値に、異なる色を割り当てることはできません。

ウォーターフォールチャートには次の2種類があります。チャートの種類は、クロスタブの列に含まれるデータによって決まります。

- 単純なウォーターフォールチャート: メジャー、または列のフラットディメンションでクロスタブとリンクされます。
- 複雑なウォーターフォールチャート: 階層列のデータでクロスタブとリンクされます。

単純なウォーターフォールチャート



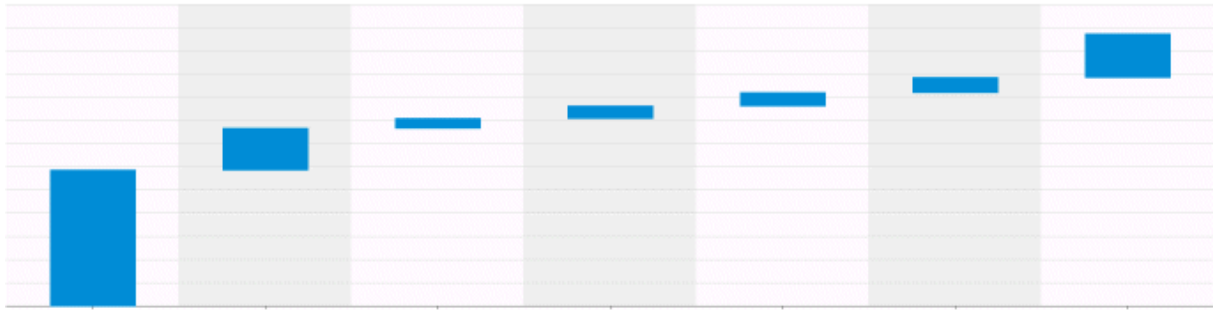
たとえば、製品在庫を表示する分析がある場合は、正味在庫を視覚化する単純なウォーターフォールチャートを作成できます。在庫に関連するメジャー (倉庫在庫数、返品数、店舗在庫数、受注文数など) をクロスタブの列軸に配置し、製品を行軸に配置します。ウォーターフォールチャートには、選択した製品の在庫全体の値に対するメジャーごとの正味の累積影響が表示されます。倉庫在庫数、店舗在庫数、受注文数などのメジャーは全体の在庫量を増やし、返品数、破損数などのメジャーは全体の在庫量を減らします。最後の列は全体の在庫レベルを示します。クロスタブで別の製品を選択すると、チャートが動的に更新され、選択した製品のデータが表示されます。

複雑なウォーターフォールチャート

複雑なウォーターフォールチャートには2つの表示モードがあります。

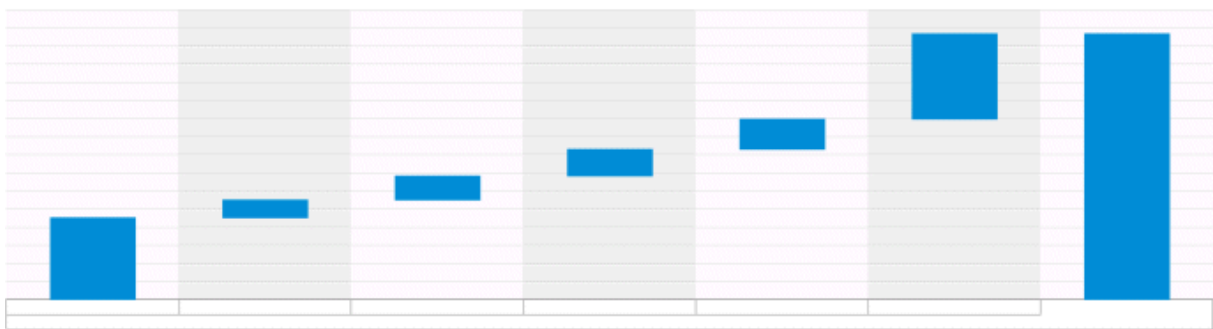
クロスタブの列に複数レベルの階層がある場合、デフォルトでは親メンバーと子メンバーが区別されません。親メンバーの列は他の列と同様に動作し、親メンバーと子の両方がチャートの合計に加算されます。

下のイメージの最初の列は子の合計を表示する親メンバーで、残りの列は親メンバーの子です。



ただし、ウォーターフォールチャートに[階層別ラベルの表示]と[親の合計の表示]を選択すると、親メンバーが子から区別され、列の合計値に加算されなくなります。代わりに、最初の子と同じレベルから親メンバーの浮動列が始まります。

下のイメージでは、子の合計を表示する親列がチャートの右側に表示されています。



関連情報

[サブ分析でのデータのサブセットの表示 \[62 ページ\]](#)

[ウォーターフォールチャートでの親の合計の表示 \[57 ページ\]](#)

6.4.5 チャートの種類を変更する

1. チャートコンポーネントを選択します。
2. ツールバーで、[挿入]を選択してから、[次に切替]をクリックします。
3. 切り替えるチャートの種類を選択します。

あるいは、チャートグラフィックを右クリックして、切り替えるチャートの種類を選択します。

関連情報

[チャートの種類 \[46 ページ\]](#)

[チャートへのデータの追加 \[45 ページ\]](#)

6.5 チャート内のスクロール

大きなデータセットを使用する場合に、すべてのデータを1つのチャートに表示すると、チャート上の個々のライザや線を区別しにくくなったり、区別できなくなったりすることがあります。ほとんどの種類のチャートでは、データセットが大きすぎて表示が見にくいと、Analysis によって範囲スライダがチャートコンポーネントに追加されます。



1. 概要スクロールバー
2. 選択範囲
3. 範囲スライダバー
4. [非表示/復元] ボタン
5. [ページ移動] ボタン

チャートの範囲スライダを使用すると、データセットの一部を選択してメインのチャートグラフィックに展開および表示できるので、個々のバーまたはマーカが見やすくなります。範囲スライダを使用して、チャート内をスクロールすることもできます。

① 注記

範囲スライダの端にある [非表示/復元] ボタンをクリックして、範囲スライダを非表示にすることができます。範囲スライダを復元するには、ボタンをもう一度クリックします。

選択範囲のサイズの定義

まず、範囲スライダの範囲スライダバーをドラッグして、選択範囲のサイズを定義します。

デフォルトまたはシャドーのチャートスタイルを使用すると、選択範囲が、範囲スライダに白い背景で表示されます。また、プレゼンテーションスタイルを使用すると黒い背景で表示されます。

範囲スライダ内での選択範囲の移動

範囲スライダ内で選択範囲をドラッグして、現在範囲スライダに示されているデータの別のサブセットを表示します。または、範囲スライダの端のページ移動ボタンを使用して、選択範囲を移動することができます。

フルデータセット内の範囲スライダのスクロール

データセットが非常に大きい場合には、範囲スライダにデータセットの一部が表示されないことがあります。その場合には、概要スクロールバーを使用してフルデータセット内の範囲スライダをスクロールします。

関連情報

[チャートリファレンス \[213 ページ\]](#)

[チャートの追加 \[44 ページ\]](#)

[チャートへのデータの追加 \[45 ページ\]](#)

[チャートの種類 \[46 ページ\]](#)

[チャートのカスタマイズ \[54 ページ\]](#)

6.6 チャートのカスタマイズ

チャートの表示をカスタマイズするためのいくつかのオプションがあります。それらのすべてのオプションは [プロパティ] パネルから選択できます。

関連情報

[チャートの追加 \[44 ページ\]](#)

[チャートへのデータの追加 \[45 ページ\]](#)

[チャートの種類 \[46 ページ\]](#)

[チャート内のスクロール \[53 ページ\]](#)

6.6.1 サブ分析名と説明

サブ分析名はチャートコンポーネントのタイトルバーに表示され、印刷出力に含めることができます。印刷出力には説明も含めることができます。

関連情報

[チャートリファレンス \[213 ページ\]](#)

6.6.1.1 チャートの名前プロパティと説明プロパティを設定する

1. [タスク] パネルで、[[プロパティ](#)] ボタンをクリックし、[[プロパティ](#)] パネルを表示します。
2. チャートをクリックして選択します。
3. [[プロパティ](#)] パネルの [[補助分析名](#)] フィールドにチャート名を入力します。
ここで入力した名前はチャートのタイトルバーに表示され、[[アウトライン](#)] パネルでチャートを特定するために使用されます。
4. チャートを印刷する際にテキストを含めるには、[[説明](#)] フィールドにコメントを入力します。
5. [[適用](#)] をクリックします。

6.6.2 チャートスタイル

事前に定義されているいくつかのスタイルから選択して、チャートを表示できます。

関連情報

[チャートリファレンス \[213 ページ\]](#)

6.6.2.1 チャートのスタイルを変更する

1. [タスク] パネルで、[[プロパティ](#)] ボタンをクリックし、[[プロパティ](#)] パネルを表示します。
2. チャートをクリックして選択します。
3. [[プロパティ](#)] パネルで、[[スタイル](#)] プロパティの値を選択してから、[[適用](#)] をクリックします。

6.6.3 チャートのカラーパレット

事前に定義されているいくつかのカラーパレットから選択して、チャートを表示できます。

関連情報

[チャートリファレンス \[213 ページ\]](#)

6.6.3.1 チャートのカラーパレットを変更する

1. [タスク] パネルで、[プロパティ] ボタンをクリックし、[プロパティ] パネルを表示します。
2. チャートをクリックして選択します。
3. [プロパティ] パネルで、[パレット] プロパティの値を選択してから、[適用] をクリックします。

6.6.4 表示フォント

チャートで使用する文字のフォントを設定できます。

関連情報

[チャートリファレンス \[213 ページ\]](#)

6.6.4.1 チャートで使用するフォントを変更する

1. [タスク] パネルで、[プロパティ] ボタンをクリックし、[プロパティ] パネルを表示します。
2. チャートをクリックして選択します。
3. [プロパティ] パネルで、[フォント] プロパティのフォントを選択してから、[適用] をクリックします。

6.6.5 チャートの合計表示

クロスタブに合計が表示されている場合には、同じ分析にリンクされたチャートの合計を表示させることができます。

関連情報

[合計、親、および集計 \[100 ページ\]](#)

6.6.5.1 チャートの合計を表示させる

1. [タスク] パネルで、[プロパティ] ボタンをクリックし、[プロパティ] パネルを表示します。
2. チャートをクリックして選択します。
3. [プロパティ] パネルで、[合計を表示] チェックボックスを選択してから、[適用] をクリックします。

6.6.6 ウォーターフォールチャートでの親の合計の表示

列に複数レベルの階層を持つクロスタブを基準にしたウォーターフォールチャートがある場合は、階層の親メンバーと子メンバーを区別するチャートを構成できます。

列に複数レベルの階層を持つクロスタブを基準にするウォーターフォールチャートで [親の合計の表示] と [階層別ラベルの表示] を選択すると、親メンバーの列は浮動列の合計高に追加されません。

関連情報

[ウォーターフォールチャート \[50 ページ\]](#)

6.6.6.1 ウォーターフォールチャートで親の合計を表示する

クロスタブ列に複数レベルの階層を追加し、クロスタブを基準にしたウォーターフォールチャートを挿入してからでなければ、この手順は完了できません。

1. [タスク] パネルで、[プロパティ] ボタンをクリックし、[プロパティ] パネルを表示します。
2. ウォーターフォールチャートをクリックして選択します。
3. [プロパティ] パネルで、[階層別ラベルの表示] チェックボックスと [親の合計の表示] チェックボックスを選択してから、[適用] をクリックします。

6.6.7 階層別チャートラベルの表示

階層別チャートラベルは、チャート上でメンバー間の親子関係を表します。

6.6.7.1 チャートに階層別ラベルを表示する

1. [タスク] パネルで、[プロパティ] ボタンをクリックし、[プロパティ] パネルを表示します。
2. チャートをクリックして選択します。

3. [\[プロパティ\]](#) パネルで、[\[階層別ラベルの表示\]](#) チェックボックスを選択してから、[\[適用\]](#) をクリックします。

6.6.8 チャートの凡例の非表示

チャートの凡例を表示するかどうかを制御できます。

6.6.8.1 チャートの凡例を非表示にする

1. [\[タスク\]](#) パネルで、[\[プロパティ\]](#) ボタンをクリックし、[\[プロパティ\]](#) パネルを表示します。
2. チャートをクリックして選択します。
3. [\[プロパティ\]](#) パネルで、[\[凡例の表示\]](#) チェックボックスの選択を解除してから、[\[適用\]](#) をクリックします。

6.6.9 チャート軸ラベル

チャート軸にラベルを追加できます。

関連情報

[チャートリファレンス \[213 ページ\]](#)

6.6.9.1 チャート軸にラベルを追加する

1. [\[タスク\]](#) パネルで、[\[プロパティ\]](#) ボタンをクリックし、[\[プロパティ\]](#) パネルを表示します。
2. チャートをクリックして選択します。
3. [\[プロパティ\]](#) パネルで、次のフィールドのいずれかにラベルを入力します。
 - X 軸のラベル
 - Y 軸のラベル
 - Z 軸のラベル
4. [\[適用\]](#) をクリックします。

6.6.10 Y 軸の目盛とシンボル

Y 軸の目盛を変更できます。

関連情報

[チャートリファレンス \[213 ページ\]](#)

6.6.10.1 Y 軸の目盛とシンボルを設定する

1. [タスク] パネルで、[プロパティ] ボタンをクリックし、[プロパティ] パネルを表示します。
2. チャートをクリックして選択します。
3. [プロパティ] パネルで、[Y 軸目盛] プロパティの値を選択してから、[適用] をクリックします。
[Y 軸目盛シンボル] プロパティに使用するシンボルを入力することもできます。

6.6.11 散布図とバブルチャートのメジャー

散布図では、データを表示するための X 軸と Y 軸の値のセットが必要です。バブルチャートでは、バブルのサイズを表す第 3 の値も必要です。分析で使用するメジャーのうち、どのメジャーを X 軸と Y 軸にプロットするかを選択できます。バブルサイズに使用するメジャーも選択できます。

6.6.11.1 散布図とバブルチャートにメジャーを定義する

1. [タスク] パネルで、[プロパティ] ボタンをクリックし、[プロパティ] パネルを表示します。
2. チャートをクリックして選択します。
3. [プロパティ] パネルで、X 軸と Y 軸に適用するメジャーを選択します。
4. バブルチャートの場合には、バブルのサイズを表すメジャーも選択できます。
5. [適用] をクリックします。

6.6.12 円チャートラベルの設定

円チャートに複数の小さなスライスが含まれている場合、小さなスライスのラベルを非表示にできます。

円チャートのラベルには、デフォルトでパーセント値が表示されます。ラベルに実際の値を表示するように変更できます。

関連情報

[チャートラベルの書式設定 \[128 ページ\]](#)

6.6.12.1 円スライスのラベルを設定する

1. [タスク] パネルで、[プロパティ] ボタンをクリックし、[プロパティ] パネルを表示します。
2. チャートをクリックして選択します。
3. 小さな円スライスのラベルを非表示にするには、[プロパティ] パネルの [手動によるチャートラベルの非表示] チェックボックスを選択します。
[より小さいラベルを非表示にする] プロパティが有効になります。
4. [より小さいラベルを非表示にする] フィールドに 0 から 100 のパーセント値を入力します。
このパーセント値よりも小さい円スライスのラベルが非表示になります。
5. 円スライスのラベルにパーセント値ではなく実際の値を表示するには、[プロパティ] パネルの [実際の値の表示] を選択します。
6. [適用] をクリックします。

7 サブ分析

データを分析する場合、通常は主にクロスタブコンポーネントを中心に分析します。チャートなどの他のコンポーネントは、データを別の形式で視覚化することで分析を支援します。クロスタブコンポーネントを追加すると、元のクロスタブでデータの概要を表示しながら、分析の特定の領域に焦点を当てることができるため、これも分析に役立ちます。

このような補助的なコンポーネントがサブ分析です。サブ分析を追加すると、メイン分析にリンクされます。たとえば、チャートサブ分析を追加すると、メイン分析と同じデータがチャートに表示されます。メイン分析に対して行った変更は、チャートに反映されます。そのため、メンバーを分析から削除すると、そのメンバーはチャートサブ分析からも自動的に削除されます。

ただし、サブ分析に対して行った変更は、メイン分析に反映されません。たとえば、サブ分析で行と列を入れ替えても、メイン分析の行と列は変更されません。


フォーカス分析

サブ分析でメイン分析と同じデータを表示するのではなく、サブ分析でデータのサブセットのみを表示する必要があることがあります。たとえば、世界中の売上げを分析していて、ある国のデータに興味を持った場合には、“フォーカス分析”モードをオンにして、サブ分析でその国のデータのみを閲覧できます。

サブ分析の一時停止または固定

分析中にさらに閲覧したいデータを見つけたら、そのタスクを達成するためにサブ分析を追加します。しかし、サブ分析の閲覧中には、サブ分析の状態を維持したままで、メイン分析へ一時的に戻る必要が生じることがあります。それにはサブ分析を一時停止または固定します。

7.1 サブ分析を作成する

1. クロスタブまたはチャート内でクリックして、ワークスペースでの分析を選択します。
2. ツールバーで **[挿入]** タブを選択します。
3.  クロスタブサブ分析を挿入するには、**[クロスタブの挿入]** ボタンの横に表示されている矢印をクリックし、**[サブ分析の挿入]** を選択します。チャートサブ分析を挿入するには、チャートボタンのいずれかをクリックします。
サブ分析と、選択した分析へのリンクが作成されます。

7.2 サブ分析でのデータのサブセットの表示

サブ分析でデータのサブセットのみを閲覧する場合には、フォーカス分析モードをオンにできます。

フォーカス分析モードで分析のメンバーまたはセル範囲を選択すると、リンクされたサブ分析が更新され、選択したメンバーまたはセルのみが表示されます。この機能により、分析を何度も再定義する必要なく、分析のさまざまな部分に一時的に焦点を絞ることができます。たとえば、分析にヨーロッパのすべての国が含まれている場合、分析で "スイス" メンバーを選択できれば、スイスのデータのみをサブ分析で調べられます。

または、売上高を含むクロスタブがあり、これらの数字を図示するチャートを追加して、第 4 四半期の数字のみを表示させる必要があるとします。この目的を達成するために、新しい分析を作成して、その分析用に第 4 四半期のメンバーのみを選択することができます。同じ目的をより早く達成できる方法としては、まず、クロスタブにリンクされたチャートのサブ分析を追加します。次にクロスタブで、第 4 四半期を含むメンバーまたはセル範囲を選択すると、サブ分析チャートは自動的に更新され、第 4 四半期のデータのみが表示されます。

関連情報

[サブ分析のリンク解除 \[63 ページ\]](#)

7.2.1 データのサブセットに分析をフォーカスする

1. 分析を表すクロスタブまたはチャートをクリックするか、あるいは [\[アウトライン\]](#) パネルで分析を選択します。
2. ツールバーで [\[表示\]](#) を選択してから、[\[フォーカス分析\]](#) をクリックします。
リンクされたサブ分析には、メイン分析で選択されたデータのみが表示されるようになります。
3. メイン分析で、サブ分析に表示するメンバーの範囲を選択します。

クリックおよびドラッグして範囲を選択するか、[\[Shift\]](#) + [\[クリック\]](#) 操作で範囲を選択します。また、フォーカス分析で表示するメンバーどうしが隣接していない場合は、隣接するようにメンバーを並べ替えることもできます。

7.3 サブ分析の更新を一時停止する

1. 分析を表すクロスタブまたはチャートをクリックするか、あるいは [\[アウトライン\]](#) パネルで分析を選択します。
2. ツールバーで [\[表示\]](#) を選択してから、[\[サブ分析の更新\]](#) をクリックします。
リンクされたサブ分析は自動更新されなくなります。自動更新を再開するには、[\[サブ分析の更新\]](#) を再度クリックします。

7.4 サブ分析のリンク解除

分析を含むシートにクロスタブまたはチャートのサブ分析を追加すると、新しいコンポーネントはメイン分析にリンクされます。メインの分析で行った変更は、すべてのサブ分析に反映されます。メインの分析は、通常はクロスタブです。

ただし、分析中にはさらに閲覧を必要とするサブ分析データに遭遇することがあります。メイン分析の作業を続行している間にそのサブ分析を一時停止して現在の状態を一時的に固定するか、あるいはメイン分析とのリンクを解除してサブ分析を個別の分析に変換できます。

フォーカス分析モードをオンにすると、サブ分析ではメイン分析のデータのサブセットのみが表示されます。次にサブ分析のリンクを解除すると、サブ分析はフォーカス分析のみを含む別の分析に変換されます。一般的なワークフローでは、分析の操作から始め、データに興味深い事象を見つけ、サブ分析を追加し、フォーカス分析を使用して興味深いデータに集中してから、サブ分析のリンクを解除します。その後フォーカス分析にはいつでも戻ったり、または、別のシートにコピーしたりしてさらに詳しく調査できます。

関連情報

[サブ分析でのデータのサブセットの表示 \[62 ページ\]](#)

[サブ分析の更新を一時停止する \[62 ページ\]](#)

7.4.1 サブ分析のリンクを解除する

1. 分析ウィンドウでサブ分析コンポーネントを選択します。
2. ツールバーで **[表示]** を選択してから、**[サブ分析のリンク解除]** をクリックします。

8 データのフィルタリング

Analysis では、分析に関係のあるメンバーのみをクロスタブとチャートに含めて、重要なデータに焦点を絞るために、分析範囲を絞り込むことがしばしばあります。この操作をフィルタ処理といいます。

リストのメンバーを選択または選択解除することで、手動でフィルタできます。これは、メンバー別のフィルタ処理といいます。また、フィルタの条件を指定してメンバーをフィルタすることもできます。たとえば、`"Greater than 1000"` などの条件を指定します。これは、メジャー別のフィルタ処理といいます。

8.1 メジャー別のフィルタ処理

定義したルールに基づいて分析用のメンバーを動的に選択するには、階層をメジャー別にフィルタできます。

たとえば、世界各国での自転車の売上を分析しており、自転車の売上が特定のしきい値を超える `"<国>"` メンバーのみを分析に含める場合、自転車の売上が 100,000 を超えるメンバーを含めるように、`"<国>"` 階層でフィルタを定義することができます。

メンバー別のフィルタ処理とは異なり、メジャー別のフィルタ処理は動的です。つまり、データの表示を変更するたびに、フィルタが再度適用されます。たとえば、階層で `"上位 5"` というフィルタを追加すると、5 つのメンバーが表示されます。ここで、以前に分析から削除したメンバーを追加すると、追加したメンバーの一部が、表示されていた 5 つのメンバーの一部と置き換わることがあります。

1 つ以上のフィルタ条件、またはルールを作成してフィルタを定義します。たとえば、自転車の売上高が予想以下である国々で広告を拡大する場合、次のルールで構成されるフィルタを定義することができます。

- 下位 5
- より大きい (>) 100,000

このようなフィルタを `"<国>"` 階層に適用すると、自転車売上高が 100,000 を超える国の中で売上が下位 5 位までの国のみがクロスタブに表示されます。

① 注記

フィルタ処理は、書式設定されていないセルの元の値に対して行われます。セルデータに書式設定を追加すると、セルを除外したり含めたりする際に小さな矛盾が発生する原因となります。たとえば、100.00 と表示された場合でも、元の値が 100.005 であれば、100 より大きい数字だけを除外するフィルタを適用すると除外されることになります。

① 注記

メジャー別のフィルタ処理は、SAP HANA データソースではサポートされていません。

ターゲットレベル

階層でフィルタを定義する場合、フィルタを適用する階層内のレベルを選択します。たとえば、フィルタを "<地域>" 階層に適用する場合、"<国>" レベル、"<州>" レベル、または "<都市>" レベルを選択できます。"<都市>" レベルを選択すると、いくつかの都市が分析に含まれますが、州と国は影響を受けません。

デフォルトのターゲットレベルは階層の最上位です。

① 注記

SAP BW のデータソースの場合、メンバーのフラットリストで構成されるディメンションには、フィルタを定義するときにレベル選択フィールドを適用できません。

例: 売上の低い国の除外

会社の世界各国における自転車の売上を分析し、自転車の売上が高い都市に焦点を絞って分析するとします。自転車の売上が上位 50% に含まれる都市を分析に含めるために、フィルタを適用することができます。このようなフィルタを適用するには、次の手順に従います。

1. 行軸に "<製品>" 階層を配置します。
2. "<自転車>" メンバーのみがクロスタブに表示されるように、"<製品>" 階層のフィルタ処理を行います。
3. "<製品>" 階層内に "<国>" 階層をネストします。
4. "<売上>" メジャーを列軸に配置します。
5. "<国>" 階層をメジャー別にフィルタします。
6. ターゲットレベルを "<都市>" レベルに設定します。
7. フィルタの基準となるメジャーを "<売上>" に設定します。
8. 都市の上位 50% を含めるように、フィルタ条件を設定します。

複数のフィルタルール

複数のルールでフィルタを作成できます。たとえば [上位 30%] ルールおよび [下位 5] ルールを組み合わせたフィルタを作成することで、売上が上位 30% に含まれる製品の中で、売上の低い 5 つの製品を特定できます。

フィルタに複数のルールを追加する場合 [AND] または [OR] 演算子のいずれかを選択して、複数のフィルタルールがどのように機能するかを定義する必要があります。

- AND 演算子を使用すると、すべてのフィルタルールに一致するデータのみがクロスタブに表示されます。
- OR 演算子を使用すると、フィルタルール of のいずれかに一致するデータがクロスタブに表示されます。

ネストされた階層のフィルタ

軸上の複数の階層にフィルタを適用することができます。たとえば、行軸に 2 つの階層を配置し、各階層にフィルタを追加する場合、2 つの結果セットがクロス結合されます。

8.1.1 メジャー別の SAP BW データのフィルタ処理

Analysis でメジャー別に SAP BW 階層をフィルタ処理する場合、ターゲットレベルは指定しません。代わりに、次の動作が適用されます。

- フィルタは、階層の初期ビューに表示される親メンバーまたはリーフメンバー (階層をクロスタブに追加した直後に表示されるメンバー) にのみ適用されます。親メンバーを手動で展開または折りたたんでも、フィルタの動作は変わりません。
- フィルタを適用するメンバーを変更する場合、データをフィルタ処理する前に [\[レベルへの展開\]](#) 機能を使用します。[\[レベルへの展開\]](#) 操作を行うと、クロスタブに表示されているすべてのメンバーにフィルタが適用されます。
- フィルタの条件を満たす各メンバーの親メンバーも、それらの値に関係なく、フィルタ処理されたクロスタブにすべて表示されます。

関連情報

[クロスタブで特定のレベルまで階層を展開する \[105 ページ\]](#)

8.1.2 フィルタタイプ

フィルタの定義には、次の種類の条件を使用できます。

条件の種類	説明
上位 N	選択されたレベルで、上位 N 番目のメンバーを親ごとに表示します (SAP BW フラットリストでは使用できますが、SAP BW 階層では使用できません)。
上位 %	選択されたレベルで、上位 N % を占める親を表示します (SAP BW フラットリストでは使用できますが、SAP BW 階層では使用できません)。
上位合計 N	累積合計が N 以上の上位メンバーを表示します (SAP BW フラットリストでは使用できますが、SAP BW 階層では使用できません)。
下位 N	選択されたレベルで、下位 N 番目のメンバーを親ごとに表示します (SAP BW フラットリストでは使用できますが、SAP BW 階層では使用できません)。
下位 %	選択されたレベルで、下位 N % を占める親を表示します (SAP BW フラットリストでは使用できますが、SAP BW 階層では使用できません)。
下位合計 N	累積合計が N 以上の下位メンバーを表示します (SAP BW フラットリストでは使用できますが、SAP BW 階層では使用できません)。
より大きい	選択されたレベルで、指定された数値より大きいメンバーを表示します (SAP BW の場合は、指定された数値より大きい階層メンバーがすべて表示されます)。
以上	選択されたレベルで、指定された数値以上のメンバーを表示します (SAP BW の場合は、指定された数値以上の階層メンバーがすべて表示されます)。
より小さい	選択されたレベルで、指定された数値より小さいメンバーを表示します (SAP BW の場合は、指定された数値より小さい階層メンバーがすべて表示されます)。

条件の種類	説明
以下	選択されたレベルで、指定された数値以下のメンバーを表示します (SAP BW の場合は、指定された数値以下の階層メンバーがすべて表示されます)。
等しい	選択されたレベルで、指定された数値と等しいメンバーを表示します (SAP BW の場合は、指定された数値と等しい階層メンバーがすべて表示されます)。
等しくない	選択されたレベルで、指定された数値と等しくないメンバーを表示します (SAP BW の場合は、指定された数値と等しくない階層メンバーがすべて表示されます)。
Outside	選択されたレベルで、指定された 2 つの数値の範囲に含まれない値のメンバーを表示します。 指定された数値のどちらかと等しいメンバーは、表示されません。
範囲内	選択されたレベルで、指定された 2 つの数値の間の値のメンバーを表示します。指定された数値のどちらかと等しいメンバーも含まれます (SAP BW の場合は、指定された数値のどちらかと等しいメンバーも含め、指定された 2 つの数値の間の値のメンバーがすべて表示されます)。

8.1.3 メジャー別にフィルタする

1. [\[レイアウト\]](#) パネルで、フィルタを適用する階層を右クリックし [\[フィルタ\]](#) をポイントして [\[メジャー別\]](#) を選択します。
2. [\[フィルタ\]](#) パネルの [\[設定\]](#) 領域で、このフィルタのターゲットレベルを選択します。

① 注記

SAP BW データソース、またはメンバーのフラットリストで構成されるディメンションには、ターゲットレベルを適用できません。

3. [\[定義\]](#) 領域で、[\[基準元\]](#) リストからメジャーを選択します。
たとえば、売上高の数値に基づいて "[<製品>](#)" 階層にフィルタを適用する場合、[\[基準元\]](#) リストから "[<売上高>](#)" メジャーを選択します。
4. 次に、条件の種類を選択しオペランドを入力して、フィルタのルールを定義します。
たとえば、フィルタに [\[上位 5\]](#) ルールを追加する場合 [\[上位 N\]](#) の条件の種類を選択して、オペランドフィールドに [「5」](#) と入力します。適用できる条件の種類の詳細については、[フィルタタイプ \[66 ページ\]](#) を参照してください。
5. [\[追加\]](#) をクリックします。
6. 複数のルールでフィルタを定義する場合は、上の手順を繰り返して、フィルタにさらにルールを追加し [\[AND\]](#) または [\[OR\]](#) のいずれかを選択して複数のルールの評価方法を決定します。
[\[AND\]](#) または [\[OR\]](#) 演算子の詳細については、[メジャー別のフィルタ処理 \[64 ページ\]](#) の「複数のフィルタルール」を参照してください。
7. [\[OK\]](#) をクリックしてフィルタを適用します。

ターゲットの階層がフィルタ処理され、[レイアウト](#) パネルの階層名の横にフィルタアイコンが表示されます。

8.1.4 既存のフィルタを変更する

ルールを追加または削除して、既存のフィルタを編集できます。

1. **[レイアウト]** パネルで、編集するフィルタが属する階層を右クリックして、**▶ フィルタ ▶ メジャー別 ▶ 編集** を選択します。

既存のフィルタルールが **[フィルタ]** パネルに表示されます。

2. ルールを追加または削除して、変更するフィルタを定義します。
既存のルールは直接編集できないため、ルールを変更するには、そのルールを削除してから変更したルールを追加します。
3. **[OK]** をクリックして、変更したフィルタを階層に適用します。

8.1.5 フィルタの削除

フィルタは手動で削除することも、Analysis で自動的に削除することもできます。行軸または列軸の階層を置換するたびに、フィルタが自動的に分析から削除されます。ただし、階層のネストまたは ""軸の交換"" 操作を実行している場合は自動的に削除されません。

関連情報

[並べ替えの削除 \[82 ページ\]](#)

8.1.5.1 フィルタを手動で削除する

[レイアウト] パネルで、削除するフィルタが属する階層を右クリックして、**▶ フィルタ ▶ メジャー別 ▶ 削除** を選択します。

8.1.6 並べ替えとフィルタの自動削除

次の操作のいずれかを実行すると、軸 ("ターゲット" の軸) に適用されている並べ替えおよびフィルタを削除できます。

- 階層の交換、階層の削除、または階層の追加: 並べ替えおよびフィルタが削除されます。
- ネストされた階層: 値の並べ替えは削除されますが、メンバー名の並べ替えは残ります。フィルタは影響を受けません。

行および列の階層の位置を **[軸の交換]** ボタンで交換しても、並べ替えとフィルタのいずれも分析から削除されません。

8.2 メンバー別フィルタ

一覧からメンバーを選択して分析にメンバーを含める場合、階層をメンバー別にフィルタできます。

たとえば、世界各国のスキー用具の売上げを分析する際に、アフリカ諸国を分析から除外するには、[フィルタ] パネルを開いて、アフリカ諸国のメンバーの選択を解除できます。あるいはヨーロッパ諸国だけを分析する場合は、最初に[すべてを選択] チェックボックスをオフにしてから、"<ヨーロッパ>" メンバーを選択します。

[フィルタ] パネルでは、個別メンバーの選択、または検索文字列を使用したメンバーの検索ができます。メンバーキーまたはメンバーテキスト内で文字列を検索することができます。SAP BW のフラットリストのデータでは、メンバーの範囲を選択することもできます。

メジャー別フィルタとは異なり、メンバー別フィルタは静的なフィルタです。分析に追加されたメンバーまたは分析から削除されたメンバーは、[フィルタ] パネルを再び使用して手動で削除または追加されない限り、追加または除外されたままになります。

クロスタブまたはチャートに現在表示されているメンバーをすばやく削除するには、メニューを右クリックします。

① 注記

[フィルタ] パネルでは、同じメンバーが複数の場所に表示される可能性があります。たとえば、メジャーメンバーは SQL Server Analysis Services の複数のメジャーグループに表示される可能性があります。Analysis では、これらのメンバーのいずれかを選択または選択解除すると、最初の表示インスタンスが選択または選択解除されます。このインスタンスは、選択または選択解除したインスタンスとは異なるインスタンスである可能性があります。リンクされたすべてのメンバーが同じメンバーを参照するため、この動作によって分析の問題が発生することはありません。

関連情報

[表示属性を使用したフィルタ処理 \[125 ページ\]](#)

8.2.1 個別のメンバーを削除または追加する

どのパターンまたはパラメータにも従わずに、少数のメンバーを削除または追加する場合は、[フィルタ] パネルを使用することによって実行できます。

1. [レイアウト] パネルで、削除または追加するメンバーのある階層をダブルクリックします。
または、階層を右クリックしてから、▶ **フィルタ** ▶ **メンバー別** ▶ を選択することもできます。[フィルタ] パネルが階層ビューで開きます。
2. 目的のメンバーのチェックボックスをオンまたはオフにします。
 - 選択または選択解除する個別のメンバーをクリックします。
 - メンバーの範囲を指定して選択または選択解除するには、**Shift** キーを押しながらメンバーをクリックします。

3. **[OK]** をクリックして、変更をクロスタブまたはチャートに適用します。

① 注記

すべてのメンバーの選択を解除すると **[OK]** ボタンが無効になります。これは、クロスタブの階層ごとに 1 つ以上のメンバーを選択する必要があるからです。

関連情報

[選択したメンバーのみ表示 \[73 ページ\]](#)

[メンバーキーとテキストの表示を変更する \[73 ページ\]](#)

[親の名前の表示 \[74 ページ\]](#)

8.2.2 メンバーの検索

階層には何千ものメンバーを含めることができるので、長い階層一覧の中からメンバーを検索する代わりに、検索文字列を使用してメンバーを検索することができます。メンバーを検索するには、検索文字列を入力し、文字列をメンバーキーまたはメンバーテキストのどちらで検索するかを指定します。

検索する階層ごとに、階層に対する最後の検索タイプがキーまたはテキストのいずれかだったのが、個人ユーザ設定に保持されます。デフォルトでは、階層を次回検索する際に、同じ検索タイプが選択されます。

たとえば、顧客のアカウントのメンバーを最後に検索した際にキー値を選択した場合、顧客のアカウントを次回検索する際には、検索タイプはデフォルトでキーに設定されます。



検索結果をクリアして完全なメンバー一覧に戻るには、[\[メンバー一覧に戻る\]](#) ボタンを使用します。検索結果から選択したすべてのメンバーは、そのまま選択されています。

Analysis は、一般的なインターネット検索エンジンに類似した検索方式を使用します。

検索文字列	検索結果
book	book を含むすべてのメンバーを選択します。 book 、 book store 、 booklet などです。
"glass bowls"	引用符内の正確なテキストを含むメンバーのみを選択します。 この例では、 glass bowls は検索されますが、 glass soup bowls は検索されません。
glass bowls	複数の単語では、明示されない AND が含まれることになるため、検索では glass と bowls の両方を含むすべてのメンバーが検出されます。 <ul style="list-style-type: none">glass bowlsglass soup bowls

検索文字列	検索結果
<code>glass OR bowls</code>	<p>単語 <code>glass</code> または <code>bowls</code> のいずれかを含むメンバーが検出されます。</p> <p><code>OR</code> は大文字にする必要があります。</p> <p>この例では、次の名前を持つメンバーが検出されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <code>glass bowls</code> • <code>glass soup bowls</code> • <code>soup bowls</code> • <code>glass</code> <div> <p>① 注記</p> <p><code>OR</code> が検索対象の語の 1 つである場合は、<code>OR</code> を引用符で囲み、<code>"OR" OR CA</code> のようにする必要があります (ここでは、オレゴン州とカリフォルニア州を検索しています)。</p> </div>

① 注記

検索する語では大文字と小文字が区別されません。`book` を検索すると、`Book` や `BOOK` や `boOk` を検索したときと同じ結果になります。

検索でのワイルドカードの使用

検索文字列でアスタリスクワイルドカード文字を使用して、1 つ以上の文字を表すことができます。

たとえば、同じ階層メンバーセットに対する 3 つの検索を比較してみましょう。1 つはアスタリスクなしで、2 つはアスタリスクを使用しますが、それぞれ異なる位置で使用します。

まず、`book` のみで検索すると、`book` を含むすべてのメンバーが返されます。

- `book`
- `book store`
- `library book`
- `booklet`
- `textbook`
- `textbooks`

ただし、`book*` で検索すると、`book` で始まるメンバーのみが返されます。

- `book`
- `book store`
- `booklet`

最後に、`*book` で検索すると、`book` で終わるメンバーのみが返されます。


- `book`
- `library book`
- `textbook`

関連情報

[メンバーキーとテキストの表示を変更する \[73 ページ\]](#)

8.2.2.1 メンバーを検索する

1. [レイアウト] パネルで、検索するメンバーのある階層をダブルクリックします。
2. [フィルタ] パネルの上部にあるテキストボックスに検索文字列を入力します。


3.  [メンバーの検索] ボタンのそばの矢印をクリックし、文字列を検索する場所を [キー] または [テキスト] から選択します。

階層のメンバーを初めて検索する際は、デフォルトでは、[フィルタ] パネルで [フィルタ] パネルの現在の表示モードに一致するように検索タイプが設定されます。ただし、検索タイプを変更することができます。


分析では、階層に対して最後に使用した検索タイプが、同じ階層に対する次の検索のデフォルトとして保持されます。

① 注記

表示モードが [キー: テキスト] に設定されている場合、検索はデフォルトではキーに対して実行され、表示モードが [テキスト: キー] に設定されている場合、検索はデフォルトではテキストに対して実行されません。

4.  [メンバーの検索] ボタンをクリックするか、 を押します。
5. 目的のメンバーのチェックボックスをオンまたはオフにします。
 - 選択または選択解除する個別のメンバーをクリックします。
 - メンバーの範囲を指定して選択または選択解除するには、 キーを押しながらメンバーをクリックします。

① 注記

 [メンバー一覧に戻る] ボタンをクリックすると、完全なメンバー一覧に戻ります。選択したメンバーはすべて選択された状態になっています。


6. [OK] をクリックして、変更をクロスタブまたはチャートに適用します。

① 注記

すべてのメンバーの選択を解除すると [OK] ボタンが無効になります。これは、クロスタブの階層ごとに 1 つ以上のメンバーを選択する必要があるからです。

8.2.3 メンバーの範囲を選択する

SAP BW フラット階層の場合には、[フィルタ] パネルでメンバーの範囲を選択できます。

1. [レイアウト] パネルで、削除または追加するメンバーのある階層をダブルクリックします。
2. [範囲の選択] を選択します。
3. [範囲内] や [より大きい] などの演算子を選択してから、範囲を定義するメンバーを選択します。
メンバーのキー番号が分かっている場合には、メンバーフィールドにキー番号を入力します。キー番号が分からない場合には、[メンバーの選択] ボタンをクリックすると、メンバーキーと対応するメンバーテキストのテーブルを開くことができます。 
4. [範囲の追加] をクリックして選択範囲に範囲を追加します。
5. ステップ 3 と 4 を繰り返して、選択範囲にさらに範囲を追加します。
6. [OK] をクリックして、変更をクロスタブまたはチャートに適用します。

① 注記

すべてのメンバーの選択を解除すると [OK] ボタンが無効になります。これは、クロスタブの階層ごとに 1 つ以上のメンバーを選択する必要があるからです。

8.2.4 選択したメンバーのみ表示

[フィルタ] パネルでは、階層内のすべてのメンバーのリストを表示するか、あるいはクロスタブまたはチャートで表示するために選択されたメンバーのみを表示できます。

8.2.4.1 選択したメンバーのみを表示する

[選択項目の表示] をクリックして、選択されているメンバーのみを表示します。
メンバーの全体一覧の表示に戻すには、[すべて表示] をクリックします。

8.2.5 メンバーキーとテキストの表示を変更する

SAP BW データでは、[フィルタ] パネルにメンバーのテキスト、キー、説明を表示するか、あるいはテキスト、キー、および説明の組み合わせを表示するかを選択できます。

① 注記

デフォルトでは、[メンバーセレクト] ダイアログボックスには、データベース管理者が定義した表示設定に従ってプロンプトが表示されます。

[表示] をクリックし、使用可能ないずれかの表示モードを選択します。

8.2.6 親の名前の表示

[フィルタ] パネルには最初にメンバーの親情報が表示されませんが、親の名前がメンバーに追加されるように選択することができます。

たとえば、メンバーテキストが “Wednesday” であり、その親が “2002”、“Qtr 2”、“June”、および “Wk 1” である場合には、メンバーは次のように表示されます。

```
Wednesday (2002 > Qtr 2 > June > Wk 1)
```

8.2.6.1 メンバーの親の名前の表示を切り替える

[フィルタ] パネルで、 **表示**  の順に選択します。

8.2.7 階層ビューおよびリーフメンバービュー

[フィルタ] パネルを開くと、メンバー一覧が最初に階層ビューに表示されます。すべての階層レベルはメンバー一覧に表示されます。

また、リストボックスで [リーフメンバー] オプションを選択して、階層内でレベルに依存しないすべてのリーフメンバーを表示することもできます。リーフメンバーとは、子メンバーを持たないメンバーのことです。

① 注記

リーフメンバービューは SAP BW データソースを使用する場合のみ使用できます。

8.2.8 お気に入りフィルタ

階層の同じメンバーを繰り返し使用することができます。分析で階層を使用するたびにメンバーを手動で選択しなくてもよいように、階層にお気に入りフィルタを定義することができます。

フィルタのメンバーを選択し、適切な名前を付けてフィルタを保存します。フィルタは、ユーザとデータソースとの関係として保存されます。そのため、同じユーザが同じお気に入りフィルタを、同じデータソースを使用するすべての分析に対して適用することができます。

お気に入りフィルタは、メタデータエクスプローラでフィルタを適用する階層内に表示されます。

例

イタリアとスイスにおけるボートの売上を分析します。“イタリア” メンバーと “スイス” メンバーをお気に入りフィルタとして保存します。後で、ボートの棚卸資産を分析してから、再度イタリアとスイスを比較します。国階


層を分析に追加して "イタリア" メンバーおよび "スイス" メンバーを選択するのではなく、保存されているお気に入りフィルタを分析に適用します。


1つの階層に複数のお気に入りフィルタを追加できるほか、キューブ内で複数の階層にお気に入りフィルタを追加することもできます。また、複数の分析が同じキューブを使用している場合は、これらの分析に同じお気に入りフィルタを適用することもできます。

お気に入りフィルタを削除しても、クロスタブおよびチャートには、お気に入りフィルタに定義されたメンバーが保持されます。


8.2.8.1 お気に入りフィルタを作成する

[フィルタ] パネルまたは [データ] パネルのメタデータエクスプローラで、お気に入りフィルタを作成できます。


1. メンバーリストを開く
 - [フィルタ] パネルでメンバー一覧を開くには、[レイアウト] パネルで階層またはディメンションをダブルクリックします。
 -  あるいはメタデータエクスプローラを使用する場合には、階層またはディメンションを選択してから、[お気に入りフィルタの作成] ボタンをクリックします。
2. お気に入りフィルタとして保存するメンバーを選択します。
検索文字列を入力することにより、メンバーを検索できます。
3. お気に入りフィルタを保存する
 - [フィルタ] パネルで [フィルタの保存] をクリックし、お気に入りフィルタ名を入力してから、[OK] をクリックします。
 - あるいは [お気に入りフィルタ] ダイアログボックスで、お気に入りフィルタ名を入力してから、[OK] をクリックします。

階層またはディメンションにお気に入りフィルタが追加され、特別なアイコンが付いてメタデータエクスプローラに表示されます。 

8.2.8.2 お気に入りフィルタを編集する

1. [データ] パネルのメタデータエクスプローラで、お気に入りフィルタを選択します。
お気に入りフィルタが階層またはディメンション名の下の [お気に入りフィルタ] ノードに表示されます。
2.  メタデータエクスプローラの上にある [お気に入りフィルタの編集] ボタンをクリックします。
3. お気に入りフィルタを再定義するメンバーの選択および選択解除を実行します。
検索文字列を入力することにより、メンバーを検索できます。
4. [OK] をクリックして、更新したお気に入りフィルタを保存します。

8.2.8.3 お気に入りフィルタを削除する

1. [データ] パネルのメタデータエクスプローラで、お気に入りフィルタを選択します。
お気に入りフィルタが階層またはディメンション名の下の [お気に入りフィルタ] ノードに表示されます。
2.  メタデータエクスプローラの上にある [お気に入りグループの削除] ボタンをクリックします。

8.2.9 表示されているメンバーの削除

メンバーを分析から削除したり、分析にメンバーを追加するには、通常は [フィルタ] パネルを開きます。ただし、分析に現在表示されている複数のメンバーを削除する場合は、分析ウィンドウから直接メンバーを削除することができます。

- 1つ以上のメンバーをクロスタブまたはチャートから選択し、選択したメンバーの1つを右クリックし、[削除] を選択します。

複数の個々のメンバーを選択する場合は、**Ctrl** キーを押しながらメンバーを選択します。メンバーの範囲を選択するには、範囲の1つの終点を選択し、**Shift** キーを押したまま2つ目の終点を選択します。

1つのメンバーのみにフォーカスする場合は、メンバーを右クリックして [メンバーの保持] をクリックすることもできます。

① 注記

チャートがサブ分析ではなく分析を表している場合に限り、チャートのメンバーを削除できます。

削除されたメンバーを元に戻すには、[フィルタ] パネルを使用して削除されたメンバーを選択します。

8.3 BEx 条件による SAP BW データのフィルタ

メンバーのフィルタおよびメジャーによるフィルタの他に、SAP Business Explorer で定義した条件で SAP BW データをフィルタできます。BEx 条件には、Analysis のメジャーによるフィルタと同様の効果があります。つまり、階層のメジャーの値を基準にして、階層のメンバーが除外されます。

BEx 条件は Analysis でサポートされています。条件が定義されているデータソースに接続している場合は、分析で条件を有効化または無効化できます。BEx 条件はデフォルトで有効化されています。

ワークスペースを Excel または PDF にエクスポートすると、有効化されている条件はすべて、エクスポートされた文書に表示されます。

① 注記

BEx 条件は、Analysis, edition for OLAP のみで有効および無効にできます。BEx 条件を変更する場合、クエリデザイナーで編集する必要があります。

BEx 条件に関する詳細については、SAP ヘルプポータル (<http://help.sap.com>) で提供されている SAP Business Explorer のドキュメントを参照してください。

8.3.1 BEx 条件を有効化または無効化する

BEx 条件を有効化または無効化するには、条件を定義済みの SAP BW データソースを基準とするクロスタブを挿入する必要があります。

1. [\[レイアウト\]](#) パネルまたはクロスタブで階層またはメジャーの名前を右クリックして **フィルタ** > **BEx 条件** を選択するか、[\[分析\]](#) タブで **フィルタ** > **BEx 条件** をクリックします。
BEx 条件がメニューにリストされます。有効化されている条件の横にはチェックマークが付いています。
2. BEx 条件をクリックして有効化または無効化します。

8.4 バックグラウンドフィルタ

コンピュータのモニターで表示できるのは 2 次元空間のみですが、Analysis では複数のデータディメンションを同時に扱うことができます。分析対象のディメンションおよび階層は、クロスタブの行および列に配置して作業しますが、ほかの階層のメンバーを選択してクロスタブのデータを絞り込むことにより、分析範囲を狭めることもできます。表示されない階層は、バックグラウンドでフィルタの役割を果たします。

たとえば、データキューブに "<製品>"、"<市場>"、"<年>" の 3 つの階層があり、2010 年のすべての市場における製品の動向だけを分析する場合、"<年>" 階層をバックグラウンドフィルタとして使用して、"<年>" 階層から <2010> 年のメンバーのみを選択します。これにより、分析のクロスタブの表示軸に表示されるのは、"<製品>" 階層と "<市場>" 階層だけになります。

① 注記

メジャーディメンションから複数のメンバーをバックグラウンドフィルタとして選択することはできません。

① 注記


クロスタブに表示されるビューは多次元キューブの 2 次元 "スライス" であるため、バックグラウンドフィルタはスライスとも呼ばれます。

関連情報

[タスクパネルリファレンス \[185 ページ\]](#)

[\[背景\] フィルタ領域でのデフォルト値による特性の制限 \[156 ページ\]](#)

8.4.1 新しいバックグラウンドフィルタを追加する

1. 階層またはディメンションをメタデータエクスプローラからドラッグするか、またはメタデータエクスプローラの上にある **[バックグラウンドフィルタに追加]** ボタンを使用して、[\[レイアウト\]](#) パネルの **[バックグラウンド]** フィルタ領域に配置します。 

階層のデフォルトメンバーをバックグラウンドフィルタメンバーとして使用する場合は、ステップ 2 と 3 を省略できます。

2. [バックグラウンド] フィルタ領域の階層またはディメンションをダブルクリックして、[フィルタ] パネルを開きます。
3. [フィルタ] パネルで、1 つまたは複数のメンバーを選択してから、[OK] をクリックします。

① 注記

入力する値の数が 12 未満の場合、値はバックグラウンドフィルタ領域に指定されます。入力する値の数が 12 を超える場合、バックグラウンドフィルタ領域には値の数のみが表示されます。

8.5 NULL 値およびゼロ値の削除

NULL 値は、実際のデータ値で初期化されていないデータベースエントリです。たとえば、家のデータベースレコードに部屋数についてのフィールドが含まれていても、フィールドに家の部屋数が入力されていなければ、そのセルの値は NULL になります。

① 注記

デフォルトの動作では、NULL 値は空のセルとして表示されますが、[基本設定] パネルで設定を変更できます。

ゼロ値は、データで初期化されたデータベースエントリですが、データ値がゼロと等しい値です。

NULL 値およびゼロ値で構成される行と列をフィルタで除外して、クロスタブとチャートの表示を最適化することができます。

NULL 値およびゼロ値のフィルタリングは、リンクされているクロスタブやチャートコンポーネントすべてを含む分析全体に影響します。すべての行、すべての列、すべての行と列を非表示にすることができます。

OLAP サーバはそれぞれことなる種類のフィルタリングをサポートします。

次のデータソースでは、NULL 値とゼロ値だけで構成される行と列を削除できます。

- SAP HANA
- SAP BW
- SAP BusinessObjects Planning and Consolidation, version for SAP technology

次のデータソースでは、NULL 値のみで構成される行と列を削除できます。

- Microsoft SQL Server Analysis Services
- Microsoft SQL Server Analysis Services に基づく SAP EPM データプロバイダ
- Teradata
- Extended Analytics
- Oracle Essbase

これらのデータソースでは、NULL 値およびゼロ値のフィルタリングなどの操作は、Analysis ではなく OLAP サーバによって実行されます。これにより Analysis は、データセット全体を取得する代わりに、より小さなチャンク形式のデータを取得および表示でき、Analysis のパフォーマンス、応答性、および利用可能性が向上します。

8.5.1 NULL およびゼロの行と列を除外する

1. ツールバーで、**表示** > **NULL & ゼロ** または **表示** > **Null** をクリックします。

使用できるオプションはデータソースによって異なります。一部のデータソースでは、フィルタによるゼロ値の除外はサポートされません。

2. 次のオプションのいずれかを選択します。

オプション	説明
行内の非表示	NULL またはゼロのみを含む行が削除されます。
列内の非表示	NULL またはゼロのみを含む列が削除されます。
すべて非表示	NULL またはゼロのみを含む行と列の両方が削除されます。

削除された行および列を復元するには、**表示** > **NULL & ゼロ** > **すべて表示** または **表示** > **Null** > **すべて表示** をクリックします。

あるいは[[基本設定](#)]からオプションをフィルタして、新しいクロスタブまたはチャートコンポーネントのデフォルト動作を設定できます。

① 注記

これらの基本設定は、新しいコンポーネントにのみ適用されます。既存のコンポーネントの動作は変わりません。

[[基本設定](#)]からオプションを選択するには、これらのステップを実行します。

1. SAP BusinessObjects BI ラウンチパッドで[[基本設定](#)]ページを開きます。
2. [[Analysis, edition for OLAP](#)]を選択します。
3. [[Null およびゼロのデフォルト設定](#)]セクションで、上記の表からオプションを1つ選択します。

① 注記

デフォルトでは、Null とゼロが表示されます。すなわち、デフォルトの動作は[[すべてを表示](#)]です。

4. BI ラウンチパッドからログオフし、再びログオンします。

9 並べ替え

並べ替えは、OLAP ワークスペースでデータを系統的に編成することです。

クロスタブでディメンションとメンバーを昇順または降順に並べ替えることができます。

9.1 値の並べ替え

利用可能な並べ替えオプションは次のとおりです。

- 昇順
- 降順

各軸には、値の並べ替えを 1 つ設定できます。

昇順の並べ替えでは、最も値が小さいデータを最上部、または左にしてデータが並べ替えられます。降順の並べ替えでは、最も値が大きいデータを最上部、または左にしてデータが並べ替えられます。初期設定されていない (NULL) か無効なセルは、他のセルの下の値にランク付けされます。それらのセルは、降順の並べ替えでは最後に表示され、昇順の並べ替えでは最初に表示されます。

データを並べ替えた場合、親メンバーは順番に並べ替えられ、親の下の子メンバーは、独自の順番で並べ替えられます。

階層を無視

昇順または降順の並べ替えを階層の親メンバー内に制限しない場合は、"階層を無視" を使用します。

"階層を無視" を実行すると、ディメンションとメジャーが階層内の複数の親にわたって並べ替えられることを確認できます。これによって、昇順または降順の並べ替えのみでデータ全体を分析できます。

① 注記

値の並べ替えは、最も深い列または行階層にのみ追加できます。

① 注記

値の並べ替えは、メンバーの並べ替えよりも優先されます。メンバーの並べ替えがすでに設定されている階層に値の並べ替えを追加すると、メンバーの並べ替えは値の並べ替えに置き換えられます。メンバーの並べ替えが設定されている階層が、最も深い行または列階層にドラッグされると、既存の値の並べ替えが無効になり、メンバーの並べ替えが削除されます。

① 注記

ディメンションメンバーによる複数のメジャーの並べ替えはサポートされていません。

① 注記

階層を置き換えたり、並べ替えがすでに設定されている軸にネストされた階層を追加すると、並べ替えが削除されます。

関連情報

[メンバー名の並べ替え \[81 ページ\]](#)


9.1.1 値を並べ替える


1. 階層のメジャーおよびディメンションをクロスタブに追加します。
2. クロスタブで、並べ替える行または列メンバーの見出しを選択します。
3. [分析] タブを選択します。
4. [並べ替え] ボタンドロップダウンを選択します。
5. [昇順] または [降順] を選択します。
メンバーの横に、並べ替えの方向とデータの階層を示すアイコンが表示されます。

① 注記

並べ替えの後で並べ替えが親階層内で制限されないようにする場合、"階層を無視" を実行します。▶ [並べ替え ▶ 階層を無視](#) を選択します。

9.1.2 並べ替え方向を逆にする

 クロスタブで、メンバー名の横にある [並べ替え](#) アイコンをクリックします。

アイコンが変更されて、新しい並べ替えの方向が示されます。 

9.2 メンバー名の並べ替え

クロスタブデータを値で並べ替えるほかに、クロスタブメンバー名をアルファベット順に並べ替えできます。SAP BW データソースでは、表示属性で並べ替えることもできます。

1つの軸には1つの値の並べ替えしか設定できませんが、1つの軸に複数のメンバー名または属性並べ替えを設定できます。

① 注記

英数字順の並べ替えは、デフォルトで常に階層レベルで実行されます。

メンバーを英数字順に並べ替える

1. [レイアウト] パネルの [列] または [行] 領域のディメンションまたは階層を右クリックします。
2. [並べ替え] を選択します。
3. [A - Z] または [Z - A] を選択します。
4. ディメンションまたは階層にメンバーテキストとキーの両方が含まれている場合、上記と同じ手順を繰り返し、[テキスト] または [キー] を選択すると、テキストまたはキーのいずれかで並べ替えできます。

① 注記

並べ替えの後で並べ替えが親階層内で制限されないようにする場合、"階層を無視" を実行します。▶ [並べ替え](#) ▶ [階層を無視](#) ▶ を選択します。

関連情報

[並べ替え \[80 ページ\]](#)

[表示属性 \[124 ページ\]](#)

9.3 並べ替えの削除

並べ替えは手動で削除することも、Analysis で自動的に削除することもできます。行軸または列軸の階層を置換またはネストするたびに、値の並べ替え (メンバー名の並べ替えは除く) が自動的に分析から削除されます。ただし、"軸の交換" 操作を実行している場合は自動的に削除されません。

関連情報

[並べ替えとフィルタの自動削除 \[68 ページ\]](#)

9.3.1 値の並べ替えを削除する

1. クロスタブで、並べ替えを削除する行または列メンバーのヘッダを選択します。

2. [分析] タブを選択します。
3. [並べ替え] ボタンドロップダウンを選択します。
4. [並べ替えの削除] を選択します。

または、メンバーのヘッダを右クリックし [並べ替え] を選択して、[並べ替えの削除] を選択するか、並べ替えられたメンバー名の横にある [並べ替え] アイコンを右クリックし、[並べ替えの削除] を選択します。

① 注記

クロスタブに他の軸の並べ替えが含まれる場合、この並べ替えは有効のままです。

9.3.2 メンバーの並べ替えを削除する

1. [レイアウト] パネルまたは [分析] ウィンドウで、並べ替えを削除するディメンションまたは階層を右クリックします。
2. ► 並べ替え ► 並べ替えの削除 ◄ を選択します。

→ ヒント

または、[並べ替え] アイコンを右クリックし、[並べ替えの削除] を選択します。

9.3.3 並べ替えとフィルタの自動削除

次の操作のいずれかを実行すると、軸 ("ターゲット" の軸) に適用されている並べ替えおよびフィルタを削除できます。

- 階層の交換、階層の削除、または階層の追加: 並べ替えおよびフィルタが削除されます。
- ネストされた階層: 値の並べ替えは削除されますが、メンバー名の並べ替えは残ります。フィルタは影響を受けません。

行および列の階層の位置を [軸の交換] ボタンで交換しても、並べ替えとフィルタのいずれも分析から削除されません。

10 条件付き書式設定 (例外の強調表示)

条件付き書式設定は、指定範囲内または範囲外の値を区別することによって、データの重要な違いや予期しない結果を強調表示するために使用します。たとえば、売上げを分析していて、売上げが特定の金額を下回った地域を把握するには、条件付き書式設定を適用して業績が悪い地域を見つけることができます。

このセクションでは、条件付き書式設定の適用方法について説明します。データへの静的な書式設定の適用に関する情報については、[データの書式設定 \[126 ページ\]](#)を参照してください。

10.1 条件付き書式設定の適用

差異や予期しない結果を強調表示する書式設定をクロスタブのセルに適用できます。たとえば、特定の値を下回っているセル、または上回っているセルに背景色を追加できます。

\$ 322,057.80	221 ST	58,624.360
\$ 6,378,538.43	10,379 ST	2,717,240.830
\$ 18,805,461.35	21,479 ST	5,676,310.180
\$ 609,484.25	225 ST	75,691.100
\$ 3,762.90	227 ST	55,804.210
\$ 3,268,579.82	3,386 ST	873,601.100

条件付き書式設定を作成するには、1つまたは複数の条件やルール ("Less Than 1000" など) を定義します。"Less Than 1000" (赤)、"Between 1000 and 2000" (黄)、"Greater Than 2000" (緑) など、複数のルールを組み合わせることで複雑な条件付き書式設定を作成できます。

条件付き書式設定を列や行に追加したり、選択した複数のセルに適用したりできます。作成した条件付き書式設定の編集、削除、オンとオフの切り替えができます。

数値をスケーリングするメジャー書式があるメジャーの場合、条件付き書式設定をメジャーに適用するタイミング、つまりスケーリングの前または後を定義することができます。

SAP BW データソースの場合は、列ヘッダおよび行ヘッダの条件付き書式設定を表示および適用することもできます。

色と記号

以下の書式設定スタイルを使用できます。

- セルの背景色: セルの背景色を変更する。
- 値の色: 値の色を変更する。
- 記号: 値のほかに記号をセルに追加する。

セルの背景色と値の色は、色セットで決められています。デフォルト色セットの範囲は赤から青までです。ただし、たとえば緑の色合いから成る、ほかの色セットを選択することができます。色セットをカスタマイズしたり、順序を逆転することもできます。

記号もセットで決められています。デフォルト記号セットは色付き円ですが、矢印や色付き図形などの別の記号セットに変更できます。

ルールの優先順位

同じセルに複数の条件付き書式を適用する場合、あるいは1つの条件付き書式内で同じ値に複数のルールを適用する場合には、表示される条件付き書式設定はルールに割り当てられた優先順位レベルによって決まります。たとえば、1つの条件付き書式内で以下のルールを適用できます。

- 500 と 2500 の間
- 2000 より大きい

セルに値 2200 が含まれている場合には、上記の両方の値が適用されますが、セルの表示方法は優先順位が高い方のルールによって決まります。

同じセルに2つの条件付き書式が適用されており、両方の条件付き書式に優先順位が同じルールが含まれている場合には、最初に追加された条件付き書式が優先されます。

“Outside” 演算子と “Between” 演算子

“Outside” 演算子または “Between” 演算子を使用する場合には、条件付き書式に指定しきい値が含まれています。たとえば、ルール “Between 1000 and 2000” を作成した場合には、値 1000、値 2000、およびそれらの2つの値の間のすべての値に条件付き書式設定が適用されます。ルール “Outside 1000 and 2000” を作成した場合には、1000 以下のすべての値と、2000 以上のすべての値に条件付き書式設定が適用されます。

条件付き書式の切り替え

定義した条件付き書式を削除せずに無効化し、後で再び有効化できます。たとえば、第1会計四半期に異常データを見つけるために条件付き書式を定義し、そのデータを強調表示する必要がなくなったら書式を無効化します。第2会計四半期には、キューブ内のデータが変更されたために、その条件付き書式を再び有効化することで、同じ条件付き書式設定を新しいデータに適用できます。

無効な条件付き書式


条件付き書式を適用した後に、条件ルールが無効になるように分析を変更すると、条件付き書式は無効になります。条件ルールが再び有効になるように分析を後で変更すると、条件付き書式は再び有効になります。

SAP BW データソースの拡張条件付き書式設定

クエリ設計者は SAP BW データソースに条件付き書式設定を定義できます。この場合は、Analysis で SAP BW データソースに接続すると、条件付き書式設定がワークスペースに適用されます。その条件付き書式設定の設定を表示し、Analysis でオンまたはオフに切り替えることができます。

SAP BW データソースの場合は、Analysis の条件付き書式設定で追加の表示オプションを設定できます。個々のデータセル、行ヘッダ、または列ヘッダに書式設定を適用できます。条件の基準となっているメジャー以外のメジャーで表示するための条件付き書式設定も定義できます。

10.1.1 条件付き書式設定を適用する

1. 条件付き書式設定を提供するクロスタブのメンバーを選択します。
行、列、またはセルグループを選択できます。
2. ツールバーで、[\[分析\]](#) を選択してから、[\[条件付き書式設定\]](#) をクリックします。
あるいは、選択したセルを右クリックしてから、[▶ 条件付き書式設定 ▶ 新規](#) の順に選択します。
3. [\[条件付き書式設定\]](#) パネルで、条件付き書式設定名を入力します。
デフォルト名を採用するのではなく、一意の名前を指定すると、複数の書式を分析に追加した場合にリストに表示された条件付き書式設定を特定しやすくなります。
4. [\[基準\]](#) フィールドで、メジャーを選択します。
条件は選択したメジャーに基づいて評価されます。ステップ 1 でメジャーに属するセルを選択した場合には、[\[基準\]](#) フィールドにメジャーが移入されますが、分析のほかのメジャーを選択することができます。
5. [\[書式\]](#) フィールドからスタイルを選択します。
6. メジャー書式の拡大/縮小を定義してあり、メジャーに条件付き書式設定を以下のタイミングで適用しようとしています。
 - 拡大/縮小後の場合、[\[計算および拡大/縮小後の評価\]](#) チェックボックスを選択します。
 - 拡大/縮小前の場合、チェックボックスを未選択のままにします。
7. 最初の条件ルールを設定を選択します。
 -  [\[優先順位\]](#) ボタンをクリックして、このルールの優先順位と色を選択します。同じセルに複数の条件付き書式を適用する場合、あるいは 1 つの条件付き書式内で重複する複数のルールを定義する場合には、望む結果を得られるように、ルールの優先順位レベルを選択します。優先順位レベル 1 が最優先です。デフォルト色セットを使用するか、色セットを逆転するか、あるいは [\[編集\]](#) をクリックして優先順位レベルのカスタム配色を選択できます。
 - 演算子を選択し、しきい値を入力します。[\[Outside\]](#) 演算子と [\[Between\]](#) 演算子には 2 つの値が必要です。
8. [\[追加\]](#) をクリックして、ルールを条件付き書式に追加します。
選択したセルに書式設定が適用されたことを確認するには、[\[プレビュー\]](#) チェックボックスを選択します。[\[リセット\]](#) をクリックすると、すべての書式設定ルールをクリアできます。
9. 条件付き書式にルールをさらに追加するには、上述のステップを繰り返し、終了したら [\[OK\]](#) をクリックします。

10.1.2 SAP BW データソースに条件付き書式設定を適用する

SAP BW データに条件付き書式設定を定義する場合は、書式設定を表示するための追加のオプションが [\[表示\]](#) パネルにあります。

1. [\[条件付き書式設定\]](#) パネルで [\[表示\]](#) ドロワをクリックします。
2. 条件付き書式設定を適用するセルのタイプを選択します。

オプション	説明
データセル	指定されたメジャーのデータセルに条件付き書式設定を適用します。
行ヘッダ	指定されたメジャーの行ヘッダに条件付き書式設定を適用します。
列ヘッダ	指定されたメジャーの列ヘッダに条件付き書式設定を適用します。

3. 異なるメジャーに書式設定を適用する場合は、[\[適用先\]](#) を選択します。ドロップダウンメニューで、条件付き書式設定を適用するメジャーを選択します。
4. [\[OK\]](#) をクリックします。

10.2 条件付き書式ルールの編集

条件付き書式の作成後に、条件付きルールの設定を変更する場合があります。条件付きルールの優先順位、演算子、または値をいつでも編集できます。

関連情報

[条件付き書式ルールを編集する \[87 ページ\]](#)

10.2.1 条件付き書式ルールを編集する

1. [\[条件付き書式設定\]](#) ボタンの横に表示されている矢印をクリックし、編集する条件付き書式をポイントしてから、[\[編集\]](#) をクリックします。
2. [\[条件付き書式設定\]](#) パネルの [\[ルール基準\]](#) 領域で、編集する条件ルールの新しい設定を選択します。
3. [\[OK\]](#) をクリックして変更を適用します。

10.3 条件付き書式設定の削除

条件付き書式設定を削除して、データの元のビューを復元できます。条件付き書式を後で再利用する必要がある場合には、条件付き書式を一時的に無効化することもできます。

10.3.1 条件付き書式設定を削除する

1. [\[条件付き書式設定\]](#) ボタンの横に表示されている矢印をクリックします。
2. 削除する条件付き書式設定をポイントしてから、[\[削除\]](#) をクリックします。

10.3.2 条件付き書式設定を切り替える

1. [\[条件付き書式設定\]](#) ボタンの横に表示されている矢印をクリックします。
2. オンまたはオフに切り替える条件付き書式をクリックします。

11 計算

ここでは、データの分析に役立つ計算の種類について説明します。

11.1 計算の概要

未処理の多次元データを含むクロスタブは、必ずしも読み取りや解釈が簡単とは限りません。データには、傾向が隠されていることがあります。この傾向を明らかにすることができるのは、新しい情報がデータから取得される場合のみです。計算を使用して、これらの傾向を明らかにすることができます。

複数の計算を追加することで、分析をさらに強化することや、データのさまざまな側面を強調表示することができます。

分析に計算を追加する場合、計算は追加メンバーとして追加されます。また、計算はメンバーのように機能します。たとえば、動的な計算を除くすべての種類の計算メンバーにフィルタを適用したり、条件付き書式設定を適用したりすることができます。

次の計算の種類を使用できます。

単純計算

単純計算は、2つ以上のメンバーと、基本的な算術演算子またはパーセンテージ演算子の1つを含む計算です。単純計算では、たとえば、"<製品価格 - 製品原価>"のように、ちょうど2つのメンバーと1つの演算子を含むことができますが、たとえば、"<価格 * 消費税 * 数量>"のように3つ以上のメンバーを追加することもできます。3つ以上のメンバーまたはメジャーを選択する場合は、加算および乗算の計算のみが利用できます。

減算、除算、およびパーセンテージの計算については、メンバーを選択する順に計算が定義されます。つまり、"<食べ物>"メンバー、"<飲み物>"メンバーの順にクリックすると、定義される減算は"<食べ物 - 飲み物>"となります。

さらに複雑な算術計算を作成する場合は、単純計算ではなくカスタム計算を作成します。

[計算] パネルを使用しなくても、[計算] ツールバーからこれらの単純計算にすばやくアクセスできます。

カスタム計算

カスタム計算は、[計算] パネルで式を作成することにより、ユーザ自身が定義する計算です。カスタム計算では、2つのメンバーの加算のように単純な計算のほか、複数の関数とメンバーの複雑な組み合わせが可能です。たとえば、次のようなカスタム計算を作成できます。

```
TRUNC(ABS("Member1") + ABS("Member2"))
```

[計算] パネルに式を入力してカスタム計算を作成できるほか、リストからメンバーと関数を選択して作成することができます。

動的な計算

動的な計算は、関連付けられたメンバーのデータが変更された場合に再計算される、特殊な種類の計算です。たとえば、[リンク番号] 計算を追加する場合、メンバーは数値ランクに割り当てられます。次に、3 位にランク付けされたメンバーを削除すると、削除する前に 4 位にランク付けされていたメンバーが 3 位にランク付けされます。

他の種類の計算とは異なり、動的な計算はその他の計算でオペランドとしては使用できず、その他の計算に適用されるフィルタを含むこともできません。

① 注記

動的な計算は、軸上で表示可能なメジャーにのみ最初に適用できます。ただし、軸からメジャーを削除しても、動的な計算は削除されません。

① 注記

一部の種類の計算では、代わりにカスタムグループを使用できます。詳細については、[カスタムグループとしてのメンバーの結合 \[111 ページ\]](#)を参照してください。

① 注記

独立した階層としてクロスタブに追加されたカスタムグループのメンバーに基づいて、カスタム計算または単純計算を作成することはできません。詳細については、[クロスタブへのカスタムグループの追加 \[116 ページ\]](#)を参照してください。

関連情報

[計算の作成 \[90 ページ\]](#)

[計算の説明 \[93 ページ\]](#)

[合計、親、および集計 \[100 ページ\]](#)

11.2 計算の作成

計算を作成する方法がいくつかあります。

- ツールバーの [計算] ボタンをクリックし、[計算] パネルでカスタム計算を作成できます。
- [計算] ボタンの横にある矢印をクリックし、単純算術計算、動的な計算、および [計算] パネルにアクセスできます。
- クロスタブでメンバーを右クリックし、動的な計算および計算パネルにアクセスできます。

① 注記

動的な計算は、メジャーを右クリックしたときのみ使用できます。

① 注記

SAP BW データソースおよび SAP HANA データソースで作業する場合、計算はメジャーディメンションおよび特性構造に定義されているディメンションにのみ適用できます。

関連情報

[計算の説明 \[93 ページ\]](#)

[集計について \[100 ページ\]](#)

[合計、親、および集計 \[100 ページ\]](#)

11.2.1 単純計算を追加する

1. クロスタブで2つ以上のメンバーを選択します。

減算、除算、およびパーセンテージの計算については、メンバーを選択する順に計算が定義されます。つまり、"<食べ物>" メンバー、"<飲み物>" メンバーの順にクリックすると、定義される減算は "<食べ物 - 飲み物>" となります。

① 注記

SAP BW データおよび SAP HANA データの場合、計算はメジャーを基準とするため、2つ以上のメジャーを選択する必要があります。

① 注記

3つ以上のメンバーまたはメジャーを選択する場合は、加算および乗算の計算のみが利用できます。

2. ツールバーで [\[分析\]](#) を選択し、[\[計算\]](#) ボタンの横にある矢印をクリックします。
3. リストから演算子のいずれかを選択します。
計算が、選択したメンバーの右または下に、新しい列メンバーまたは行メンバーとして追加されます。デフォルトの名前が適用されますが、[\[プロパティ\]](#) パネルで名前を変更することができます。

11.2.2 カスタム計算を追加する

1. ツールバーで、[\[分析\]](#) を選択して [\[計算\]](#) をクリックし、[\[計算\]](#) パネルを開きます。
2. [\[名前\]](#) フィールドに、カスタム計算の名前を入力します。
3. [\[基準元\]](#) リストから、計算を適用する階層またはディメンションを選択します。

① 注記

SAP BW データおよび SAP HANA データの場合、メジャーディメンションにのみ計算を適用できます。



4. [以下に配置] フィールドの横にある [メンバーセレクタ] アイコンをクリックして、計算メンバーの追加先を選択します。

メンバーヘッダを選択してから [計算] パネルを開いた場合は、このフィールドはすでに入力されています。

5. 計算式を入力します。

- 関数を挿入するには、[関数] をクリックします。
- メンバーを挿入するには、[メンバーの追加] をクリックします。

必要な構文を把握している場合は、計算式を手動で入力したり、[関数] ボタンおよび [メンバーの追加] ボタンを使用して作成した式を編集したりすることもできます。

式を作成する場合は、[確認] をクリックしてエラーをチェックできます。

6. 完了したら、[OK] をクリックします。

式が確認され、エラーがない場合は、クロスタブに計算が追加されます。確認でエラーが発生した場合は、クロスタブに計算は追加されません。デフォルトの名前が適用されますが、[プロパティ] パネルで名前を変更することができます。

11.2.3 動的な計算を追加する

1. クロスタブでメジャーを選択します。
2. ツールバーで、[分析] を選択し、[計算] ボタンの横にある矢印をクリックして、[動的な計算] をポイントします。
3. リストから動的な計算のいずれかを選択します。
計算が、選択したメジャーの右または下に、新しい列メンバーまたは行メンバーとして追加されます。デフォルトの名前が適用されますが、[プロパティ] パネルで名前を変更することができます。

11.2.4 計算を編集する

1. ツールバーで [分析] を選択し、[計算] ボタンの横にある矢印をクリックします。
2. メニューから、編集する計算を選択して [編集] をクリックします。
または、計算メンバーのヘッダで [計算] アイコンをクリックします。
3. 計算パネルで、計算を変更します。

① 注記

動的な計算の場合は、名前フィールド、基準元フィールド、および以下に配置フィールドのみ編集できます。

11.2.5 計算を削除する

1. ツールバーで[分析]を選択し、[計算] ボタンの横にある矢印をクリックします。
2. メニューから、削除する計算を選択して[削除]をクリックします。
または、計算メンバーのヘッダで[計算] アイコンを右クリックし[計算の削除]を選択します。

11.3 並べ替えによる計算

計算を追加するとき、その計算を特定のメンバーの後に配置するかどうかを指定できます。並べ替えられたメンバーのセットに計算を追加する場合、次の2つのうちいずれかの動作が行われます。

- メンバーを右クリックするか、クロスタブであらかじめメンバーを選択してツールバーの[計算] ボタンをクリックして計算を追加すると、[計算] パネルの[以下に配置] フィールドに選択したメンバーの名前が自動的に入力されます。計算はクロスタブの選択したメンバーの直後に追加され、並べ替えは削除されます。
- 最初にメンバーを選択しないでツールバーの[計算] ボタンをクリックして計算を追加すると、[計算] パネルの[以下に配置] フィールドは空になります。計算はクロスタブに追加され、他のメンバーと一緒に並べ替えられます。

① 注記

SAP BW データソースおよび SAP HANA データソースで作業する場合、計算はメジャーディメンションおよび特性構造に定義されているディメンションにのみ適用できます。メジャーがドルやパーセンテージなどの異なる単位で指定された異なった量である可能性があるために、メジャーディメンションを並べ替えることはできません。

11.4 計算の説明

次の計算を使用できます。

単純計算

単純計算	説明
加算	2 つ以上の行または列の値を加算します。
減算	1 つの行または列の値から別の行または列の値を減算します。
乗算	2 つ以上の行または列の値を乗算します。
除算	1 つの行または列の値を別の行または列の値で除算します。

単純計算	説明
パーセント差異 (カスタム計算関数 PERCENT と同じ)	operand2 から operand1 の比率偏差を返します。operand1 が operand2 より小さい場合、結果は負数になります。 例 <ul style="list-style-type: none"> 1 % 2 は -50% (1 は 2 より 50% 小さい) 2 % 1 は 100% (2 は 1 より 100% 大きい) 3 % 1 は 200% (3 は 1 より 200% 大きい)
パーセントシェア (カスタム計算関数 PERCENT_A と同じ)	operand2 に対する operand1 の割合を返します。 例: <ul style="list-style-type: none"> 1 %_A 2 は 50% (1 は 2 の 50%) 2 %_A 1 は 200% (2 は 1 の 200%) 3 %_A 1 は 300% (3 は 1 の 300%)

① 注記

パーセンテージ計算は、SAP HANA データに基づくクロスタブでは利用できません。

動的な計算

動的な計算	説明
移動最小値	1つの階層レベル内の、前の値と比較した現在の最小値を返します。
移動最大値	1つの階層レベル内の、前の値と比較した現在の最大値を返します。
累積合計	1つの階層レベル内の、前のすべての値の累積合計を返します。この値は、サーバで形式設定された値に基づきます。
丸め値の累積合計	1つの階層レベル内の、前のすべての値の累積合計を返します。これは、表示されている値に基づきます。
すべての詳細値の累積件数	1つの階層内の、前のすべての値の累積件数を返します。
ゼロ、NULL、エラー以外のすべての詳細値の累積件数	1つの階層内の、ゼロ、NULL、エラー値以外の前のすべての値の累積件数を返します。
移動平均	1つの階層内の、前の値の移動平均を返します。
ゼロ、NULL、エラー以外のすべての詳細値の移動平均	階層内の、ゼロ、NULL、エラー値以外の前の値の移動平均を返します。
ランク番号	各値の順位を返します、最大値のランクは1です。値が同じ項目はランクも同じになります。
オリンピックランク番号	各値の順位を返します、最大値のランクは1です。値が同じ項目はランクも同じになりますが、その次の項目のランクには、前の値は異なる値であると仮定して番号が付けられます。たとえば、100 = ランク 1、90 = ランク 2、90 = ランク 2、80 = ランク 4 となります。
親に対する割合の関係	各値の、その親の値に対する割合の関係を返します。

動的な計算	説明
総体結果に対する割合の関係	各値の、総体結果の値に対する割合の関係を返します。

カスタム計算関数

① 注記

各データソースプロバイダに対し、すべての計算を利用できるわけではありません。

パーセンテージ計算	構文	説明
PERCENT (単純計算パーセント差異と同じ)	"operand1" % "operand2"	operand2 から operand1 の比率偏差を返します。operand1 が operand2 より小さい場合、結果は負数になります。 例: <ul style="list-style-type: none"> 1 % 2 は -50% (1 は 2 より 50% 小さい) 2 % 1 は 100% (2 は 1 より 100% 大きい) 3 % 1 は 200% (3 は 1 より 200% 大きい)
PERCENT_A (単純計算パーセントシェアと同じ)	"operand1" %_A "operand2"	operand2 に対する operand1 の割合を返します。 例: <ul style="list-style-type: none"> 1 %_A 2 は 50% (1 は 2 の 50%) 2 %_A 1 は 200% (2 は 1 の 200%) 3 %_A 1 は 300% (3 は 1 の 300%)
データ計算	構文	説明
NODIM	NODIM(<expression>)	<expression> の数値のみを返し、単位および通貨は非表示になります。
DATE	DATE("operand1")	値は 01.01.0000 以降の日数としてみなされ、日付として出力されます。値は 0 から 100 万の間で、01.01.0000 から 27.11.2738 までの日付になります。
TIME	TIME("operand1")	TIME 演算子は任意の計数を受け取り、TIME 型の計数を作成します。この関数はオフセット計算用に設計されたものです。たとえば、時間計数から 4 時間を差し引く必要がある場合は、TIME 演算子を使用します。
NOERR	NOERR(<expression>)	<expression> の計算によって算術エラーが生じる場合は 0 を返します。それ以外の場合、結果は式の値になります。これは、エラーメッセージを回避して、定義した結果の計算を続行できるようにするために使用します。
NDIV0	NDIV0(<expression>)	<expression> の計算によって 0 による除算が行われる場合は 0 を返します。それ以外の場合、結果は式の値になります。これは、エラーメッセージを回避して、定義した結果の計算を続行できるようにするために使用します。
ROLLUP	ROLLUP(operand1)	値のセットに対するロールアップを計算します。

数値計算	構文	説明
SUMMATION	"operand1" + "operand2"	operand1 の値と operand2 の値を合計します。
DIVISION	"operand1" / "operand2"	operand1 の値を operand2 の値で除算します。
MULTIPLICATION	"operand1" * "operand2"	operand1 の値と operand2 の値を乗算します。
SUBTRACTION	"operand1" - "operand2"	operand1 の値から operand2 の値を減算します。
EXP	EXP ("operand1")	指数関数。e ** operand1 の値と等しくなります。e の値は 2.7182818284590452 です。
LOG	LOG ("operand1")	自然対数は e を底とする対数です。e の値は 2.7182818284590452 です。LOG は EXP の逆数です。
MOD	"operand1" MOD "operand2"	operand1 を operand2 で除算し、その剰余を返します。
SQRT	SQRT ("operand1")	operand1 の平方根を返します。
LOG10	LOG10 ("operand1")	operand1 の、底が 10 の対数を返します。
ABS	ABS ("operand1")	符号に関係なく、operand1 の絶対数値を返します。たとえば、ABS(-1) は 1 を返し、ABS(1) も 1 を返します。
CEIL	CEIL ("operand1")	operand 1 以上の最小整数値を返します。たとえば、CEIL(-2.7) は -2 を返し、CEIL(2.7) は 3 を返します。
DIV	DIV ("operand1" , "operand2")	operand1 を operand2 で除算した商を整数で返します。剰余は無視されます。
FLOOR	FLOOR ("operand1")	operand 1 以下の最大整数値を返します。たとえば、FLOOR(-2.7) は -3 を返し、FLOOR(2.7) は 2 を返します。
FRAC	FRAC ("operand1")	operand1 の小数部を返します。たとえば、FRAC(2.7) は 0.7 を返します。
MAX	MAX ("operand1" , "operand2")	operand1 と operand2 を比較して、最大値を返します。
MAX0	MAX0 ("operand1")	0 と operand 1 の最大値を返します。つまり、負の値はすべて 0 として扱われます。
MIN	MIN ("operand1" , "operand2")	operand1 と operand2 を比較して、最小値を返します。
MIN0	MIN0 ("operand1")	0 と operand 1 の最小値を返します。つまり、正の値はすべて 0 として扱われます。
TRUNC	TRUNC ("operand1")	operand1 の整数部を返します。たとえば、TRUNC(2.7) は 2 を返します。
POWER	"operand1" ** "operand2"	operand1 を operand2 の値で累乗します。
ROUND	ROUND (operand1)	ターゲット値を指定された小数点以下桁数に丸めます。

その他の計算	構文	説明
SIN	SIN("operand1")	ラジアン単位で指定された、operand1 で表される角度の正弦を返します。
COS	COS("operand1")	ラジアン単位で指定された、operand1 で表される角度の余弦を返します。
TAN	TAN("operand1")	ラジアン単位で指定された、operand1 で表される角度の正接を返します。
ASIN	ASIN("operand1")	operand1 の値が -1 と 1 の間である場合に、operand1 ($-\pi/2 \sim \pi/2$ の範囲) の逆正弦を返します。
ACOS	ACOS("operand1")	operand1 の値が -1 と 1 の間である場合に、operand1 ($0 \sim \pi$ の範囲) の逆余弦を返します。
ATAN	ATAN("operand1")	operand1 ($-\pi/2 \sim \pi/2$ の範囲) の逆正接を返します。
SINH	SINH("operand1")	ラジアン単位で指定された、operand1 で表される角度の双曲線正弦を返します。
COSH	COSH("operand1")	ラジアン単位で指定された、operand1 で表される角度の双曲線余弦を返します。
TANH	TANH("operand1")	ラジアン単位で指定された、operand1 で表される角度の双曲線正接を返します。
AND	<expression1> AND <expression2>	<expression1> と <expression2> がどちらも 0 ではない場合、1 を返します。それ以外の場合、結果は 0 になります。<expression1> と <expression2> の数値のみが考慮され、単位は無視されます。
OR	<expression1> OR <expression2>	<expression1> と <expression2> のいずれかが 0 ではない場合、1 を返します。それ以外の場合、結果は 0 になります。<expression1> と <expression2> の数値のみが考慮され、単位は無視されます。
XOR	<expression1> XOR <expression2>	<expression1> と <expression2> のいずれか (両方ではない) が 0 ではない場合、1 を返します。それ以外の場合、結果は 0 になります。<expression1> と <expression2> の数値のみが考慮され、単位は無視されます。
NOT	NOT(<expression>)	<expression> が 0 の場合は 1 を返し、それ以外の場合の結果は 0 になります。<expression> の数値のみが考慮され、単位は無視されます。

11.5 各種データソースに対する計算のサポート

この節では、各種データソースに対する計算のサポートについて説明します。

データソース	計算
SAP BW	<ul style="list-style-type: none"> PERCENT PERCENT_A NODIM DATE

データソース

計算

- TIME
- NOERR
- NDIV0
- SUMMATION
- DIVISION
- MULTIPLICATION
- SUBTRACTION
- EXP
- LOG
- MOD
- SQRT
- LOG10
- ABS
- CEIL
- DIV
- FLOOR
- FRAC
- MAX
- MAX0
- MIN
- MIN0
- TRUNC
- POWER
- SIN
- COS
- TAN
- ASIN
- ACOS
- ATAN
- SINH
- COSH
- TANH
- AND
- OR
- XOR
- NOT

MSAS

- PERCENT_A

データソース	計算
	<ul style="list-style-type: none"> PERCENTDIFFERENCE ROLLUP ABS DIVISION EXP FRAC MAX MIN MULTIPLICATION POWER SQRT SUBTRACTION SUMMATION ROUND
SAP HANA	<ul style="list-style-type: none"> SUMMATION DIVISION MULTIPLICATION SUBTRACTION
Teradata	<ul style="list-style-type: none"> PERCENT_A PERCENTDIFFERENCE SUMMATION DIVISION MULTIPLICATION SUBTRACTION
Essbase	<ul style="list-style-type: none"> PERCENT_A PERCENTDIFFERENCE SUMMATION DIVISION SUBTRACTION MULTIPLICATION
Oracle OLAP	<ul style="list-style-type: none"> PERCENT_A PERCENTDIFFERENCE SUMMATION DIVISION SUBTRACTION MULTIPLICATION

12 合計、親、および集計

SAP BW データに基づくクロスタブで、各階層の合計を表示するか非表示にするかを選択できます。階層の合計を表示すると、追加の行または列がクロスタブの該当する階層に追加されます。これらの行または列には、階層内のメンバー値の集計が表示されます。

内部階層の場合は、合計に **[結果]** というラベルが付けられます。最も外側の階層の合計が表示される場合は、**[総体結果]** というラベルが付けられた行または列が 1 行または 1 列追加されます。

複数のメンバーを集計に使用できる場合にのみ合計を表示するように、階層を設定することもできます。このオプションは、特に内部階層が外部の階層のメンバーにネストされたメンバーを 1 つしか持たない場合に、**[結果]** セルの重複を避けるのに役立ちます。

例

ワークスペースのクロスタブの行に、"国" 階層にネストされた "製品" 階層が 1 つある場合などです。"製品" 階層の合計を表示するよう選択した場合は、**[結果]** というラベルが付けられた追加行が各国の "製品" 階層に追加されます。特定の国では、結果行に国内のすべての製品の総売上高や、その国の製品の平均価格などの集計が表示されます。

"国" 階層の合計を表示するよう選択した場合は、"国" 階層に **[総体結果]** 行が表示され、すべての国のすべての製品の集計値が表示されます。

親

複数レベルの階層では、親メンバーにも集計値が表示されます。たとえば、親メンバー "ヨーロッパ" に、その子メンバーである "フランス"、"ドイツ"、および "イタリア" の値の合計が表示されたり、他の種類の集計が表示されたりします。

通常では、親メンバーは子メンバーの上または左に表示されます。通常では、合計は子メンバーの下または右に表示されます。ただし、合計と親の位置を変更することができます。

たとえば、ヨーロッパ諸国の売上高を分析しており、親メンバー "ヨーロッパ" が国メンバー "フランス"、"ドイツ"、および "イタリア" の合計を表している場合に、親メンバー "ヨーロッパ" をそれらの子メンバーの下に表示できます。

12.1 集計について

集計とは、メンバーの合計です。階層では、親メンバーの値は、子メンバーの合計値を表しています。たとえば、"<アフリカ>" という親メンバーがあり、"<エジプト>"、"<モロッコ>"、"<南アフリカ>" という 3 つの子メンバーがある場合、"<アフリカ>" メンバーの値は、子メンバーの "<エジプト>"、"<モロッコ>"、および "<南アフリカ>" の合計値です。

カ>"の値を合計した値となります。多くの場合、親メンバーの値は、子メンバーの値の合計です。ただし、親メンバーの値が、子メンバーの値の平均や子メンバーの件数など、合計以外の集約値を示すこともあります。これらの集約値を集計と呼びます。

フラットリストの場合には親メンバーがありません。そのため、集計を表示するには合計表示をオンにする必要があります。メジャーの集計タイプを設定すると、階層内に親メンバーが存在する場合には、選択したタイプが合計と親メンバーの両方に適用されます。

メジャーメンバーごとに1つの集計を使用できます。そのため、分析に複数のメジャーがある場合は、各メンバーに異なる集計を使用できます。たとえば、数量メジャーに"合計"の集計、パーセンテージメジャーに"平均"の集計、コストメジャーに"最小"または"最大"の集計を選択できます。

次の集計がサポートされています。

集計	説明
デフォルト	集計値は、クエリで定義されたデフォルト集計に設定されます。
最小	集計値は、メンバー値の最小値になります。
最大	集計値は、メンバー値の最大値になります。
合計	集計値は、メンバー値の合計になります。
すべての詳細値の件数	集計値は、メンバーの数になります。
ゼロ、NULL、エラー以外のすべての詳細値の件数	集計値は、メンバー値がゼロ、NULL、エラー以外のメンバーの数になります。
平均	集計値は、メンバー値の平均値になります。
ゼロ、NULL、エラー以外のすべての詳細値の平均	集計値は、ゼロ、NULL、エラー以外のメンバー値の平均値になります。
標準偏差	集計値は、メンバー値の標準偏差の計算値になります。
中央値	集計値は、メンバー値の中央値になります。
ゼロ、NULL、エラー以外のすべての詳細値の中央値	集計値は、ゼロ、NULL、エラー以外のメンバー値の中央値になります。
差異	集計値は、メンバー値の差異の計算値になります。
非表示	集計値は表示されません。

12.2 メンバー合計の表示/非表示を切り替える

このタスクは、SAP BW データを基にしており、分析 (サブ分析ではない) を表すクロスタブで実行できます。

1. 合計を設定する階層のメンバーまたはヘッダを右クリックします。
2. [\[合計\]](#) をクリックして、次のいずれかのオプションを選択します。

オプション	説明
合計を非表示	階層で合計は表示されません。

オプション	説明
合計を表示	階層で合計が表示されます。
単一メンバーのみ利用可能な場合に 合計を非表示	集計するメンバーが複数存在する各階層で合計が表示されます。単一メンバーのみが利用可能な場合は、そのメンバーの合計は表示されません。

あるいは[基本設定]からオプションをフィルタして、新しいクロスタブまたはチャートコンポーネントのデフォルト動作を設定できます。

① 注記

これらの基本設定は、新しいコンポーネントにのみ適用されます。既存のコンポーネントの動作は変わりません。

[基本設定]からオプションを選択するには、これらのステップを実行します。

1. SAP BusinessObjects BI ラウンチパッドで[基本設定]ページを開きます。
2. [Analysis, edition for OLAP]を選択します。
3. [合計のデフォルト状態]セクションで、以下のオプションからオプションを1つ選択します。
 1. [デフォルト] - デフォルト設定はSAP BW クエリ設定に基づきます。
 2. 合計を非表示
 3. 合計を表示
 4. 単一メンバーのみ利用可能な場合に合計を非表示
4. BI ラウンチパッドからログオフし、再びログオンします。

12.3 合計と親の位置を設定する

1. サブ分析ではなく分析を表示するクロスタブを選択します。
2. ツールバーで、[表示]を選択してから、[合計]をクリックします。
3. [合計をメンバーの後に配置]または[合計をメンバーの前に配置]を選択します。

あるいは[基本設定]からオプションをフィルタして、新しいクロスタブまたはチャートコンポーネントのデフォルト動作を設定できます。

① 注記

これらの基本設定は、新しいコンポーネントにのみ適用されます。既存のコンポーネントの動作は変わりません。

[基本設定]からオプションを選択するには、これらのステップを実行します。

1. SAP BusinessObjects BI ラウンチパッドで[基本設定]ページを開きます。
2. [Analysis, edition for OLAP]を選択します。
3. [合計/親のデフォルトの配置]セクションで[合計をメンバーの後に配置]または[合計をメンバーの前に配置]を選択します。
4. BI ラウンチパッドからログオフし、再びログオンします。

12.4 集計タイプを変更する

1. メジャーメンバーヘッダを右クリックします。
2. ► [合計](#) ► [合計の計算方法](#) ▾ の順にクリックし、集計タイプを選択します。

① 注記

集計タイプは合計と親メンバーの両方に適用されます。

① 注記

フラットリスト階層のために親メンバーがない場合や、合計がオンになっていない場合には、親メンバーと合計に集計が表示されないため、集計タイプを変更できません。

① 注記

メジャーに適用されている集計タイプを表示するには、メジャーメンバーヘッダを右クリックしてから、► [合計](#) ► [合計の計算方法](#) ▾ の順にクリックします。選択した集計タイプがリストに表示されます。

13 分析の閲覧

分析を定義し、計算とフィルタを追加したら、分析要件に合わせた調整が必要になることがあります。このセクションでは、交換とネストされた階層、バックグラウンドフィルタの変更など、ビジネスデータの表示変更方法について説明します。

説明ビューとベースラインビューを比較する必要がある場合などに、同じデータの異なる配置を比較する方法についても説明します。

13.1 親メンバーの展開と折りたたみ

データの分析では、階層下位のデータを閲覧する必要があることがよくあります。クロスタブやチャートでは、親メンバーを展開することで、親メンバーを構成する子メンバーを表示したり、メンバー構成を折りたたむことで、親メンバーのみを表示したりできます。



クロスタブのメンバーの横にあるプラス記号は、そのメンバーを展開できることを表しています。マイナス記号は、メンバーが展開されている状態であり、折りたたむことができることを表しています。

チャンク化データを含む親メンバーの展開と折りたたみ

特定の種類のデータソース接続では、親メンバーの展開と折りたたみのような操作は、Analysis そのものではなく OLAP サーバによって実行されます。これらのデータソースには、以下が含まれます。

- Microsoft SQL Server Analysis Services
- Extended Analytics
- Profitability and Cost Management
- Teradata
- SAP BusinessObjects Planning and Consolidation, version for the Microsoft platform
- Oracle Essbase

その結果 Analysis は、データセット全体を取得する代わりに、より小さなチャンク形式のデータを取得および表示でき、Analysis のパフォーマンス、応答性、および利用可能性が向上します。

これらのデータソースの1つをベースとして階層を分析内にネストしている場合に、内部の階層メンバーを展開するか、または折りたたむと、そのメンバーは外部の階層の各メンバーに対して展開されるか、または折りたたまれます。

13.1.1 クロスタブの親メンバーを展開する



メンバー名の横にあるプラス記号をクリックして、その子メンバーを表示します。

13.1.2 クロスタブの親メンバーを折りたたむ

メンバー名の隣にあるマイナス記号をクリックします。

13.1.3 クロスタブで特定のレベルまで階層を展開する

[[レベルへの展開](#)] 機能を使用すると、クロスタブの階層の特定レベルまですばやくドリルできます。

個々のメンバーを展開したり折りたたむ代わりに、階層のレベルを選択します。選択したレベルより上のすべての親メンバーが展開され、選択したレベルのメンバーは折りたたまれて子が非表示になります。

1. クロスタブまたは [[レイアウト](#)] パネルで階層を右クリックします。
2. [[レベルへの展開](#)] を選択し、表示するレベルをクリックします。

13.1.4 チャートの親メンバーを展開する

1. チャートのメンバーを右クリックします。

④ 注記

チャートがサブ分析ではなく分析を表している場合に限り、チャートのメンバーの展開と折りたたみができます。

チャートの種類にもよりますが、メンバーは円チャートのスライスまたは縦棒チャートのライザーなどのマーカー、チャート凡例の名前、またはキャプションで示すことができます。

2. [[展開](#)] を選択して、子メンバーを表示します。

13.1.5 チャートの親メンバーを折りたたむ

1. チャートのメンバーを右クリックします。

④ 注記

チャートがサブ分析ではなく分析を表している場合に限り、チャートのメンバーの展開と折りたたみができます。

チャートの種類にもよりますが、メンバーは円チャートのスライスまたは縦棒チャートのライザーなどのマーカー、チャート凡例の名前、またはキャプションで示すことができます。

2. [\[折りたたみ\]](#) を選択して、親メンバーを表示します。

13.2 階層の交換

階層を別の階層と交換して、クロスタブやチャートのデータの構成を変更できます。

行や列の階層をバックグラウンドフィルタ階層と交換したり、別の行や列の階層と交換したりできます。

分析とサブ分析の両方で、すべての行をすべての列と交換することもできます。

13.2.1 2つの階層を交換する

1. 交換相手の階層へ階層をドラッグします。
2. 交換相手の階層が強調表示されたら、マウスボタンを離すと2つの階層が交換されます。

または、[レイアウト](#)パネルで階層を右クリックし、[交換](#)をクリックして、一覧から階層を選択することもできます。

一部の Analysis の設定では、[交換](#)リストでディメンションの階層を選択するには、メタデータエクスプローラで目的のディメンションを展開する必要があります。

13.2.2 すべての行とすべての列を交換する

1. 分析またはサブ分析のいずれかを表すクロスタブを選択します。
2. ツールバーで[\[表示\]](#)を選択してから、[\[軸の交換\]](#)をクリックします。

13.2.3 並べ替えとフィルタを含む階層の交換

階層を交換したり、新しい階層を行または列の軸に追加したりすると、既存の並べ替えとフィルタは分析から削除されます。ただし、[\[軸の交換\]](#) ボタンを使用して行階層と列階層の位置を交換すると、並べ替えとフィルタは保持されます。

関連情報

[並べ替え \[80 ページ\]](#)

[メジャー別のフィルタ処理 \[64 ページ\]](#)

13.3 階層のピボット

階層をピボットし、興味のある項目をバックグラウンドフィルタに移動し、クロスタブに別の階層を取り込むことができます。データの別の側面をすばやく詳細に調査する場合にピボットは役立ちます。

例

スーパーマーケットチェーンの業績を分析するには、製品と、"利益" および "売上げ" などのいくつかのメジャーを示す分析を定義します。"桃" の売上げの合計が予想を下回っていることがわかったため、"桃" を "時間" 階層でピボットして、時間を追って桃の売上げを調査することにします。"桃" メンバーを選択した状態で、"製品" 階層はバックグラウンドフィルタに移動し、"時間" 階層がクロスタブに移動します。クロスタブには、"桃" の売上げの履歴のみが表示されるようになるため、桃の売上げが予想を下回る時期を判断できます。

13.3.1 階層をピボットする

1. クロスタブでメンバーを右クリックし、[次をピボット] をポイントします。
2. クロスタブにピボットする階層を選択します。

① 注記

すべての階層がすでにクロスタブに存在する場合は、[次をピボット] オプションは無効です。

① 注記

一部の Analysis の設定では、次をピボットリストでディメンションの階層を選択するには、メタデータエクスプローラで目的のディメンションを展開する必要があります。

13.4 階層の削除

クロスタブやチャートから階層を削除して、分析を単純化することができます。

13.4.1 チャートまたはクロスタブから階層を削除する

1. クロスタブまたはチャートコンポーネントを選択します。
2. [レイアウト] パネルから階層をドラッグします。
または、階層を右クリックしてから、[削除] を選択することもできます。

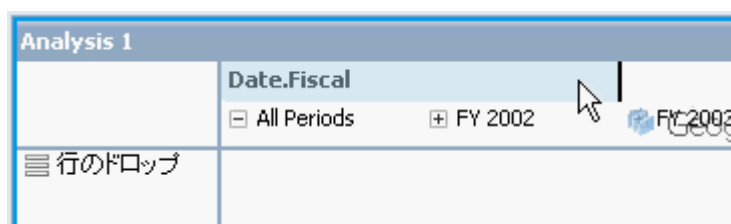
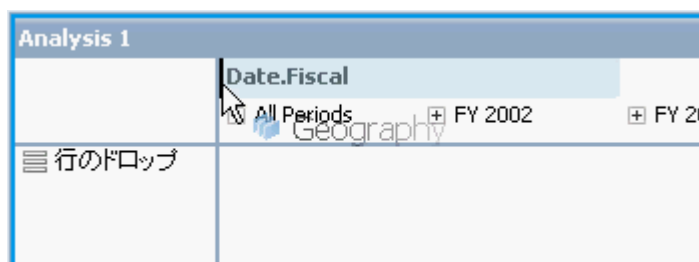
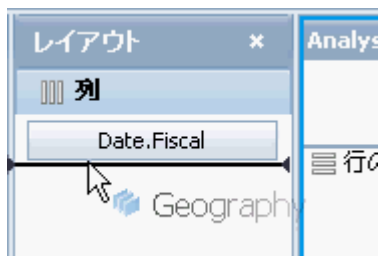
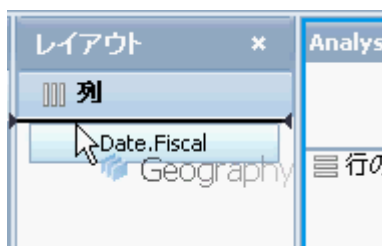
13.5 ネストされた階層

クロスタブの軸上で2つ以上の階層を表示することをネストと呼びます。階層のネストでは、セルに最も近い階層を内部階層、その他の階層は外部階層と呼びます。

SAP BW データを使用する場合に限り、ネストされた階層の表示を軸上で結合して、これらのナビゲートが容易にすることができます。

13.5.1 階層をネストする

1. メタデータエクスプローラで、クロスタブの既存階層とネストさせる階層を選択します。
2. 階層を [レイアウト] パネルまたはクロスタブの既存階層ヘドラッグします。
選択した階層が配置される場所は、挿入インジケータで示されます。



階層がネストされます。

Analysis 1					
Measures	Geography		Date.Fiscal		
	<input type="checkbox"/> All Geographies	<input checked="" type="checkbox"/> Australia	<input checked="" type="checkbox"/> Canada	<input checked="" type="checkbox"/> France	<input checked="" type="checkbox"/> Germany
	<input checked="" type="checkbox"/> All Periods	<input checked="" type="checkbox"/> All Periods	<input checked="" type="checkbox"/> All Periods	<input checked="" type="checkbox"/> All Periods	<input checked="" type="checkbox"/> All Periods
Reseller Sales Arr	\$ 80,450,596.98	\$ 1,594,335.38	\$ 14,377,925.60	\$ 4,607,537.94	\$ 1,983,988.0

3. 別の軸に階層をネストするには、これらのステップを繰り返します。

① 注記

行軸、列軸、またはバックグラウンドフィルタに階層を配置すると、階層のデフォルトメンバーが自動的に選択されます。Microsoft Analysis Services を使用すると、デフォルトメンバーを OLAP サーバに設定できます。その他の OLAP プロバイダの場合は、階層の最上位にある最初のメンバーがデフォルトメンバーです。

① 注記

複数の階層を水平にネストした場合、一部のデータまたはメタデータが分析ウィンドウに表示されない可能性があります。ペイン間の区切り記号をドラッグして、メタデータペインおよびデータペインの位置を変更できます。また、ペインの下部にあるスクロールバーも使用できます。

SAP BW データを使用する場合に限り、ネストされた階層の表示を最小化することで、これらを結合された 1 つの階層としてナビゲートできます。

関連情報

[階層をネストする \[108 ページ\]](#)

13.5.2 ネストされた階層の表示を最小化する

SAP BW データを使用する場合に限り、ネストされた階層の表示を最小化することができます。

1. ツールバーで **[表示]** を選択してから、**[階層]** をクリックします。
2. 行軸または列軸のどちらを最小化するか選択します。

13.5.3 ネスト階層の順序変更

階層を交換することで、ネスト階層の順序を変更できます。

関連情報

[階層の交換 \[106 ページ\]](#)

13.6 バックグラウンドフィルタの変更 (スライスの変更)

ディメンションや階層をバックグラウンドフィルタに配置すると、分析をフィルタするデフォルトメンバーが自動的に選択されます。ただし、別のデータをフィルタする場合には、選択メンバーを変更できます。多次元キューブの別の2次元“スライス”に変更することから、このアクションを“スライスの変更”と呼ぶこともあります。

バックグラウンドフィルタメンバーの選択方法は、行階層と列階層のメンバーを選択する方法と同じです。

13.6.1 バックグラウンドフィルタメンバーを選択する

1. [\[レイアウト\]](#) パネルの [\[バックグラウンド\]](#) フィルタ領域で、ディメンションまたは階層をダブルクリックします。
2. データソースプロバイダに応じて、1つまたは複数のメンバーを選択します。
3. [\[OK\]](#) をクリックします。

13.7 階層レベルの非表示

階層を操作する際に、分析に関係がない階層レベルを非表示にすることができます。たとえば、売上実績の分析で、日付階層に年、四半期、および月のレベルが含まれる場合、四半期レベルを非表示にして月に焦点を当てることができます。

関連情報

[階層レベルを非表示にする \[110 ページ\]](#)

13.7.1 階層レベルを非表示にする

1. [\[分析\]](#) ウィンドウで、階層を含むクロスタブを選択します。
2. [\[レイアウト\]](#) パネルで、階層を右クリックします。
3. 非表示にするレベルの数に応じて、以下のいずれかの手順に従います。

- 単一レベルの場合、[[レベルの表示](#)] をクリックし、レベルの選択を解除します。
- 複数レベルの場合、▶ [レベルの表示](#) ▶ [詳細](#) ▶ をクリックし、レベルの選択を解除します。

13.8 メンバーの並べ替え

データを比較するために、メンバーを並べ替えることができます。たとえば、以下のメンバーを含む "<国>" 階層があるとします。

- 南極大陸
- カナダ
- フランス
- インド
- メキシコ
- スイス

南極大陸とスイスの各種ペンギンの数を比較するには、スイスを南極大陸の直下へ移動できます。

① 注記

並べ替えられるのは親が同じメンバーに限られますが、不規則階層の場合には、メンバーのレベルが異なることがあります。

② 注記

移動メンバーに子メンバーがある場合には、親メンバーとともに子メンバーも移動されます。

13.8.1 メンバーを並べ替える

1. クロスタブで、移動するメンバーを選択します。
2. 選択したメンバーの1つを右クリックし、▶ [メンバーの並べ替え](#) ▶ [移動](#) ▶ の順に選択します。
3. 選択したメンバーを挿入する位置の上または下のメンバーを右クリックしてから、▶ [メンバーの並べ替え](#) ▶ [前に挿入](#) ▶ の順に選択するか、または▶ [メンバーの並べ替え](#) ▶ [後に挿入](#) ▶ の順に選択します。
あるいは、選択したメンバーを新しい位置へドラッグできます。

13.9 カスタムグループとしてのメンバーの結合

分析をフィルタしたり計算を追加する方法で簡単に対処できないビジネス上の問題に解答することが必要になる場合があります。カスタムグループを使用すると、同じディメンションに属する1つ以上の階層に含まれる複数のメンバーを結合して1つのグループにすることができるため、柔軟な分析が可能になります。

たとえば、カスタムグループを使用すると、ブルーまたはシルバーのミニバンおよび SUV のように、特定の型式や色で選別した製品の売上データを調査できます。

カスタムグループに含めるメンバーを選択したら、グループの基準となっている既存の階層のメンバーとしてカスタムグループをクロスタブに追加したり、独立した階層として表示できます。

カスタムグループは簡単に再利用および共有できます。カスタムグループは、関連するディメンション内のフォルダのメタデータエクスプローラに表示されます。カスタムグループを階層に追加すると、削除するまでその階層のメンバーとしてワークスペースに残ります。適切な権限があれば、同じデータソースへのアクセス権を持つ組織内の他のユーザとカスタムグループを共有することもできます。個々のユーザは、共有カスタムグループの個人用コピーを保存し、必要に応じて編集できます。

① 注記

カスタムグループは、Microsoft Analysis Services および Oracle Essbase のデータでのみサポートされます。


① 注記

Analysis, edition for Microsoft Office、Crystal Reports、Web Intelligence などの他のアプリケーションではサポートされません。そのため、分析ビューにカスタムグループを含めることはできません。Analysis, edition for OLAP から分析ビューをエクスポートすると、すべてのカスタムグループが分析ビューから削除されます。

① 注記

Essbase データに基づくカスタムグループは、MDX (Multidimensional Expressions) 言語の集計関数を使用して、定義に含まれるメンバーの合計値を計算します。MDX の集計関数の動作に関する詳細は、Oracle Essbase のドキュメンテーションを参照してください。

13.9.1 カスタムグループを作成する

-  メタデータエクスプローラでカスタムグループを作成するには、適切なディメンションまたは階層を選択して、**カスタムグループ** > **カスタムグループの作成** をクリックします。
クロスタブでも、適切な階層から 1 つ以上のメンバーを選択してメンバーを右クリックし、**カスタムグループ** > **新規** をクリックしてカスタムグループを作成できます。
[カスタムグループ] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスでは、カスタムグループの名前の編集、メンバーの追加または削除、カスタムグループを共有にするか個人用にするかの設定ができます。
- カスタムグループの名前を入力します。
名前は、他のユーザの個人用カスタムグループも含めた他のカスタムグループとは異なるものにする必要があります。この制約により、カスタムグループが共有である場合の名前の競合を防止しています。
- 必要に応じて、[階層] リストから適切な階層を選択します。
- [選択方法] リストからオプションを選択します。

オプション	説明
-------	----

個別項目 この選択方法を使用すると、静的なメンバーの集合を階層から手動で選択できます。

検索定義 この選択方法を使用すると、入力した検索用語を基準にして動的なメンバーの集合を定義できます。キューブ内のメンバーが頻繁に変更されるため、特定のタイプのメンバーが含まれるようにカスタムグループを自動的に更新する必要がある場合は、この選択方法が便利です。

表示されているすべての検索結果が選択されるため、個別のメンバーの選択解除や追加はできません。別の検索用語を使用しない限り、選択内容を変更することはできません。

カスタムグループのメンバーリストは、関連のあるデータソースに接続するたびに自動的に更新されます。

たとえば、「製品」階層の検索定義を使用して用語「ミニバン」を検索する場合は、この用語を含むすべてのメンバーがカスタムグループに追加されます。「製品」階層に新しいミニバンが追加されると、そのミニバンは自動的にカスタムグループに追加されます。

条件定義 この選択方法を使用すると、メジャーの条件を基準にして動的なメンバーの集合を定義できます。この選択方法は、特定の数値条件を満たすメンバーを調査する場合に便利です。

複数の条件を設定し、それらを **[AND]** または **[OR]** 演算でリンクすることを選択できます。



条件を満たすメンバーがカスタムグループ定義に追加されます。個々のメンバーを選択解除したり追加したりすることはできません。

たとえば、あまり人気のない乗り物に関するデータを調査する場合は、販売台数が 5000 未満の乗り物の種類を検索する条件を「製品」階層に設定できます。

5. 階層のメンバーを選択します。

- 選択方法が個別項目の場合は、リスト内の各メンバーの横にあるチェックボックスを使用して選択を行います。メンバーセレクトは、階層をメンバーでフィルタするための **[フィルタ]** ダイアログボックスと同様に機能します。階層構造でメンバーを選択し、特定の文字列を含むメンバーを検索できます。階層内のすべてのメンバーを選択することはできません。これらの機能の詳細については、「「メンバー別フィルタ」」セクションのトピックを参照してください。
- 選択方法が検索定義の場合は、検索用語を入力して **[メンバーの検索]** をクリックします。結果がメンバーリストに表示されます。必要に応じて検索用語を変更し、異なるメンバーの集合を取得します。検索機能に関する詳細については、**メンバーの検索 [70 ページ]** を参照してください。
- 選択方法が条件定義の場合は、階層のレベル、メジャー、および演算子を選択して条件を設定します。条件タイプの詳細については、**フィルタタイプ [66 ページ]** を参照してください。条件に必要な値を入力して、**[追加]** をクリックします。必要に応じて、複数の条件を設定してから、**[OR]** を選択して条件の 1 つ以上を満たすメンバーを含めるか、**[AND]** を選択してすべての条件を満たすメンバーのみを含めるようにすることができます。

6. カスタムグループ定義に階層を追加するには、**[階層]** リストの横にある **[+]** アイコンをクリックします。

7. 別の階層からメンバーを選択する場合は、手順 3～6 を繰り返します。前の階層で **[インターセクト]** () または **[捕捉]** () を選択して、2 つの階層のメンバーをグループ化します。

① 注記

このオプションは、MSAS データソースの場合のみ使用できます。Essbase データソースの場合は、単一階層に含まれる共通ノードの下レベルとして複数の階層が表示されます。

① 注記

階層に複数のルートメンバーがある場合、つまり階層の最上位に複数のメンバーがある場合は、これをカスタムグループ定義の最初の階層として追加する必要があります。最初の階層の後にこの階層を追加しようとした場合、[階層] リストの横にある [+] アイコンは無効になります。

8. 同じデータソースにアクセスできる組織内の他のユーザとカスタムグループを共有する場合は、[組織と共有] を選択します。このチェックボックスは、カスタムグループを共有する権限を BI 管理者から付与されている場合のみ使用できます。
9. [OK] をクリックします。

関連情報

[個別のメンバーを削除または追加する \[69 ページ\]](#)

[カスタムグループの共有 \[118 ページ\]](#)

[複数の階層を基準にしたカスタムグループ \[114 ページ\]](#)

13.9.1.1 複数の階層を基準にしたカスタムグループ

Essbase および MSAS をデータソースとする場合は、複数の階層のメンバーを含むカスタムグループを作成できます。

複数の MSAS 階層を基準にしたカスタムグループ



MSAS 階層を基準にしてカスタムグループを作成すると、カスタムグループを階層としてクロスタブに追加するときに表示されるメンバー名は、[カスタムグループ] ダイアログボックスに追加した最初の階層によって決まります。その後、後続の階層からメンバーを追加して、さらにデータを絞り込むことができます。ただし、後から追加した階層のメンバーの名前は分析に表示されません。

たとえば、性別を限定した特定のサイクリング製品の売上を調査する場合は、"製品" ディメンションを基準にしてカスタムグループを作成できます。製品の種類別にカスタムグループをナビゲートする必要がある場合は、"製品カテゴリ" 階層からメンバーを選択します。たとえば、"ロードバイク" メンバーと "ジャージ" メンバーを選択できます。次に、"型式" 階層を選択し、この階層から "女性用" メンバーを選択します。

カスタムグループを階層として表示した場合は、"ロードバイク" メンバーと "ジャージ" メンバーをドリルして、それらの "製品カテゴリ" 階層の子を表示できます。ただし、この階層のメンバーはスタイルを基準にしてフィルタされます。データのフィルタ方法は、選択したグループ化操作によって決まります。

階層間でのメンバーのグループ化

異なる階層のメンバーをカスタムグループにグループ化する方法は 2 種類あります。

グループ化操作タイプ	説明
<i>Intersect</i>	<p>1つ目の階層のメンバーのデータのうち、2つ目の階層のメンバーにも関連するものが表示されます。</p> <p>前の例で [インターセクト]() を選択すると、カスタムグループには、女性用のロードバイクとジャージのデータが表示されます。ユニセックスおよび男性用の製品はカスタムグループから除外されます。</p>
補完	<p>1つ目の階層に含まれるメンバーのデータのうち、2つ目の階層のメンバーには関連しないものが表示されます。</p> <p>前の例で [補完]() を選択すると、カスタムグループには、ユニセックスおよび男性用のロードバイクとジャージのデータが表示されます。女性用の製品はカスタムグループから除外されます。</p>

複数の Essbase 階層を基準にしたカスタムグループ

MSAS データを基準にしてカスタムグループを作成する場合は、メンバーリストで1度に1つの階層からしかメンバーを選択できません。ただし、Essbase カスタムグループの場合は、1度にすべてのメンバーを選択できます。相互に関連する Essbase 階層は、Analysis では同じ親メンバーの下に表示されます。したがって、使用できるすべてのメンバーがメンバーリストに表示され、異なる階層およびそのメンバーを同じ階層内の個別レベルとして選択できます。

① 注記

1つの Essbase 階層にメンバーが何回も表示されることがあります。1つのメンバーのデータが2回カウントされないようにするには、カスタムグループを作成するときに、そうしたメンバーの余分なインスタンスを手動で選択解除する必要があります。たとえば、「製品」階層には使用可能なすべての製品の階層が含まれ、別の階層では高級製品のみがリストされるとします。このようなケースで、高級製品の階層のメンバーを選択する場合は、同じメンバーを別の階層でも選択しないように注意する必要があります。

3つ以上の階層のメンバーを含むカスタムグループ

Analysis のデフォルト構成では、最大4つの MSAS 階層のメンバーを1つのカスタムグループに含めることができます。

階層間の複数のリンクを解決する操作の順序は、最初に追加した階層から最後に追加した階層の順です。つまり、最初の2つの階層間のリンクが最初に解決され、結合された階層間のリンク、3つめの階層のリンク、という順序で解決されます。

13.9.1.2 インターセクト演算を使用した個々の定義および条件定義のグループ化

カスタムグループの1つ目の階層で個々のメンバーを選択しており、その階層が条件定義を使用して別の階層とインターセクトしている場合、カスタムグループを個別の階層として表示すると、予期しないメジャー値が表示されることがあります。

この条件は、1つ目の階層に対して指定した制約を伴わずに、2つ目の階層に独立して適用されます。階層がインターセクトしている場合、1つ目の階層に対して選択しなかったメンバーのデータがカスタムグループ内に含まれ、メジャーが正しい値とならない場合があります。

この場合、条件定義を含む階層をカスタムグループの1つ目の階層として追加し、次に個別に選択したメンバーを含む階層を追加する必要があります。階層の順序を入れ替えた場合、条件と個別の選択の両方に合致するデータのみがカスタムグループに含まれます。

13.9.2 クロスタブへのカスタムグループの追加


カスタムグループは2つの異なる方法で分析に使用できます。1つは既存の階層のメンバーとして使用する方法で、もう1つは独立した階層として使用する方法です。

階層メンバーとしてのカスタムグループ

クロスタブでカスタムグループを作成すると、作成に使用した階層の最後のメンバーとして表示されます。メタデータエクスプローラからクロスタブのその階層にカスタムグループをドラッグして、メンバーとして追加することもできます。


こうすると、カスタムグループはリーフメンバーとして動作します。つまり、階層から削除したり、計算を作成するときの基準にしたりすることができます。メンバーの順序を変更する場合にカスタムグループを移動できるのは、階層内の最初または最後のメンバーの位置のみです。

同じ階層を別の分析に追加すると、カスタムグループは階層のメンバーとして再度表示されます。この動作は、カスタムグループを手動で階層から削除(クロスタブでカスタムグループを右クリックして[削除]をクリック)するまで続きます。カスタムグループを基準にした計算は、すべて削除されます。

カスタムグループのメンバーを閲覧する場合は、カスタムグループの横にあるアイコン()をクリックします。このボタンをクリックすると、カスタムグループを唯一のメンバー階層とする新しい分析が開きます。以前の分析で使用したメジャーも、新しい分析に追加されます。

独立した階層としてのカスタムグループ

カスタムグループを独立した階層として使用すると、グループの中にドリルダウンして個々のメンバーがデータにどのように影響しているかを確認できます。

カスタムグループは2つの方法で階層として追加できます。1つは、競合する階層のない軸へ、メタデータエクスプローラからカスタムグループを移動する方法です。カスタムグループがすでに階層のメンバーとして別の分析に追加されている場合は、カスタムグループの横にあるアイコン () をクリックして追加できます。

① 注記

カスタムグループを独立した階層として追加する場合、メンバーに基づいて単純計算またはカスタム計算を作成することはできません。

関連情報

[クロスタブにデータを追加する \[21 ページ\]](#)

[不要なメンバーの削除 \[21 ページ\]](#)

[親メンバーの展開と折りたたみ \[104 ページ\]](#)

13.9.2.1 一部のメンバーが見つからないカスタムグループ

カスタムグループに含まれるメンバーがデータソース内で位置変更または削除されると、カスタムグループ定義が影響を受けます。

分析に使用する前に、カスタムグループの定義を確認することが必要な場合があります。たとえば、分析でカスタムグループを使用するワークスペースを開く場合、または分析にカスタムグループを追加しようとした場合には、カスタムグループの編集を促すメッセージが表示されます。メタデータエクスプローラでカスタムグループを右クリックして **[編集]** をクリックすると、見つからないメンバーがカスタムグループから削除されます。必要に応じて、カスタムグループを確認および編集し、定義が正しい状態を維持できます。


① 注記


この動作は、カスタムグループ定義で親メンバーが選択されており、その子の1つ以上がデータソース内で位置変更または削除された場合には適用されません。この場合、カスタムグループを編集する必要はありません。ワークスペースを開くと子メンバーが自動的にカスタムグループから削除され、カスタムグループを含む分析は有効な状態を維持します。

13.9.3 カスタムグループを編集する

個人用カスタムグループでは、グループ名の変更、メンバーの追加または削除といった編集ができます。適切な権限がある場合は、組織内の他のユーザとカスタムグループを共有することもできます。

共有カスタムグループを編集できるのは、グループの所有者、または特別な権限を持つユーザのみです。

1.  メタデータエクスプローラでカスタムグループを選択し、▶ **カスタムグループ** ▶ **カスタムグループの編集** ▶ をクリックします。

クロstabでカスタムグループを右クリックして、**カスタムグループ** ▶ **編集** をクリックするか、クロstabで**[カスタムグループ]** アイコン()をダブルクリックすることもできます。

[カスタムグループ] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスでは、カスタムグループ名の編集、メンバーの追加または削除、組織内の他のメンバーとのグループの共有ができます。

2. 必要に応じてカスタムグループを編集し、**[OK]** をクリックします。

関連情報



[カスタムグループの共有 \[118 ページ\]](#)

[カスタムグループを作成する \[112 ページ\]](#)

13.9.4 カスタムグループの共有

ユーザは通常、ユーザ自身のみが表示できる個人用カスタムグループを作成します。適切な権限があれば、組織全体で利用できる共有カスタムグループを作成することもできます。カスタムグループのプライバシーは、**[カスタムグループ]** ダイアログボックスの**[組織と共有]** チェックボックスを使用して設定できます。

共有したカスタムグループは、組織内の他のユーザの分析で使用されている可能性があるため、個人用に戻すことはできません。共有カスタムグループの所有者であるユーザは、グループの編集または削除が可能です。こうした操作は他のユーザの分析に影響を及ぼす可能性があります。

共有カスタムグループは、関連するディメンション内の**[カスタムグループ]** フォルダのメタデータエクスプローラに表示されます。共有カスタムグループ()と個人用カスタムグループ()は、異なるアイコンで区別できるようになっています。


他のユーザが共有カスタムグループを持っている場合は、それを自分の分析で使用できますが、編集に必要な特別な権限を管理者から付与されていない限り、編集はできません。代わりに、共有カスタムグループの個人用コピーを保存し、要件に合わせてコピーを編集することができます。

関連情報

[カスタムグループの新しいコピーを保存する \[119 ページ\]](#)

13.9.4.1 カスタムグループを共有する

適切な管理権限を持っているユーザは、組織内の他のユーザとカスタムグループを共有できます。共有カスタムグループを個人用に戻すことはできません。

1.  メタデータエクスプローラでカスタムグループを選択し、**カスタムグループ** ▶ **カスタムグループの編集** をクリックします。


クロスタブでカスタムグループを右クリックして、**カスタムグループ** ▶ **編集** をクリックすることもできます。

2. **[カスタムグループ]** ダイアログボックスで **[組織と共有]** をクリックします。
3. **[OK]** をクリックします。

組織内の他のユーザの場合は、メタデータエクスプローラの該当するディメンションの **[カスタムグループ]** フォルダに共有カスタムグループが表示されます。

13.9.5 カスタムグループの新しいコピーを保存する

既存のカスタムグループの新しいコピーを保存する機能は、同じ階層を基準にした2つの類似するカスタムグループが必要な場合や、共有カスタムグループの個人用バージョンを作成する場合に役立ちます。

1.  メタデータエクスプローラでカスタムグループを選択し、**カスタムグループ** ▶ **カスタムグループに名前を付けて保存** をクリックします。
2. 新しいカスタムグループの名前を入力し、**[カスタムグループ]** ダイアログボックスでその他の変更を行います。

① 注記

名前は、他のユーザの個人用カスタムグループも含めた他のカスタムグループとは異なるものにする必要があります。この制約により、カスタムグループが共有である場合の名前の競合を防止しています。

3. **[OK]** をクリックします。

メタデータエクスプローラでは、そのグループが基準としているディメンションの **[カスタムグループ]** フォルダに、新しいカスタムグループが追加されます。

関連情報

[カスタムグループを編集する \[117 ページ\]](#)

13.9.6 カスタムグループを削除する


個人用カスタムグループを完全に削除することができます。適切な権限を持っている場合は、共有カスタムグループも削除できます。

① 注記

このアクションは永続的であるため、元に戻せません。カスタムグループを分析からのみ削除する場合は、分析ウィンドウでカスタムグループを右クリックして **[削除]** をクリックするか、カスタムグループをクリックして、クロスタブの **[レイアウト]** パネルからドラッグします。

① 注記

組織内の他のユーザが共有カスタムグループを各自の分析に追加している可能性があります。共有カスタムグループを削除すると、他のユーザの分析から共有カスタムグループが削除されます。

1.  メタデータエクスプローラでカスタムグループを選択し、**カスタムグループ** > **カスタムグループの削除** をクリックします。

クロスタブでカスタムグループを右クリックして、**カスタムグループ** > **削除** をクリックすることもできます。

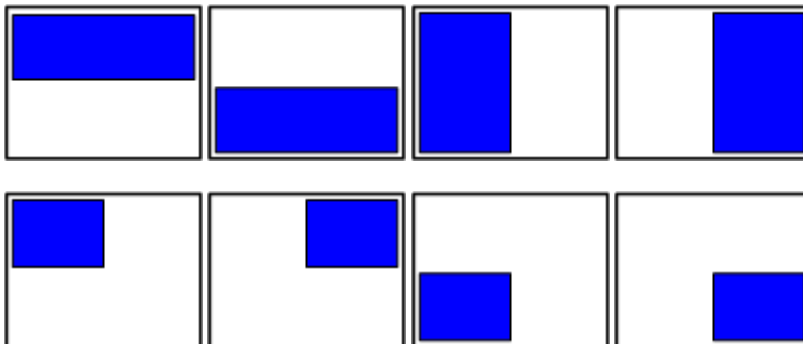
2. **[はい]** をクリックします。

カスタムグループは完全に削除され、現在のワークスペースの分析から削除されます。他のワークスペースの分析にカスタムグループが追加されている場合は、ワークスペースを開いたときにワークスペースから削除されます。

13.10 コンポーネントのサイズ変更および移動

チャートまたはクロスタブコンポーネントは、現在の位置から他の有効な位置へドラッグできます。

有効な位置は次のとおりです。



① 注記



コンポーネントのタイトルバーにある**[最大化]**ボタンをクリックしてコンポーネントを最大化し、分析ウィンドウ一杯に表示することもできます。

13.10.1 チャートまたはクロスタブを移動またはサイズ変更する

移動またはサイズ変更するコンポーネントのタイトルバーをクリックし、コンポーネントを有効な位置の1つにドラッグします。

分析ウィンドウでマウスカーソルを移動すると、ドロップ位置が強調表示されます。画面の1つの象限を占めるコンポーネントを画面の半分を占める新しい位置にドラッグしたり、その逆の作業を行うことができます。マウス

のボタンを離すと、コンポーネントは新しい位置に合わせて自動的にサイズが変更されます。必要に応じて、他のコンポーネントのサイズも自動的に変更されます。


13.11 コンポーネントのコピー


コンポーネントをコピーして、データの変化を比較することができます。たとえば、クロスタブとチャートにデータセットが表示されているものの、分析を微調整し、変更とベースライン分析を比較する必要がある場合には、コンポーネントをコピーできます。

コンポーネントを同じシートまたは別のシートにコピーできます。コンポーネントをコピーすると、元のコンポーネントに関連付けられている分析もコピーされます。

13.11.1 コンポーネントをコピーする

1. コピーするコンポーネント内でクリックします。

2.  ツールバーで [コピー] をクリックします。
または、**CTR+C** キーを押してコンポーネントをコピーすることもできます。

3.  ツールバーで [貼り付け] をクリックし、コンポーネントを現在のシートにコピーします。

または、**CTR+V** キーを押してコンポーネントを貼り付けることもできます。

コピーしたコンポーネントを別のシートに貼り付けるには、コンポーネントを貼り付ける前に別のシートに切り替えます。

コピーしたコンポーネントは、シート上の既存コンポーネントの下または右に追加されます。

13.12 セル内容のコピー




分析から別のアプリケーションに貼り付けるためにセルの内容をコピーするには、セルを右クリックして [コンテンツのコピー] をクリックします。

13.13 元に戻すおよびやり直し

Analysis には、多段階の元に戻す機能があります。多段階の元に戻す機能を使用することにより、ワークスペースが必要な状態に戻るまで、ワークスペースに対する変更を 1 つずつ元に戻すことができます。

すべての変更を 1 回で元に戻し、ワークスペースを開いた後に保存していても、開いたときのワークスペースの元の状態を復元できます。

やり直し機能では、元に戻した操作を逆にやり直すことができます。たとえば、コンポーネントを移動またはサイズ変更して、その新しい位置に満足できない場合は、[元に戻す]をクリックして、元の位置に戻すことができます。そこで再び考え直してみる場合は[やり直し]をクリックして、最後の変更時点まで戻ることができます。[やり直し]で[変更を破棄する]操作を元に戻すことはできません。

-  変更を元に戻すには、ツールバーの [元に戻す] をクリックします。
初めてこのボタンをクリックすると、ワークスペースで直前に行った変更が元に戻されます。このボタンをクリックするたびに、最後に行った変更が1つずつ前に戻されます。
-  すべての変更を元に戻し、元のワークスペースに戻すには、ツールバーの [変更を破棄] ボタンをクリックします。
-  元に戻す機能を使用した後で、その変更をやり直すには、ツールバーの [やり直し] をクリックします。
元に戻す、またはやり直す操作がない場合や、元に戻すことができない変更を行った場合は [元に戻す] ボタンと [やり直し] ボタンは無効になっています。

① 注記

元に戻す操作とやり直す操作では、最近の操作から逆行することのみ可能です。後に続いて操作が実行されていない操作を元に戻すことはできません。

① 注記

データソースまたはシートを削除すると、元に戻す/やり直しの履歴はクリアされます。

関連情報

[ツールバーリファレンス \[193 ページ\]](#)

13.14 データのコメント

分析ワークスペースに、データに関連する情報を保存し、同じ分析を調査する同僚とより直接的に連絡するために、クロスタブセルにコメントを追加することができます。また、分析に追加されたコメントを表示、編集および削除することもできます。

分析ワークスペースにアクセスできる全員が、コメントを表示、編集および削除することができます。

コメントが付いたセルの右上隅には、赤色の三角形が示されます。三角形にマウスホバーすると、ツールヒントにコメントテキストが表示されます。コメント全体を表示するか編集する場合は、セルを右クリックして、**コメント** ▶ **編集** を選択します。または、セルをクリックし、キーボードの **[Shift] + [F2]** を押します。

コメントには次のものが含まれます。

- コメントのための領域
- コメントテキストを前回編集したユーザの名前
- ドキュメントを前回編集した日付

- そのセルで交差する列と行の名前で示された、コメントが関連するセルの場所
- セルに含まれている値

コメントはワークスペース分析とともに保存され、これらの両方が移行され、同時に昇格します。

関連情報

[コメントを追加する \[123 ページ\]](#)

[コメントを編集する \[123 ページ\]](#)

[コメントを削除する \[123 ページ\]](#)

13.14.1 コメントを追加する

1. コメントを追加するセルを右クリックし、**コメント** > **新規** を選択します。または、セルをクリックし、キーボードの **[Shift] + [F2]** を押します。
2. **[コメントの追加]** パネルで、コメント領域にコメントを入力します。
3. **[OK]** をクリックします。

13.14.2 コメントを編集する

1. 編集するコメントが含まれたセルを右クリックし、**コメント** > **編集** を選択します。または、セルをクリックし、キーボードの **[Shift] + [F2]** を押します。
2. **[コメントの編集]** パネルでは、次の変更を加えることができます。
 - コメントテキストを追加または編集します。
 - **[消去]** をクリックして、コメント領域からすべてのテキストを削除します。
3. **[OK]** をクリックします。

13.14.3 コメントを削除する

削除するコメントが含まれたセルを右クリックし、**コメント** > **編集** を選択します。

14 表示属性

表示属性はメンバーのプロパティです。メンバーを分類するための代替手段を提供します。たとえば、"<製品>"階層の属性には、色、メーカー名、ケースサイズ、生産国などがあります。

① 注記

表示属性は SAP BW データソースおよび SAP HANA データソースを使用する場合のみ使用できます。

表示属性を分析に追加して、クロスタブのメンバーに関する追加情報を設定できます。表示属性で並べ替えることもできます。

例

Anne は、映画配給会社で働いており、自分の会社から配給可能な多くの映画を表示するように、自分の "<製品>" 階層を拡張しました。また Anne は、その階層に関連する表示属性も自分のビューに追加しました。あるスーパーマーケットチェーンでの再販に適した映画を確認するために、Anne は "<映画分類>" 表示属性に英数字順の並べ替えを適用します。

デフォルトの表示属性は、メタデータエクスプローラで太字で表示されます。

① 注記

[レイアウト] パネルに表示属性を追加しても、[レイアウト] パネルに関連するディメンションの階層が表示されない場合、そのディメンションのデフォルトの階層が表示属性とともに追加されます。

① 注記

行軸または列軸に階層が表示属性をはじめて追加したときに、デフォルトの表示属性も追加されます。

14.1 表示属性を追加または削除する

表示属性を追加するには、属性をメタデータエクスプローラから [レイアウト] パネルにドラッグするか、クロスタブの行軸または列軸にドラッグします。

属性を削除するには、[レイアウト] パネルまたはクロスタブの外に属性をドラッグします。

または、[レイアウト] パネルまたはクロスタブで階層を右クリックして、[属性] をポイントし、表示属性を選択するか選択解除します。

① 注記

複数の表示属性を行軸に追加した場合、一部のデータまたはメタデータが分析ウィンドウに表示されない可能性があります。ペイン間の区切り記号をドラッグして、メタデータペインおよびデータペインの位置を変更できます。また、ペインの下部にあるスクロールバーも使用できます。

14.2 表示属性を使用したフィルタ処理

初めてメンバーで階層をフィルタすると、その階層とともにクロスタブに表示される表示属性も [\[フィルタ\]](#) パネルに表示されます。[\[フィルタ\]](#) パネルの [\[表示\]](#) ボタンを使用して、別の表示属性を [\[フィルタ\]](#) パネルに追加したり、または現在表示されている属性を削除したりすることができます。これらの表示属性は、メンバーをフィルタするときに役立ちます。

① 注記

2 回目以降は、同じ階層をメンバーでフィルタするたびに、[\[フィルタ\]](#) パネルの以前の表示属性の設定が記憶されます。

① 注記

[\[フィルタ\]](#) パネルに追加する表示属性は、自動的にクロスタブに追加されません。表示属性をクロスタブに追加するには、表示属性をメタデータエクスプローラからクロスタブヘドドラッグします。

例

クロスタブには "製品" 階層が含まれ、その階層と関連付けられている ""生産国"" 表示属性も表示されています。[\[フィルタ\]](#) パネルを開いて "製品" 階層をメンバーでフィルタすると、""生産国"" 表示属性も [\[フィルタ\]](#) パネルに表示されます。分析の対象として、赤色の製品のものに興味があるため、""色"" 表示属性を [\[フィルタ\]](#) パネルに追加します。これで、[\[フィルタ\]](#) パネル内の赤色のメンバーをすべて選択できます。

関連情報

[メンバー別フィルタ \[69 ページ\]](#)

15 データの書式設定

ここでは、静的書式の追加、行および列のサイズ変更、および階層メンバーのラベルの変更により、データの外観を変更する方法を説明します。条件付き書式設定の情報については、[条件付き書式設定 \(例外の強調表示\) \[84 ページ\]](#)を参照してください。

15.1 クロスタブのデータの書式設定

分析や表示の要件に合わせてデータの書式設定ができます。以下の書式設定オプションがあります。

- 小数点以下の桁数
- 桁区切り
- 負数の表示
- 単位

書式設定に関する注意

書式設定は、データの値ではなく、データの表示のみを変更するものです。たとえば、表示データは切り捨てされている場合もあります。データの実際の値を表示するには、[\[プロパティ\]](#) パネルで [\[書式付きセル値の表示\]](#) チェックボックスをクリアします。

桁区切り

桁区切り文字を表示または非表示にできます。たとえば、1000 という値は 1,000 として表示できます。

負数

負数の表示方法を設定できます。たとえば、1000 負の値は -1000 または (1000) と表示できます。

小数点以下の桁数

デフォルトの小数点以下の桁数は 2 ですが、この数を 0 (数値を整数で示す) から 99 までの任意の数に設定できます。表示される小数点以下の桁数を変更しても、データの値には影響がありません。

スケール

表示値をクロスタブで読みやすくするために、表示値の単位を変更できます。たとえば、列に 5,000,000 から 20,000,000 までの複数の値が含まれている場合には、百万単位を選択することによって、これらの値は 5M から 20M までの値として表示されます。

メジャーにスケールを適用した後、同じメジャーに条件付き書式設定を定義する場合は、条件付き書式設定がスケール設定の前または後のどちらにメジャーに適用するかも定義します。

① 注記

分析している SAP BW データにスケール係数が含まれている場合、そのスケール係数は自動的にクロスタブに表示されます。

① 注記

小数点以下の桁数と桁区切り文字のデフォルト設定は、管理者が CMC でデータソース接続に対して設定している保存済みの言語によって規定されます。保存済みの言語のない MSAS 接続のデータを分析している場合、小数点以下の桁数と桁区切り文字のデフォルト設定は、BI ラウンチパッドの [\[基本設定\]](#) ダイアログボックスで設定している [\[優先表示ロケール\]](#) によって規定されます。

15.1.1 表示データの書式を設定する

1. ツールバーで [\[表示\]](#) を選択してから、[\[メジャー書式\]](#) をクリックします。

① 注記

[\[メジャー書式\]](#) ボタンは行軸と列軸にデータが存在している場合に限り有効です。

2. [\[メジャー\]](#) リストで、書式設定を適用するすべてのメジャーを選択します。
3. [\[タイプ\]](#) リストで、使用する数値書式をクリックします。

書式設定オプションは、選択したタイプに依存します。

サーバ	Analysis では、サーバで定義された表示書式が使用されます。
数値	小数点以下の桁数を設定したり、桁区切り文字の使用を指定したり、負数や単位値の表示方法を選択したりできます。
パーセンテージ	値をパーセンテージで示したり、小数点以下の桁数を設定したりできます。
指数	値を科学的表記法で表示したり、小数点以下の桁数を設定したりできます。

4. オプションを設定してから [\[OK\]](#) をクリックして、データに書式を適用します。

15.1.2 データの書式設定を削除する

1. ツールバーで [\[表示\]](#) を選択してから、[\[メジャー書式\]](#) をクリックします。

2. [メジャー] リストで、書式設定を削除するすべてのメジャーを選択します。
3. [タイプ] リストで、[サーバ] を選択します。
4. [OK] をクリックします。
データは書式設定なしで表示されるようになります。

15.2 クロスタブのメンバーの表示設定

一部のデータソースでは、Analysis で表示できる文字列プロパティがメンバーに複数設定されています。

データソース	使用可能な文字列プロパティ
SAP BW	<ul style="list-style-type: none"> キー テキスト 略称 キー: テキスト キー: 短い説明 テキスト: キー
SAP HANA	<ul style="list-style-type: none"> キー テキスト キー: テキスト テキスト: キー
Oracle Essbase	<ul style="list-style-type: none"> 名前 説明 名前: キャプション キャプション: 名前

これらの文字列プロパティを表示または変更するには、クロスタブの階層名を右クリックし、[表示方法] を選択します。

① 注記

[キー: テキスト] などのように 2 つの文字列プロパティを選択すると、プロパティは単一の文字列に結合され、単一の列または行に表示されます。個別の行または列としては表示されません。

15.3 チャートラベルの書式設定

Analysis チャートの数値には、桁区切り記号にカンマ、小数点を示す記号にピリオドを使用した書式が常に設定されます。たとえば、[プロパティ] パネルで [実際の値の表示] を選択すると、円チャートのスライスにラベルとして「198,206.513」などが表示されます。

15.4 列のサイズの変更

クロスタブ列の幅は、[プロパティ] パネルの [列の幅] プロパティで定義されています。デフォルトの幅によってメンバーヘッダが隠れたり、クロスタブに表示されるセルの数が制限されたりする場合には、列のサイズを変更できます。

15.4.1 列のサイズを変更する

1. 列ヘッダ区切りをポイントすると、サイズ変更記号が表示されます。



2. 区切り位置をドラッグして目的の列幅に変更します。

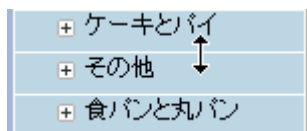
[プロパティ] パネルで列幅を設定することもできます。この設定を変更すると、新しい列幅がすべての列に適用され、各列に事前に適用されたサイズ調整はすべて無視されます。

15.5 行のサイズの変更

セルのデータは複数の行にまたがる場合があります。セル内のすべてのデータが表示されるように行のサイズを変更できます。

15.5.1 行のサイズを変更する

1. 行ヘッダ区切りをポイントすると、サイズ変更記号が表示されます。



2. 区切り位置をドラッグして目的の行の高さに変更します。

[プロパティ] パネルで行の高さを設定することもできます。この設定を変更すると、新しい行の高さがすべての行に適用され、各行に事前に適用されたサイズ調整はすべて無視されます。

16 シート

ワークスペースに複数のシートが含まれていることがあります。シートは1つのワークスペースに関連する分析をグループ化するのに役立ちます。たとえば、ワークスペースで特定の問題に対する解決策を示し、各ページで解決策の1つのステップを示すことができます。

新たに作成したワークスペースには3枚のシートが含まれていますが、分析に合わせてシートを追加または削除できます。シート間を移動するには、分析ウィンドウの下部のシートタブを使用します。

分析ウィンドウの左側にある[タスク]パネルの[\[アウトライン\]](#)パネルには、ワークスペースの上位構造が表示されます。各シートとそこに含まれているクロスタブコンポーネントとチャートコンポーネントが表示されます。

① 注記

各シートには、そのシートに固有の分析とコンポーネントのセットがあり、シート間での共有や関連付けはできません。そのため、異なるシートに同じ分析名とコンポーネント名が存在することがあります。

関連情報

[\[アウトライン\] パネル \[193 ページ\]](#)

16.1 シートの挿入、削除、および名前変更

ワークスペースには常に少なくとも1枚のシートが含まれていますが、必要な数だけシートを追加したり、必要がなくなったシートを削除したりできます。

シートキャプションは、分析ウィンドウの下部のシートタブに表示されます。新しいワークスペースを作成したり、新しいシートをワークスペースに追加すると、シートにはデフォルト名が割り当てられますが、その名前を変更することができます。

16.1.1 シートを挿入する

1. シートタブを右クリックします。
2. [\[新規挿入\]](#) を選択します。

新しいシートが作成され、クリックしたシートタブの右側に挿入されます。新しいシートがアクティブシートになります。

16.1.2 シートを削除する

1. 削除するシートのシートタブを右クリックします。
2. **[削除]** を選択します。

削除対象シートにクロスタブコンポーネントまたはチャートコンポーネントが含まれていると、確認のダイアログボックスが表示されます。[はい] をクリックして、シートの削除を確認します。

16.1.3 シート名を変更する

1. シートタブを右クリックして **[名前の変更]** を選択します。
2. シートの新しいキャプションを入力します。

① 注記

キャプションの最大の長さは 60 文字です。

3. 変更したキャプションを保存するには、シートタブの外側でクリックするか、あるいは **Enter** キーを押します。

17 ワークスペースの保存と共有

このセクションでは、ワークスペースをほかのユーザと共有する方法について説明します。

17.1 他のユーザとの共有のための **Analysis** ワークスペースの保存

Analysis ワークスペースを Web 上でほかのアナリストやエンドユーザと共有する場合には、ワークスペースを BI プラットフォームリポジトリのパブリックフォルダに保存できます。


① 注記

ワークスペースを BI プラットフォームリポジトリのパブリックフォルダに保存するには、適切な権限が必要です。公開権限の有無が不明な場合には、システム管理者に確認してください。

関連情報

[ワークスペースの保存 \[28 ページ\]](#)

17.1.1 ワークスペースをパブリックフォルダに保存する

1.  ツールバーで、[保存] ボタンの横に表示されている矢印をクリックし、[名前を付けて保存] を選択します。
2. フォルダツリーで、[パブリックフォルダ] フォルダを展開し、ワークスペースを保存するフォルダを参照します。
3. ワークスペースのファイル名を入力します。
4. [保存] をクリックします。

関連情報

[ワークスペースの保存 \[28 ページ\]](#)

[別のユーザへの Analysis ワークスペースの送信 \[133 ページ\]](#)

17.2 別のユーザへの Analysis ワークスペースの送信

ワークスペースを別の BI プラットフォームユーザまたは電子メール受信者へ送信できます。

ワークスペースに保存していない変更がある場合には、まずワークスペースが一意の名前で [お気に入り] フォルダに保存されます。保存されたワークスペースは、リンクとして BI プラットフォームユーザまたは電子メール受信者へ送信されます。

① 注記

ワークスペースを添付ファイルとして別の BI プラットフォームユーザまたは電子メール受信者へ送信することはできません。

関連情報

[ワークスペースの保存 \[28 ページ\]](#)

17.2.1 別の BI プラットフォームユーザへの Analysis ワークスペースの送信

ワークスペースを他の BI プラットフォームユーザの受信トレイに送信できます。ワークスペースファイル自体のコピー、または BI プラットフォームリポジトリ内のワークスペースへのショートカットを送信できます。

① 注記

ワークスペースを他のユーザの受信ボックスに送信するには、管理者から特定の権限を付与される必要があります。

17.2.1.1 ワークスペースを BI プラットフォームユーザに送信する



1. ツールバーで、[送信先] ボタンをクリックします。
2. ワークスペースをデフォルト受信ボックスへ送信する場合には、[デフォルト設定を使用] オプションを選択してから、ステップ 6 までスキップします。
あるいは、ワークスペースの送信先となる受信ボックスを指定する場合には、[デフォルト設定を使用] オプションをオフにします。
3. 受信者を[選択した受信者]一覧に追加します。
4. ワークスペースのターゲット名を選択します。
5. ワークスペースをハイパーリンクとして送信する場合は[ショートカット]オプションをオンにし、ワークスペースをファイルとして送信する場合は[コピー]オプションをオンにします。


6. **[送信]** をクリックして、ワークスペースを送信します。

ワークスペースを BI ラウンチパッドから BI プラットフォームユーザへ送信することもできます。詳細については、BI ラウンチパッドユーザガイドを参照してください。

17.2.2 電子メール受信者へのワークスペースの送信

電子メールにワークスペースへのハイパーリンクを含めることによって、ワークスペースを電子メール受信者に送信できます。

17.2.2.1 ワークスペースを電子メール受信者に送信する

1.  ツールバーで、**[送信先ト]** ボタンの横の矢印をクリックし、**[電子メール]** をクリックします。

① 注記

エラーメッセージ「この操作に必要な送信先プラグインが無効になっています。この機能が必要な場合は、システム管理者に連絡してください。」が表示された場合は、BI プラットフォーム Adaptive Job Server が電子メールの出力先として設定されていないことをシステム管理者に通知します。

2. ワークスペースをデフォルト電子メールアドレスへ送信する場合には、**[デフォルト設定を使用]** オプションを選択してから、ステップ 5 までスキップします。
あるいは、ワークスペースの送信先となる電子メールアドレスを指定する場合には、**[デフォルト設定を使用]** オプションをオフにします。
3. 差出人、宛先、および Cc のアドレスと件名を入力します。
4. **[ビューアのハイパーリンク]** プレースホルダをメッセージフィールドに追加します。
5. **[送信]** をクリックして、電子メールを送信します。
ワークスペースを BI ラウンチパッドから電子メールアドレスへ送信することもできます。詳細については、BI ラウンチパッドユーザガイドを参照してください。

17.3 ワークスペースの共有を目的とした OpenDocument URL の使用

SAP BusinessObjects ドキュメントの中には、SAP Crystal Reports ドキュメントや SAP BusinessObjects Web Intelligence ドキュメントのように Analysis ワークスペースへの OpenDocument リンクを作成できるものがあります。それらのドキュメントのユーザは、Analysis を起動せずに Analysis ワークスペースにすばやくアクセスできます。OpenDocument リンクを作成するには、Analysis ワークスペースの URL をドキュメントに埋め込みます。

ワークスペース URL を電子メールやその他の Office ドキュメントに埋め込むこともできます。

17.3.1 ワークスペースの URL を取得する



1. ワークスペースを開いて、[送信先] ボタンの横の矢印をクリックします。
2. [ドキュメントリンク] を選択します。
現在のワークスペースの URL が表示されます。
3. Crystal レポート、Web Intelligence ドキュメント、またはその他の Office ドキュメントにこの URL をコピーします。

17.3.2 パラメータ付き URL

プロンプトが関連付けられている SAP BW データソースを基準にした Analysis ワークスペースを開くと、通常はプロンプトに値を指定しなければワークスペースにアクセスできません。

ただし、OpenDocument URL にパラメータを追加して SAP BW プロンプト値を設定することができます。ワークスペースのすべての必須プロンプトにパラメータ付き URL で値を指定すれば、最初にプロンプト値を入力しなくてもワークスペースを開くことができます。必要な場合は、ワークスペースを開いた後に異なるプロンプトを指定できます。

① 注記

SAP HANA ワークスペースのパラメータ付き URL は、本リリースではサポートされていません。

パラメータ付き OpenDocument URL は、通常、管理者または IT スペシャリストが作成します。パラメータ付き URL を作成するには、OpenDocument の構文と、指定するプロンプト変数およびプロンプト値の技術名に精通している必要があります。詳細については、SAP ヘルプポータル (<http://help.sap.com>) で提供されている SAP BusinessObjects Analysis, edition for OLAP 管理者ガイドを参照してください。

関連情報

[SAP BW データソースおよび SAP HANA データソースのプロンプト \[159 ページ\]](#)

18 印刷と PDF ファイル

このセクションでは、印刷したり、同僚へ送信したりするために、ワークスペースを PDF ファイルへエクスポートする方法について説明します。

分析後には、ワークスペースを PDF ファイルへエクスポートするか、あるいはデータを印刷して、分析結果を共有する必要が生じることがあります。Analysis の印刷機能を使用して、以下のことを実行できます。

- [シートの印刷 \[136 ページ\]](#)
- [データの印刷 \[137 ページ\]](#)

印刷するデータまたはシートを含む PDF が生成され、デフォルト PDF ビューアで新しいブラウザウィンドウに表示されます。その PDF ファイルを同僚へ送信したり、PDF ビューアからデータのハードコピーを印刷したりできます。

① 注記

2 つ以上のコンポーネントが含まれているシートから 1 つのコンポーネントのみを印刷するには、分析ウィンドウでそのコンポーネントを最大化してから、シートを印刷します。

クロスタブとチャートは画面表示どおりに印刷されますが、わずかな違いがあります。列幅に合わないメンバーヘッダは、画面での切り捨てとは異なる方法で切り捨てられます。

プロンプト値を含む分析を印刷すると、値は PDF で個別のページに表示されます。

書式設定された値または実際の値

[プロパティ] パネルでは、書式設定された値と実際の値のどちらをクロスタブに表示するかを制御できます。クロスタブを印刷する場合、印刷出力のセル値の書式設定は、画面に表示されたものと一致します。

SAP BW データが表示されているクロスタブにスケール係数が表示されている場合、そのスケール係数は PDF にもそのまま出力されます。

関連情報

[ワークスペースの保存と共有 \[132 ページ\]](#)

[データのエクスポート \[139 ページ\]](#)

18.1 シートの印刷

現在開いているシートのみを印刷できます。


シートを印刷する時には、画面表示どおりにシートのすべてのコンポーネントが印刷されます。画面に表示されたデータのみが印刷されます。分析のすべてのデータを印刷するには、データ印刷オプションをします。

選択した用紙サイズオプションと印刷の方向オプションに合わせて、シートのサイズが設定されます。縦横比は保持されます。

18.2 データの印刷

データを、クロスタブ表現やチャート表現ではなく、未処理のまま印刷できます。データ印刷オプションを選択すると、画面に表示されているデータだけではなく、分析のフィルタされたすべてのデータが印刷されます。印刷するデータをクロスタブから選択すると、そのクロスタブに適用されたセル書式設定が保持されます。選択した用紙サイズオプションと印刷の方向オプションに合わせて、データの書式が設定されます。

18.3 PDF にエクスポートする

1.  ツールバーで、**[印刷]** をクリックします。
2. **[シート]** または **[データ]** を選択します。
シート印刷およびデータ印刷の詳細については、[シートの印刷 \[136 ページ\]](#)と[データの印刷 \[137 ページ\]](#)を参照してください。
3. データ印刷を選択した場合には、印刷する分析を選択します。クロスタブを選択すると、印刷出力ではそのクロスタブに適用されているセル書式設定が保持されます。オプション **[ページ幅に合わせる]** または **[見出しの繰り返し]** のいずれかを適用することもできます。
使用できる印刷オプションについては、[印刷オプション \[137 ページ\]](#)を参照してください。
4. 用紙サイズと印刷の方向を選択します。
5. ヘッダとフッタに表示する情報フィールドを選択します。
[カスタムテキスト] フィールドを選択する場合には、テキストボックスにカスタムテキストを入力します。
6. **[OK]** をクリックします。
データは PDF に変換され、デフォルトの PDF ビューアで新しいブラウザウィンドウに表示されます。これで、PDF ビューアからデータのハードコピーを印刷できるようになります。

18.4 印刷オプション

次の印刷オプションを使用できます。

オプション	説明
シートまたはデータ	ワークスペースの現在のシートを印刷する場合は [シート] を選択します。分析のすべてのデータを印刷するには、データを選択します。
ページ幅に合わせる	すべての列がページに収まるように印刷出力を縮小するには、このオプションを選択します。 このオプションはデータ印刷の時にのみ利用できます。
見出しの繰り返し	各印刷ページで行ヘッダと列ヘッダを繰り返し印刷する場合には、このオプションを選択します。 このオプションはデータ印刷の時にのみ利用できます。
用紙サイズ	レター、リーガル、A4、および A3 のいずれかの用紙サイズを選択します。
ページの方向	横向きまたは縦向きを選択します。

印刷ページのヘッダとフッタには、以下の情報フィールドを追加できます。データ印刷にのみ適用できるフィールドや、シート印刷にのみ適用できるフィールドがあります。

ヘッダフィールドとフッタフィールド	説明
シート名	分析ウィンドウの下部にあるシートタブで定義された、ワークスペースのシートの名前。
分析名	[プロパティ] パネルで定義された、分析の名前。
コンポーネント名	データを印刷する時に選択したクロスタブまたはチャートコンポーネントの名前。
コンポーネントコメント	[プロパティ] パネルのクロスタブまたはチャートコンポーネントの説明フィールドのコンテンツ。
ワークスペース名	保存時にワークスペースに割り当てられた名前。
ページ番号	印刷ページ番号。
今日の日付	現在の日付
最新表示日	データソースが最新表示された日付。
カスタムテキスト	このオプションを選択してから、テキストフィールドにテキストを入力します。

19 データのエクスポート

この節では、Microsoft Excel ファイルまたはカンマ区切り (.csv) ファイルにデータをエクスポートする方法を説明します。

19.1 Excel にデータをエクスポート

Excel ユーザがデータを共有できるように、データを分析から Microsoft Excel にエクスポートできます。データは Excel ですぐに表示するか、Excel またはサードパーティアプリケーションで開くことができるように .xls または .xlsx ファイルに保存することができます。データを Excel ですぐに表示するには、マシンに Excel がインストールされている必要があります。

エクスポートされた分析がクロスタブコンポーネントとチャートコンポーネントの両方に関連付けられている場合には、データは Excel ワークシートにエクスポートされ、チャートは静止画像としてエクスポートされます。分析がチャートコンポーネントにのみ関連付けられている場合には、チャートの静止画像のみがエクスポートされます。

クロスタブを Excel ワークブックにエクスポートすると、Analysis, edition for OLAP でのクロスタブ分析の表示と同じ背景の色と太字を使用して、Excel で結果行が強調表示されます。

以下の図は、強調表示された結果行と太字フォントを説明しています。


	A	B	C	D	E
1	Background Filter:				
2					
3		Key Figures			
4	Country Hierarchy 01	Order Amount	Order Quantity	Product Price	Product Price (Float)
5	Overall Result	\$ 277,290,434.96	307,196 PC	80,103,178.150	98,892,804.4216972
6	WORLD : WORLD	\$ 237,575,779.16	262,461 PC	68,429,434.060	84,480,775.8627108
7	EUROPE : EUROPE	\$ 25,977,635.54	31,009 PC	8,491,926.990	10,483,859.6218076
8	8 : Belgium	\$ 3,527,705.36	3,826 PC	973,385.440	1,201,710.3212133
9	18 : Czech Republic	\$ 23,089.50	148 PC	41,432.800	51,151.6007439
10	19 : Denmark	\$ 3,289.80	141 PC	26,599.260	32,838.5898998
11	23 : England	\$ 7,098,705.92	7,886 PC	2,142,500.900	2,645,062.6226116
12	24 : Finland	\$ 84,209.40	150 PC	35,050.640	43,272.3915134
13	25 : France	\$ 3,906,241.00	6,965 PC	1,957,188.360	2,416,281.7277914
14	26 : Germany	\$ 5,688,752.38	6,331 PC	1,760,437.760	2,173,379.7724007
15	27 : Greece	\$ 546,891.70	130 PC	37,934.930	46,833.2430733
16	28 : Hungary	\$ 2,237.40	141 PC	47,571.740	58,730.5383940
17	31 : Ireland	\$ 273,082.12	518 PC	158,075.050	195,154.3667134
18	37 : Luxembourg	\$ 473,643.40	402 PC	117,377.360	144,910.3091050
19	42 : Netherlands	\$ 4,349,787.56	4,371 PC	1,194,372.750	1,474,534.1383478
20	NORTH_AMERICA : NORTH_AMERICA	\$ 202,401,620.34	219,944 PC	57,081,729.690	70,471,265.4435861
21	ASIA_PAC : ASIA_PAC	\$ 7,656,112.66	9,065 PC	2,249,212.580	2,776,805.4266235
22	MIDDLE_EAST : MIDDLE_EAST	\$ 1,540,410.62	2,443 PC	606,564.800	748,845.3706936
23	REST_H : Not Assigned Country (s)	\$ 39,714,655.80	44,735 PC	11,673,744.090	14,412,028.5589578
24					

複数のコンポーネントをエクスポートすると、各コンポーネントからのデータは同じ Excel ワークブックの個別シートにエクスポートされます。

各分析がプロンプト値に関連付けられている場合には、プロンプト値を表示するために Excel ワークブックに個別シートが追加されます。

並べ替え、フィルタ、スケール係数 (SAP BW データの場合のみ)、および条件付き書式設定は、エクスポートされたデータで保持されます。条件付き書式設定には、ネイティブな Excel の条件付き書式設定を使用することもできます。計算データはエクスポートされますが、計算式は保持されません。

19.1.1 Excel にデータをエクスポートする

1.  ツールバーの**エクスポート**ボタンの横の矢印をクリックし、**XLS** または **XLSX (Excel 2007 以降)** をクリックします。

① 注記

[**エクスポート**] ボタンは現在のシートに有効な分析が含まれるまで無効です。

2. ダイアログボックスで、データをエクスポートするクロスタブコンポーネントまたはチャートコンポーネントを選択します。

[**エクスポート**] ボタンをクリックする前に、分析ウィンドウまたは [**アウトライン**] パネルでコンポーネントを選択することもできます。エクスポートするコンポーネントを複数選択すると、各コンポーネントからのデータは同じ Excel ワークブックの個別シートにエクスポートされます。

3. 分析にネスト階層が含まれており、各内部階層メンバーに対して外部階層メンバーヘッダを繰り返すには、[**外部ヘッダメンバーを繰り返す**] オプションを選択します。
4. リンクされたコンポーネントが分析に複数含まれており、それらのリンクコンポーネントからもデータをエクスポートするには、[**リンクされたクロスタブおよびチャートを含む**] オプションを選択します。
5. クロスタブ行のメンバーにキー値とテキスト値の両方が表示されていて、これらの値を Excel の別の列に表示する場合は、[**キー値とテキスト値を別の列としてエクスポート**] を選択します。

このオプションは、SAP HANA または SAP BW データに基づく分析にのみ適用されます。クロスタブ行の少なくとも 1 つのメンバーにキープロパティおよびテキスト文字列プロパティの両方が表示されている場合に使用できます。

6. [**OK**] をクリックすると、データがエクスポートされます。

Microsoft Excel がマシンにインストールされている場合には、ファイルをそのままディスクに保存したり、開いたりできます。

Excel がインストールされていない場合には、ファイルに **.xls** または **.xlsx** 拡張子を付けてディスクに保存します。保存したファイルを開くには、Excel またはサードパーティアプリケーションをインストールします。

19.2 カンマ区切り (**..csv**) ファイルへのデータのエクスポート

データを分析からカンマ区切り形式へエクスポートすると、ほかのアプリケーションのユーザとデータを共有できます。カンマ区切り値は、Excel などのアプリケーションで直ちに表示でき、**.csv** ファイルにも保存できます。

データは、クロスタブの構成表示に従ってエクスポートされます。分析にチャートコンポーネントのみが関連付けられている場合には、その分析からのデータはエクスポートされますが、チャートビジュアライゼーションはエクスポートされません。

並び替えとフィルタはエクスポートされたデータで保持されます。計算データはエクスポートされますが、計算式は保持されません。

SAP プロンプト値も .csv ファイルにエクスポートされます。

19.2.1 データを .csv ファイルにエクスポートする。

1.  ツールバーの [エクスポート] ボタンの横の矢印をクリックし、[CSV] をクリックします。

① 注記

[エクスポート] ボタンは現在のシートに有効な分析が含まれるまで無効です。

2. ダイアログボックスで、データをエクスポートするクロスタブコンポーネントまたはチャートコンポーネントを選択します。
[エクスポート] ボタンをクリックする前に、分析ウィンドウまたは [アウトライン] パネルでコンポーネントを選択することもできます。
3. 分析にネスト階層が含まれており、各内部階層メンバーに対して外部階層メンバーヘッダを繰り返すには、[外部ヘッダメンバーを繰り返す] オプションを選択します。
4. クロスタブ行のメンバーにキー値とテキスト値の両方が表示されていて、これらの値を .csv で別の列に表示する場合は、**キー値とテキスト値を別の列としてエクスポート**を選択します。
このオプションは、SAP HANA または SAP BW データに基づく分析にのみ適用されます。キープロパティとテキスト文字列プロパティの両方が、クロスタブ行の少なくとも 1 つのメンバーで表示されている場合に、利用できます。
5. [OK] をクリックすると、データがエクスポートされます。

Microsoft Excel などの .csv ファイルビューアがマシンにインストールされている場合には、ファイルをそのままディスクに保存したり、開いたりできます。

.csv ファイルビューアがインストールされていない場合には、ファイルに .csv 拡張子を付けてディスクに保存します。保存したファイルを開くには、Microsoft Excel またはほかのアプリケーションをインストールします。

19.3 分析アプリケーションへのエクスポート

アプリケーション設計者は、SAP BusinessObjects Design Studio を使用して、SAP BW データソースおよび SAP HANA データソース上で分析アプリケーションおよびダッシュボードを作成できます。これらの分析アプリケーションは、BI プラットフォーム または SAP BusinessObjects Mobile を経由して使用でき、デスクトップブラウザおよびモバイルデバイス向けに設計できます。

Analysis, edition for OLAP は Design Studio と緊密に統合されています。Analysis でワークスペースを作成したら、分析アプリケーションとしてエクスポートし、Design Studio でさらに編集したり、モバイルユーザやデスクトップユーザが柔軟に利用できるようにすることができます。

分析アプリケーションをエクスポートすることには、以下のような利点があります。

- 対話性: 分析アプリケーションを表示するときに、バックグラウンドフィルタのメンバーの並べ替え、ドリル、変更をユーザが実行できます。
- カスタマイズ: 分析アプリケーションに含めるクロスタブおよびチャートをアナリストが決定できます。オプションで、必要に応じてアプリケーション設計者が Design Studio でアプリケーションを編集できます。
- 複数コンポーネントのサポート: 複数のクロスタブおよびチャートを分析アプリケーションに含めることができます。また、複数のシートを含めることもできます。
- モバイルのサポート: iPad などのモバイルデバイスで分析アプリケーションを表示できます。ワークスペースを Analysis からエクスポートするときに、分析アプリケーションをモバイルデバイスに最適化することができます。

ユーザがワークスペースを分析アプリケーションとしてエクスポートできるようにするには、Design Studio がインストールされ、BI プラットフォームと統合されている必要があります。詳細については、SAP Help Portal (<http://help.sap.com>) で入手可能な SAP BusinessObjects BI プラットフォームを基にした管理者ガイド: *SAP BusinessObjects Design Studio* を参照してください。

また、ユーザがワークスペースを分析アプリケーションとしてエクスポートするには、適切な BI プラットフォームの権限を保持している必要もあります。詳細については、*SAP BusinessObjects Analysis, edition for OLAP* 管理者ガイドのアクセス権の管理に関する節を参照してください。

SAP BusinessObjects Design Studio でのアプリケーションの作成に関する詳細については、SAP Help Portal (<http://help.sap.com>) で提供されているユーザガイド: *SAP BusinessObjects Design Studio* を参照してください。


① 注記

Analysis, edition for OLAP の一部のチャートタイプは分析アプリケーションではサポートされていないため、クラスタリチャートに置き換えられます。

19.3.1 分析アプリケーションをエクスポートする

以下の前提条件が満たされている場合に、分析アプリケーションをエクスポートできます。

- SAP BusinessObjects Design Studio がインストールされ、BI プラットフォームと統合されている。
- 適切な BI プラットフォーム権限がある。
- ワークスペースに、SAP BW または SAP HANA データに基づくクロスタブが少なくとも 1 つ含まれている。

1.  ツールバーで **[分析アプリケーションの作成]** をクリックします。
[エクスポート] ボタンの横にある矢印をクリックして **[分析アプリケーション]** をクリックすることもできます。
2. 分析アプリケーションの形式を選択します。
 - **デスクトップ:** この形式は、デスクトップコンピュータまたはラップトップ向けに設計されており、Analysis, edition for OLAP と外観が似ています。1 つのシートに最大 4 つの分析を表示できます。

- *iPad*: この形式は iPad 向けに設計されており、表示できる領域がデスクトップコンピュータより小さくなっています。各分析は個別に表示されますが、同じシート上の1つの分析から別の分析へ、スワイプ操作を使用してナビゲートできます。

① 注記

両方の形式とも、複数のシートをサポートしています。

3. 分析アプリケーションに含めるクロスタブおよびチャートを選択します。
4. エクスポート後すぐにテストする場合は、[[直ちに開く](#)] チェックボックスを選択して分析アプリケーションをブラウザウィンドウで開きます。
5. [保存] をクリックします。
6. 分析アプリケーションを保存する BI プラットフォームリポジトリのフォルダに移動します。アプリケーションの名前を入力して [[OK](#)] をクリックします。

選択したコンポーネントは分析アプリケーションに変換され、入力した名前でもフォルダに保存されます。

19.3.2 分析アプリケーションで利用できるチャートの種類

次のチャートは分析アプリケーションでサポートされません。

- 3D 集合縦棒
- ボックスプロット
- ウォーターフォール

これらのチャートを分析アプリケーションにエクスポートすると、集合縦棒チャートとして表示されます。

その他のすべての Analysis チャートの種類がサポートされます。

20 OLAP データソースへの接続

この節では、OLAP データソースへの接続方法について説明します。




20.1 OLAP データソースオブジェクト

Analysis でデータの処理を開始する前に、データソースをワークスペースに追加する必要があります。

データソースは、Analysis が OLAP サーバに接続するために必要なすべての情報を含むリポジトリオブジェクトで、システム管理者によって作成されます。

管理者は、分析担当者が必要とする OLAP データプロバイダの数だけ、異なるデータソースオブジェクトを作成します。その後、分析担当者はこれらのデータソースをすべて使用できるようになるので、自分のワークスペースに追加します。

管理者は、これらデータソースオブジェクトの種類を定義できます。

アイコン	データソースの種類	説明
	キューブ	データソースオブジェクトは、OLAP サーバ上の 1 つの OLAP キューブを直接指定します。
	クエリ	データソースオブジェクトは、OLAP サーバ上の 1 つの OLAP クエリを直接指定します。
	システム	データソースオブジェクトは、多数のキューブおよびクエリを含めることのできる OLAP サーバを直接指定します。

関連情報

[データソースの追加 \[144 ページ\]](#)

[データソースの変更 \[146 ページ\]](#)

[データソースの削除 \[147 ページ\]](#)

[無効なデータソース接続 \[148 ページ\]](#)

[SAP BW データソース \[153 ページ\]](#)

20.2 データソースの追加

管理者がデータソースオブジェクトを作成したら、データソースを自分のワークスペースに追加することができます。分析するデータを 1 つのデータベースのみから得る場合は、データソースを 1 つ追加します。または、複数

のデータソースを追加して、ワークスペース内の分析ごとに異なるデータソースを使用することもできます。ただし、分析の設計を開始したら、分析とそのクロスタブコンポーネントおよびチャートコンポーネントはデータソースに固定されます。あるデータソースから得るメタデータをすでに使用している分析に、別のデータソースから得るメタデータを追加することはできません。

データソースをワークスペースに追加するときにキューブまたはクエリを選択すると、データは直ちにワークスペースに接続されます。システムを選択する場合は、最初にそのシステム内のキューブまたはクエリを選択する必要があります。

データソースの検索

[[データソースを開く](#)] ダイアログボックスで、一覧からデータソースを選択するか、またはデータソースを検索します。




検索するには、次のルールに従います。

- SAP BW システムおよび SAP HANA システムでは、検索はデータソースオブジェクトの名前およびテキストの両方で実行されます。それ以外のシステムでは、検索はキューブ名でのみ実行されます。
- テキストまたはキーが検索文字列と完全一致するデータソースのみを検索するには、検索文字列を引用符で囲みます。
- テキストまたはキーが検索文字列を含むデータソースを検索するには、検索文字列を引用符で囲みません。
- 検索文字列が、スペース区切りの複数の単語で構成されている場合、単語ごとに別々に検索が実行され、結果が集計されます。
- アスタリスク(*)をワイルドカードとして使用できます。検索文字列内に通常の文字としてアスタリスクを含めるには、その検索文字列を引用符で囲みます。
- 完全一致するデータソースが1つ見つかり、テキストまたはキーのどちらかが検索文字列と完全一致する場合は、そのデータソースが自動的に選択されます。

20.2.1 データソースをワークスペースに追加する

1.  [[データ](#)] パネルで、[[データソースへの接続](#)] ボタンをクリックします。

[[データソースを開く](#)] ダイアログボックスが表示され、データの取得に使用できるすべてのデータソースが表示されます。

2. 一覧からデータソースを選択します。
 -  キューブを選択した場合は、[OK] をクリックして、ワークスペースに追加します。
 -  クエリを選択した場合は、[OK] をクリックして、ワークスペースに追加します。
 -  システムを選択した場合は、[[次へ](#)] をクリックして、そのシステムから使用できるキューブおよびクエリを表示します。キューブまたはクエリを選択するか、または [[検索](#)] タブをクリックしてキューブまたはクエリを検索した後、[OK] をクリックしてデータソースをワークスペースに追加します。
3. データソースに認証が必要な場合は、[ログオン] ダイアログボックスに認証情報を入力し、[OK] をクリックします。

4. プロンプトを含む SAP BW または SAP HANA データソースを選択した場合には、[プロンプト] ダイアログボックスが開きます。プロンプト値を選択します。

プロンプトの詳細については、[SAP BW データソースおよび SAP HANA データソースのプロンプト \[159 ページ\]](#)を参照してください。

認証が成功すると [データ] パネルの最上部の一覧にデータソースが表示され、メタデータエクスプローラには、データソースに含まれるデータオブジェクト (メタデータ) が表示されます。

認証が失敗した場合は、まず認証情報を正しく入力したかどうかを確認します。それでも認証が失敗する場合は、システム管理に確認してください。セントラル管理コンソールで認証情報が適切にセットアップされていないか、OLAP サーバーがオフラインの可能性もあります。

20.2.2 ワークスペース内での OLAP データの表示

ワークスペースにデータソースを追加したら、分析を定義して、分析ウィンドウでデータの処理を開始できます。

関連情報

[分析 \[33 ページ\]](#)

[OLAP データソースオブジェクト \[144 ページ\]](#)

[データソースの変更 \[146 ページ\]](#)


[データソースの削除 \[147 ページ\]](#)

[無効なデータソース接続 \[148 ページ\]](#)

20.3 データソースの変更

あるデータソースを操作していて別のデータソースを操作する場合は、[データ] パネルで別のデータソースに変更できます。ただし、すでに最初のデータソースから得るデータを使用しているコンポーネントで、2 番目のデータソースから得るデータを使用することはできません。新しい分析を追加して、2 番目のデータソースから得るデータをその新しいコンポーネントに追加する必要があります。

20.3.1 別のデータソースに変更する

1.  変更するデータソースがまだワークスペースに追加されていない場合は、[データ] パネルの [\[データソースへの接続\]](#) ボタンをクリックします。

また、変更するデータソースがすでにワークスペースに追加されている場合は、[データ] パネルの一覧からデータソースを選択します。メタデータエクスプローラの内容が変わって新しいデータソースが反映されます。手順 5 に進みます。


2. [\[データソースを開く\]](#) ダイアログボックスで、目的のデータソースを選択し、[\[OK\]](#) をクリックします。
3. データソースに認証が必要な場合は、[\[ログオン\]](#) ダイアログボックスに認証情報を入力し、[\[OK\]](#) をクリックします。

認証が成功すると [\[データ\]](#) パネルの最上部の一覧にデータソースが表示され、メタデータエクスプローラには、データソースに含まれるデータオブジェクト (メタデータ) が表示されます。

認証が失敗した場合は、まず認証情報を正しく入力したかどうかを確認します。それでも認証が失敗する場合は、システム管理に確認してください。セントラル管理コンソールで認証情報が適切にセットアップされていないか、OLAP サーバがオフラインの可能性もあります。

4. プロンプトを含む SAP BW または SAP HANA データソースを選択した場合には、[\[プロンプト\]](#) ダイアログボックスが開きます。プロンプト値を選択します。

プロンプトの詳細については、[SAP BW データソースおよび SAP HANA データソースのプロンプト \[159 ページ\]](#)を参照してください。

5.  ツールバーで [\[挿入\]](#) を選択してから、[\[クロスタブの挿入\]](#) ボタンをクリックして、新しい分析を分析ウィンドウに追加します。

これで、新しいデータソースから得るデータを新しい分析に追加できます。

① 注記

すでに別のデータソースから得るデータを使用しているコンポーネントに、新しいデータソースから得るデータを追加することはできません。

関連情報

[OLAP データソースオブジェクト \[144 ページ\]](#)

[データソースの追加 \[144 ページ\]](#)


[データソースの削除 \[147 ページ\]](#)

[無効なデータソース接続 \[148 ページ\]](#)

20.4 データソースの削除

[\[データ\]](#) パネルで、OLAP データソースをワークスペースから削除できます。

20.4.1 ワークスペースからデータソースを削除する

1. [\[データ\]](#) パネルのデータソース領域で、ワークスペースから削除するデータソースを選択します。
2.  [\[選択したデータソースを削除\]](#) をクリックします。

そのデータソースを現在使用している分析がある場合は、警告メッセージが表示されます。

関連情報

[OLAP データソースオブジェクト \[144 ページ\]](#)

[データソースの追加 \[144 ページ\]](#)

[データソースの変更 \[146 ページ\]](#)

[無効なデータソース接続 \[148 ページ\]](#)

20.5 無効なデータソース接続

Analysis ワークスペース内のデータソース接続は、次のようないくつかの理由で無効になる場合があります。

- 接続のログオンダイアログボックスを意図的にキャンセルした場合。
- 指定した認証情報で認証が失敗した場合。指定したパスワードが、セントラル管理コンソールに保存されているパスワードと一致しない場合があります。
- 防ぐことのできない原因で認証が失敗した場合。OLAP サーバの再起動、データベースからの切断、またはメンテナンスのためにのシャットダウンなどがあります。

データソース接続が無効になると、無効になったデータソースに基づいた分析は実行されません。無効になったデータソースは、アクティブなデータソース一覧に表示されますが、使用できません。無効な接続を再構築する方法については、システム管理者にお問い合わせください。

21 レポートへのリンク

Analysis で OLAP データを分析していると、別の Analysis データ分析文書、または関連する SAP Crystal Reports、または Web Intelligence レポートの中で閲覧したい情報が見つかることがあります。これらの文書またはレポートのいずれかにアクセスするには、自分の Analysis ワークスペース内部に、文書またはレポートへのジャンプリンクを作成します。

SAP Crystal Reports や Web Intelligence でターゲットレポートを作成するパワーユーザやレポート作成者は、ターゲットレポートを Analysis ユーザが利用できるようにする必要もあります。

リンクされたレポートを開くと、行および列のメンバーテキストなどのコンテキスト情報がパラメータとしてレポートに渡されます。これらのパラメータにより、上記メンバーに関する詳細情報がレポートに表示可能になります。


たとえば、Analysis でデータを分析中に、リピート率の高い顧客の多くが 2010 年にシアトル店でノーブランドのコーヒー豆を購入したことが分かったとします。そこで、これらの顧客に対して、代わりにプレミアムコーヒー豆を試してもらうようプロモーションを実施することにしたとします。データベースからリピート率の高い顧客の名前と住所を取り込んだ Crystal レポートがレポート作成者から提供されます。この分析から Crystal レポートへのジャンプリンクを作成して、リンクされた Crystal レポートへ送信するパラメータ “generic coffee beans”、“Seattle”、および “2010” を選択します。レポートはリレーショナルデータベースを照会して、2010 年にシアトル店でノーブランドのコーヒー豆を購入したリピート率の高い顧客の名前と住所を返します。

ジャンプリンクのターゲットが変数を含む SAP Crystal Reports または Web Intelligence レポートである場合、変数に対する回答もソース文書からターゲットに渡されます。ただし、ジャンプリンクのターゲットが変数を含む Analysis データ分析文書である場合、ターゲット文書で変数を入力または選択するように求められます。変数への回答は、ある Analysis データ分析文書から別の Analysis データ分析文書に自動的に渡されません。

リンクしているレポートには、OLAP キューブのデータに関連するトランザクションデータを含めることができます。その場合は、リンクはドリルスルーと同様になります。ただし、リンクされたレポートにはどの種類のデータも含まれる可能性があります。これは、レポートがワークスペースから少なくとも 1 つのパラメータを受け取ればよいからです。

手動で削除されない限り、定義されたジャンプリンクはワークスペースに保存されます。そのため、他のユーザもリンクされたレポートの情報を閲覧できるように、ワークスペースを他のユーザと共有できます。

21.1 レポートへのジャンプリンクを作成する

1. レポートに渡すパラメータを示す行ヘッダ、列ヘッダ、またはセルを右クリックし、**ジャンプリンク**  の順に選択します。

行ヘッダまたは列ヘッダを右クリックすると、そのパラメータをレポートに渡せるようになります。また、クロスタブのセルを右クリックすると、セルの値、行ヘッダ、列ヘッダ、およびバックグラウンドフィルタメンバーのすべてをレポートに渡せるようになります。

2. **[変更]** をクリックして、BI プラットフォームリポジトリからレポートを選択します。

特定のレポートタイプのみを表示する場合は、**[リポジトリエクスプローラ]** の下部にあるリストから **[Web Intelligence]** または **[Crystal Reports]** を選択できます。



3. 必要なレポートにナビゲートしてそれを選択し、[OK] をクリックします。
4. レポートへ渡すパラメータ (1 つまたは複数) を選択して [OK] をクリックします。

ジャンプリンクが作成され、ブラウザにレポートが表示されます。ジャンプリンクはワークスペースに保存されるため、ワークスペースの他のユーザは後でこのジャンプリンクを利用できます。

21.2 リンクされたレポートを表示する

1. 行ヘッダ、列ヘッダ、またはセルを右クリックしてから、[ジャンプリンク] を選択します。
2. オプションのリストから、リンクされたレポート名を選択します。
リンクされたレポートがブラウザに表示され、右クリックしたメンバーヘッダやセルに対応するパラメータが Analysis からレポートに渡されます。

21.3 レポートへのジャンプリンクを削除する

1. クロスタブのセル、行ヘッダ、または列ヘッダを右クリックします。
2.  **ジャンプリンク**  の順に選択します。
ジャンプリンクはメンバーやクロスタブのセルではなく分析に関連付けられているため、クロスタブの任意のセルまたはメンバーを右クリックしてジャンプリンクにアクセスできます。現在の分析に関連付けられているジャンプリンクがある場合、そのリンクは右クリックするとリストに表示されます。

21.4 リンクに使用できるレポート

管理者によって Analysis データソース接続とユニバースの関連が定義されていることがあります。使用しているデータソース接続がユニバースと関連付けられている場合には、[リポジトリエクスプローラ] の [関連するユニバースに基づくレポートのみ表示] チェックボックスが選択されています。レポートへのジャンプリンクを新規作成すると、[リポジトリエクスプローラ] に最初に表示されるレポートリストには、Analysis データソース接続に関連付けられているユニバースを使用するレポートのみが表示されます。

異なるユニバースに基づいたレポートにアクセスする場合は、[関連するユニバースに基づくレポートのみ表示] チェックボックスをクリアします。

22 その他の SAP BusinessObjects アプリケーションでの分析の使用

分析後には、その他の SAP BusinessObjects アプリケーションを使用して、結果を伝達し、分析を共有できます。たとえば、SAP Crystal Reports を使用して、幅広い対象者に配信するために書式が高度に設定されたレポートを作成できます。あるいは SAP BusinessObjects Analysis, edition for Microsoft Office を使用して財務部門のユーザと分析を共有できます。

その他のアプリケーションで分析を使用するには、分析を分析ビューとしてエクスポートします。分析ビューとは、分析の保存されたナビゲーション状態であり、適用フィルタ、階層、および使用可能なメタデータが含まれています。これはデータの定義であり、データを視覚化する方法を表すものではありません。

SAP BusinessObjects Analysis (OLAP 版および Microsoft Office 対応版)、SAP Crystal Reports、SAP BusinessObjects Web Intelligence などのアプリケーション間で分析ビューを共有できます。Analysis, edition for OLAP および Analysis, edition for Microsoft Office では、分析ビューのインポートとエクスポートが可能ですが、他のアプリケーションではインポートのみ可能です。これらのアプリケーションのユーザは、データを視覚化する方法を選択できます。

分析ビューはワークスペースのように BI プラットフォームリポジトリに保存されます。ワークスペースは複数の分析を含むことができますが、分析ビューに含まれる分析は1つのみです。

① 注記

SAP HANA データソースに基づく分析ビューは、Web Intelligence および Crystal Reports ではサポートされていません。

① 注記

SAP BusinessObjects Design Studio で Analysis, edition for OLAP のコンテンツを操作する場合は、ワークスペースを分析アプリケーションとしてエクスポートすることができます。詳細については、[分析アプリケーションへのエクスポート \[141 ページ\]](#)を参照してください。

22.1 分析ビューをエクスポートする


1. 分析ウィンドウで、分析ビューとしてエクスポートするクロスタブコンポーネントまたはチャートコンポーネントを選択します。

① 注記


サブ分析を分析ビューとしてエクスポートすることはできません。

① 注記

カスタムグループは分析ビューでサポートされません。コンポーネントにカスタムグループが含まれる場合は、分析ビューでは削除されます。

2.  ツールバーで、[エクスポート] ボタンの横に表示されている矢印をクリックし、[分析ビュー] をクリックします。
3. 分析ビューの保存先となる場所を選択します。
4. 分析ビューのファイル名を入力します。
5. [保存] をクリックします。
これで分析ビューがリポジトリへエクスポートされます。

22.2 分析ビューをインポートする

1. Analysis ワークスペースで、分析ビューのインポート先となるシートへ移動します。
2.  ツールバーで、[開く] ボタンの横に表示されている矢印をクリックし、[分析ビュー] をクリックします。
3. フォルダリストから分析ビューを選択し、[OK] をクリックします。

分析ビューに、プロンプトが含まれる SAP BW データまたは SAP HANA データが表示される場合、分析ビューを開く前にプロンプト値を選択する必要がある場合があります。

インポートした分析ビューは、シート上の既存コンポーネントの下または右にクロスタブとして追加されます。

23 SAP BW データソース

Analysis から SAP BW データソースに接続して、プロンプト、バリエーション、表示属性、BEx 条件、レポート間インタフェースなどの機能を利用することができます。

SAP BW データを操作する場合、一部の Analysis 機能では、他のデータソースを操作する場合と異なる動作をします。

- SAP BW データソースに接続すると、プロンプト値の入力を求められることがあります。
- 計算はメジャーにのみ適用できます。
- 条件付き書式設定は、列または行のヘッダ、または条件の基準となっているメジャー以外のメジャーに適用できます。
- メンバーは、キーまたはテキストのどちらを使用しても表示できます。
- データは、デフォルト値で制限された特性、または BEx 条件でフィルタできます。

① 注記

このガイドで使用する用語は、SAP BW の用語と異なる場合があります。詳細については、[用語およびアイコン \[15 ページ\]](#)を参照してください。

関連情報

[SAP BW データソースおよび SAP HANA データソースのプロンプト \[159 ページ\]](#)

[クロスタブのメンバーの表示設定 \[128 ページ\]](#)

[SAP BW データソースに条件付き書式設定を適用する \[87 ページ\]](#)

[BEx 条件による SAP BW データのフィルタ \[76 ページ\]](#)

23.1 キー数値と書式設定値

デフォルトでは、Analysis は書式設定されたセル値を取得して表示します。キューブで特定の単位を表示するように書式設定されたキー数値 (メジャーディメンション) は、Analysis で正しい単位の書式設定を使用して表示されます。

23.1.1 キー数値のない書式設定

SAP BW 管理者は、表示可能なキー数値 (メジャーディメンション) がない SAP BW クエリを作成できます。このようなクエリにはメジャーがないので (または非表示なので)、メジャーの書式設定はありません。

23.2 レポート間インタフェース

SAP Business Explorer (BEx) を使用してクエリを作成する場合、IT スペシャリストはレポート間インタフェース (RRI) を経由するレポート間リンクを構成できます。このようなリンクを使用すると、レポート、他の BEx クエリ、ABAP トランザクション、Web アドレスなどのさまざまなターゲットにジャンプできます。

Analysis, edition for OLAP のワークスペースを RRI 送信者として動作させることができます。RRI ターゲットを持つ SAP BW データソースを使用する分析の場合は、クロスタブのメンバーを右クリックして、RRI ターゲットを表示したり RRI ターゲットにアクセスすることができます。

ターゲットは次のようなタスクの実行に役立ちます。

- さまざまな結果オブジェクトに固有のターゲットにナビゲートする。たとえば、営業担当者の名前から、その営業担当者の従業員ファクトシートまたは受注量にナビゲートするといったタスクです。
- ワークフローまたはアクティビティを開始する。たとえば、コストセンタ当たりの経費を表示するクロスタブから、説明を求めるリクエストを作成し、経理部門に送信するといったタスクです。

クロスタブで右クリックしたメンバーがターゲットレポートに反映されるように、RRI ターゲットをコンテキスト依存にすることができます。

① 注記

Analysis のワークスペースは RRI 受信者としては動作しません。つまり、ワークスペースを直接参照する RRI リンクは構成できません。ただし、Analysis のワークスペースに OpenDocument の URL を使用すれば、ワークスペースを参照する汎用 URL リンクを RRI で作成できます。

RRI の詳細については、SAP Help Portal (<http://help.sap.com/>) で提供されている SAP technology のドキュメントを参照してください。

関連情報

[ワークスペースの共有を目的とした OpenDocument URL の使用 \[134 ページ\]](#)

23.2.1 RRI ターゲットへのアクセス

BEx クエリの RRI ターゲットのリストにアクセスするには、調査するクロスタブメンバーを右クリックして [[ジャンプ](#)] をクリックします。ターゲットをクリックして開きます。

ターゲットの認証情報の入力を求められることがあります。Analysis の RRI はシングルサインオン (SSO) をサポートしています。SSO が構成されており、ターゲットに対する必要な認証をすでに入力してある場合は、認証情報を再入力せずにターゲットを表示できます。

BEx クエリターゲットをクリックすると、新しいクロスタブとして Analysis ワークスペースにクエリが開き、[\[データ\]](#) ペインにデータソースが追加されます。新しいクロスタブは、ジャンプ元のディメンションメンバーにフォーカスしています。現在のワークシートにすでに 4 つの Analysis コンポーネントがある場合は、新しいシートにクロスタブが開きます。

別のタイプのターゲットをクリックすると、新しいブラウザウィンドウにターゲットが開きます。

23.3 相互排他階層

SAP BW データソースでは、同じディメンションに属している階層は互いに排他的です。たとえば、3つの階層、`<Country_1>`、`<Country_2>`、`<Country_3>`を含む"`<顧客>`"ディメンションを含んだ SAP BW キューブについて考えます。1つのクロスタブ分析またはチャート分析に含めることができるのは、これらの階層のいずれか1つだけです。同じ分析の行軸に `<Country_1>`、バックグラウンドフィルタに `<Country_3>` を指定することはできません。

23.4 非バランス型階層と不完全型階層

Analysis は、非バランス型階層と不完全型階層をサポートしています。

23.5 スケール係数

スケール係数を含めて SAP BW クエリを設計した場合、そのスケール係数はクロスタブに表示されます。たとえば、値は次のように表示されます。

1234 * 10000

Analysis でサポートされるスケール係数は次のとおりです。

- 1
- 10
- 100
- k
- 10,000
- 100,000
- M
- 10,000,000
- 100,000,000
- G

千、百万、および十億については、数値のスケール係数ではなく一般的な省略記号が表示されます。

スケール係数がクロスタブに表示されている場合は、Excel ファイルや PDF ファイルにエクスポートされるデータにも表示されます。

23.6 [背景] フィルタ領域でのデフォルト値による特性の制限

BEx クエリデザイナーでは、1 つまたは複数の特性を特定のデフォルト値に限定することで、SAP BW データソースにフィルタを設定できます。このような特性を *SAP BEx クエリデザイナー* の [自由特性] 領域に追加すると、データソースに接続したときに Analysis の [背景] フィルタ領域にこの特性が追加されます。

他のバックグラウンドフィルタと同様に、メンバーを変更したり、分析からフィルタを削除したりできます。

特性の制限の詳細については、SAP Help Portal (<http://help.sap.com>) で提供されている BEx クエリデザイナーのドキュメントを参照してください。

関連情報

[バックグラウンドフィルタ \[77 ページ\]](#)

[バックグラウンドフィルタの変更 \(スライスの変更\) \[110 ページ\]](#)

23.7 SAP BW データの日付の書式設定

SAP BW データソースに接続すると、データソースへの接続に使用したユーザプロファイルの SAP BW サーバでの設定によって、分析ウィンドウで日付を表示する形式が決まります。

ワークスペースで日付の形式を変更する場合は、SAP BW サーバの SU01 トランザクションを使用してこの設定を変更できます。詳細については、SAP Help Portal (<http://help.sap.com>) で提供されている SAP technology のドキュメントを参照してください。

Analysis では、ワークスペース内のすべての日付値とメンバーの表示に、同じ日付形式を使用します。日付形式設定が異なる複数の SAP BW データソースに接続する場合、最初に接続した SAP BW データソースの形式を使用してすべての日付が表示されます。ほかの SAP BW データソースの日付形式を使用するには、新しいワークスペースを作成して、そのデータソースに最初に接続する必要があります。

関連情報

[プロンプト値を入力する \[163 ページ\]](#)

23.8 通貨変換

通貨変換によって、分析ワークスペースのキー数値の通貨を変換することができます。分析ワークスペースで、通貨タイプに定義されているキー数値を別の通貨タイプに変換することができます。

たとえば、分析ワークスペースで、米ドルに定義されているキー数値をオーストラリアドルに変換するとします。通貨変換によって、通貨が米ドルからオーストラリアドルに変換されます。

通貨変換は、SAP NetWeaver Business Warehouse (BW) データソースでサポートされています。通貨変換タイプは、SAP NetWeaver BW データソースで作成されます。詳細については、SAP Help Portal (<http://help.sap.com>) を参照してください。

通貨を変換するには、以下の手順に従います。

1. クロスタブを選択します。
2. [分析] タブで、[通貨変換] を選択します。
3. [通貨変換] ウィンドウで、ドロップダウンボックスから [目標通貨] と [変換タイプ] を選択します。
4. [変換] を選択します。

選択した目標通貨に従って、分析ワークスペースの通貨が変更されます。

通貨を再度変換する場合は、[通貨変換] ウィンドウに移動し、[変換タイプ] ドロップダウンボックスで [変換なし] を選択します。前述の手順を実行して、通貨を変換します。

① 注記

[目標通貨] 一覧と [変換タイプ] 一覧のオプションは、互いの影響を受けます。[目標通貨] を選択すると、その通貨をサポートするすべての変換タイプを選択することができます。

24 SAP HANA データソース

Analysis では、SAP HANA データソースに接続して、インメモリコンピューティングの信頼性とパフォーマンスを活用することができます。SAP HANA データソースでは、プロンプトや階層表示属性などの一部の機能が SAP BW ソースと共有されています。プロンプトの詳細については、[SAP BW データソースおよび SAP HANA データソースのプロンプト \[159 ページ\]](#)を参照してください。

⚠ 警告

BI プラットフォーム 4.3 には BICS3 コンポーネントが付属しています。BI プラットフォームは、SAP HANA および SAP HANA HTTP プロバイダとともに、SAP HANA 2.X プロバイダもサポートしています。ただし、アプリケーションで使用される JDBC コネクタは BICS3 コンポーネントに付属していないため、Analysis, edition for OLAP では SAP HANA HTTP プロバイダとの OLAP 接続のみがサポートされます。Analysis, edition for OLAP 4.3 では、SAP HANA または SAP HANA 2.X プロバイダを使用した OLAP 接続はサポートされていません。SAP HANA プロバイダとの OLAP 接続を使用する場合は、HTTP プロバイダを使用していることを確認してください。そうでない場合は、SAP HANA データソースに基づくワークスペースの接続設定を変更し、プロバイダを SAP HANA HTTP に変更してください。

接続設定を変更するには *SAP BusinessObjects Analysis, edition for OLAP* 管理者ガイドのデータソース接続を置換するの節を参照してください。

SAP HANA のドキュメントは、SAP Help Portal (<http://help.sap.com>) でも提供されています。

関連情報

[クロスタブのメンバーの表示設定 \[128 ページ\]](#)

24.1 SAP HANA データソースの時間階層

時間は、年、四半期、月、日などの時間属性を含むように設定できる SAP HANA の属性ビューです。これらの属性は、複数のレベルを持つ階層に配置できます。

ただし、このような階層は Analysis のこのリリースではサポートされていません。時間階層が複数レベルの場合は、分析に追加できません。すべての属性が同じレベルにあるフラットな時間階層の場合はサポートされます。

25 SAP BW データソースおよび SAP HANA データソースのプロンプト

変数が設定されている SAP BW データソースまたは SAP HANA データソースに接続すると、[プロンプト] ダイアログボックスが表示され、プロンプトの値を指定できるようになります。返されて表示されるデータは、指定したプロンプト値によって決まります。

[プロンプト] ダイアログボックスは、プロンプトを含むデータソースを使用する次のタスクのいずれかを実行しても開きます。

- [プロンプト値の変更] をクリックする。
- 保存されたワークスペースを開く。
- シートに初めてナビゲートする (シートで使用されているデータソースのプロンプト値をまだ指定していない場合)。

SAP BW 変数の詳細については、SAP Help Portal の SAP Technology ライブラリで、SAP Business Explorer Query Designer のマニュアルを参照してください。 <http://help.sap.com>。

SAP HANA 変数の詳細については、SAP Help Portal (<http://help.sap.com>) で提供されている SAP HANA Modeling Guide を参照してください。

関連情報

[パラメータ付き URL \[135 ページ\]](#)

25.1 [プロンプト] ダイアログボックスのナビゲート

ワークスペースのデータソースのプロンプトは、[プロンプト] ダイアログボックスに表示されます。データソースをクリックするとプロンプトを表示できます。

[プロンプト] ダイアログボックスの各行には、IT スペシャリストがデータソースに設定したプロンプトが含まれています。

データソースにデフォルトのプロンプト値が設定されている場合は、[プロンプト] ダイアログボックスのプロンプトにあらかじめ値が設定されていることがあります。この値を受け入れるか、別の値を指定します。

保存済みのプロンプト値を含む保存済みのワークスペースを開くと、保存済みのプロンプト値がデフォルトのプロンプト値に対して復元されます。プロンプト値を設定せずにワークスペースを保存した場合は、デフォルト値が使用されます。

[プロンプト] ダイアログボックスから次の操作を行うことができます。

- 必須およびオプションのプロンプトを表示する。

- すべてのオプションプロンプトを展開する。
- プロンプトを結合する。
- SAP バリエントを使用して SAP BW 変数のプロンプト値を設定する。

関連情報

[必須またはオプションのプロンプトの表示 \[160 ページ\]](#)

[すべてのオプションプロンプトの展開 \[161 ページ\]](#)

[プロンプト値の確認 \[163 ページ\]](#)

[プロンプトの結合 \[165 ページ\]](#)

[SAP バリエントによるプロンプト値の設定 \[166 ページ\]](#)

25.2 必須プロンプトとオプションプロンプト

プロンプトは、クエリでどのように設定されているかによって、必須またはオプションになります。

必須プロンプトは、[\[プロンプト\]](#) ダイアログボックスが開いたときに値を指定する必要があるプロンプトです。必須プロンプトは [\[プロンプト\]](#) ダイアログボックスにアスタリスク付きで表されます。

オプションのプロンプトは、必ずしも値を選択する必要がないプロンプトです。値を選択しないと、デフォルト値を使用してデータが戻されます。

25.2.1 必須またはオプションのプロンプトの表示

表示させるプロンプトを選択するには、該当するヘッダのタブをクリックします。

- [すべて](#)
- [必須](#)
- [オプション](#)

または、[プロンプトの概要一覧](#)で[非表示の必須プロンプトの表示](#)または[非表示のオプションプロンプトの表示](#)をクリックすれば、必須プロンプトとオプションプロンプトを切り替えられます。

デフォルトでは、[プロンプト](#)ダイアログボックスが最初に開いたときにのみ必須プロンプトが表示されます。システム管理者は、すべてのプロンプトが最初に表示されるようにこの動作を変更することができます。

① 注記

BI 4.1 SP5 リリースでは、ユーザが SAP BW クエリで設定されたプロンプトの値を表示することができます。

詳細については、*SAP BusinessObjects Analysis, edition for OLAP* 管理者ガイドの MDAS サーバの設定ファイルに関する節を参照してください。

25.2.2 すべてのオプションプロンプトの展開

すべてのオプションプロンプトを展開して表示するには、▶ **アクション** (⚙️) ▶ **オプションプロンプトを展開** ▶ をクリックします。

25.3 プロンプトの種類

SAP BW 変数と SAP HANA 変数の両方に次のプロンプトタイプを使用できます。

プロンプトの種類	説明
キー日付プロンプト	<p>キー日付プロンプトは、データが時間依存としてキューブで設定されている場合に、データの特定の日付を指定できる単一値のプロンプトの型です。時間依存のメタデータは、キー日付プロンプトに基づいてフィルタされます。</p> <p>キー日付プロンプトの値は最初に指定する必要があります。キー日付プロンプトによって、他の変数で利用できる日付が制限されるからです。</p>
単一値プロンプト	<p>単一値プロンプトにより、[プロンプト] ダイアログボックスで、ディメンションのデフォルトのフラット階層から返される単一メンバーを指定できます。</p>
複数の単一値プロンプト	<p>複数の単一値プロンプトにより、[プロンプト] ダイアログボックスで、ディメンションのデフォルトのフラット階層から返される1つ以上のメンバーを指定できます。</p>
範囲プロンプト	<p>範囲プロンプトは、[プロンプト] ダイアログボックスで指定した2つのメンバーで構成されます。2つのメンバーによって範囲が作成されます。この範囲は、返されるデータをフィルタし、Analysis に表示するために使用されます。</p> <p>階層で最初に指定したメンバーの次に、2番目のメンバーを指定して、有効な範囲を作成する必要があります。</p>
複合選択プロンプト	<p>複合選択プロンプトでは、[プロンプト] ダイアログボックスで1つまたは複数の条件を指定できます。この値は、返されるデータをフィルタし、Analysis に表示するために使用されます。</p>
式プロンプト	<p>式は、キー数値 (またはメジャー) ディメンションの管理者によって定義される計算式です。</p> <p>Analysis で式プロンプトの値の入力を求められた場合は、数値のみを入力する必要があります。入力した値を使用して式は完成し、返されるデータが式の結果になります。</p>

プロンプトの種類	説明
通貨プロンプト	通貨プロンプトは、為替レート表に基づいて値を変換するために使用する特別な種類のプロンプトです。変換に使用する為替レートはデータソースで設定されるので、Analysis には表示されません。

次のプロンプトタイプは SAP BW 変数にのみ使用できます。

プロンプトの種類	説明
階層プロンプト	<p>ディメンションには、単一の論理集合にグループ化された 1 つ以上の階層が含まれます。</p> <p>[プロンプト] ダイアログボックスで指定する階層によって、選択された階層に対してディメンションで使用できる階層数が制限されます。</p> <p>階層プロンプトは、多くの場合、階層ノードプロンプトと組み合わせて使用され、どちらのプロンプトも同じディメンションに適用されます。階層ノードプロンプトは、階層プロンプトに対して指定された階層に動的に適用されます。これらの場合、階層ノードプロンプトを指定する前に、階層プロンプトを指定します。</p>
階層ノードプロンプト	<p>階層ノードプロンプトは、SAP BW クエリでどのように設定されているかによって、単一の値または複数の値になります。</p> <p>[プロンプト] ダイアログボックスで、階層から返される単一または複数のメンバーを指定します。</p>

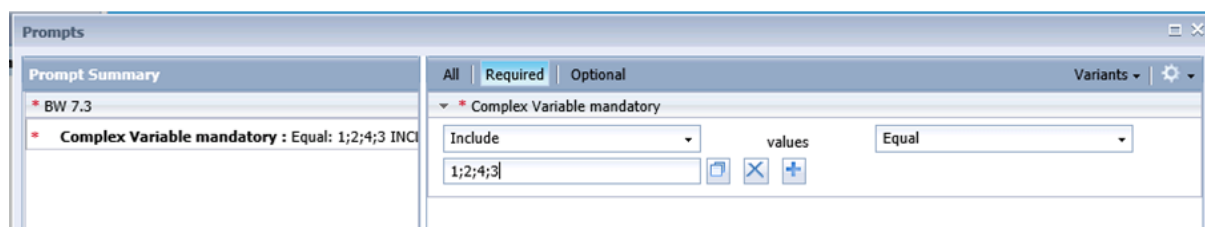
次のプロンプトタイプは SAP HANA 変数にのみ使用できます。

プロンプトの種類	説明
複数の範囲プロンプト	<p>SAP HANA データソースの複数の範囲プロンプトは、[プロンプト] ダイアログボックスで指定する 1 つまたは複数の範囲で構成されます。この範囲は、返されるデータをフィルタし、Analysis に表示します。</p> <p>各範囲に 2 つのメンバーを指定することにより、範囲を定義します。必要に応じて、範囲を追加したり削除したりすることができます。メンバーを選択する場合は、階層で最初に選択したメンバーの次に、2 番目のメンバーを指定して、有効な範囲を作成する必要があります。</p>
単一の複合選択プロンプト	<p>このプロンプトの種類は、[プロンプト] ダイアログボックスから条件を 1 つのみ指定可能な点以外、複合選択プロンプトのように機能します。この条件は、返されるデータをフィルタし、Analysis に表示するために使用されます。</p>

25.3.1 複合選択プロンプトでの複数値の設定

等しいおよび等しくない基準で複数の値を選択する場合、セミicolon区切り文字 (;) を使用します。

[追加] ボタンを使用して複数の値を選択することもできます。これらの値は、区切られたテキストフィールドに表示されます。



25.4 プロンプト値の確認

デフォルトでは、プロンプト値は、処理に送信される前に自動的に確認されます。 [プロンプトの概要](#) リストのチェックマークと X アイコンは、プロンプト値が有効かどうかを示します。無効なプロンプト値は送信できません。

システム管理者は、プロンプトの自動確認を無効にすることができます。プロンプトの自動確認が無効にされていると、[OK](#) ボタンの横に [確認](#) ボタンが表示されます。この場合、[確認](#) をクリックするか、プロンプト値を送信するために [OK](#) をクリックすると、プロンプト値が確認されます。

詳細については、*SAP BusinessObjects Analysis, edition for OLAP* 管理者ガイドのプロンプト確認に関する節を参照してください。

25.5 プロンプト値を入力する

SAP BW プロンプト値または SAP HANA プロンプト値を設定する必要があるタスクを実行するときは、[\[プロンプト\]](#) ダイアログボックスが開きます。必須のプロンプトごと、および値を選択するオプションのプロンプトに対して、以下の手順を実行します。

1. [\[プロンプトの概要\]](#) リストからプロンプトを選択します。
2. 次のプロンプト値を定義します。

プロンプトの種類	プロンプト値を定義するための手順
----------	------------------

キー日付	日付フィールドをクリックします。データベース管理者が設定した形式で日付を入力するか、または日付フィールドの横にあるアイコンをクリックしてカレンダーから日付を選択します。
------	--

プロンプトの種類	プロンプト値を定義するための手順
単一の値	値フィールドの横にあるボタンをクリックし、一覧からメンバーを選択します。値フィールドにメンバーのキーを入力することもできます。
複数の単一値	値フィールドの横にあるボタンをクリックし、一覧から1つ以上のメンバーを選択します。複数の値をセミコロンで区切って、値フィールドに1つ以上のメンバーのキーを入力することもできます。
範囲	値フィールドの横にあるボタンをクリックし、範囲の終点を定義するメンバーを選択します。 [開始] フィールドおよび [終了] フィールドにメンバーのキーを入力することにより、値を指定することもできます。
複数の範囲	<ol style="list-style-type: none"> 1. 値フィールドの横にあるボタンをクリックし、範囲の終点を定義するメンバーを選択します。プロンプトフィールドにメンバーのキーを入力することもできます。 2. [+] アイコンをクリックして範囲を追加します。 3. 別の範囲を定義する場合は、前述の手順を繰り返します。
複合選択	<ol style="list-style-type: none"> 1. [含める] または [含めない] のどちらかを選択した後、演算子を選択します。たとえば、指定した範囲外のメンバーを選択するには、[含めない] を選択して [範囲内] 演算子を選択します。 2. しきい値または値を指定します。値を指定するには、値フィールドの横にあるボタンをクリックし、一覧からメンバーを選択します。プロンプトフィールドにメンバーのキーを入力することもできます。 3. ルールの定義が完了したら、[追加] ボタンをクリックします。 4. 必要に応じて、さらにルールを追加してプロンプト値を定義します。
単一の複合選択	<ol style="list-style-type: none"> 1. 含める または 含めない のどちらかを選択した後、演算子を選択します。たとえば、指定した範囲外のメンバーを選択するには、含めない を選択して 範囲内 演算子を選択します。 2. しきい値または値を指定します。値を指定するには、値フィールドの横にあるボタンをクリックし、一覧からメンバーを選択します。プロンプトフィールドにメンバーのキーを入力することもできます。
階層	一覧から階層を選択します。また、階層の名前を入力し、一覧に階層名が表示されたら階層をクリックできます。
階層ノード	<p>値フィールドの横にあるボタンをクリックし、一覧から1つ以上のメンバーを選択します。</p> <p>複数の値をセミコロンで区切って、値フィールドに1つ以上のメンバーのキーを入力するか、メンバーとメンバーの子を選択する拡張構文を入力することもできます。たとえば、Europe とその子メンバーを選択するには、+EUROPE(Text¥Node) と入力します。階層で親メンバーに割り当てられていないすべてのメンバーを選択するには、+REST_H(1HIER_REST) と入力します。</p>
式	数値を入力します。
通貨	値フィールドの横にあるボタンをクリックし、一覧から通貨を選択します。値フィールドに通貨コードを入力することもできます。

許可されている場合は、番号記号("#")で表される初期値を **[プロンプト]** ダイアログボックスで選択できます。これによって、階層のメンバーに対応していないデータレコードを含むすべてのデータレコードを明示的に選択できます。

① 注記

以下のプロンプトが日付値の場合は、データベース管理者が設定した形式で日付を入力するか、または日付フィールドの横にあるアイコンをクリックしてカレンダーから日付を選択できます。

- キー日付

- 単一の値
- 複数の単一値
- 範囲
- 複合選択

3. 次にワークスペースが開かれるときにデフォルトのプロンプト値をリセットする場合は、[[プロンプト値をワークスペースとともに保存](#)]の選択を解除します。
4. プロンプトの自動確認が無効にされている場合、[確認](#)をクリックして、プロンプト値を手動で確認できます。
5. [[OK](#)]をクリックします。
クエリが実行され、フィルタ処理されたメタデータがクロスタブに表示されます。

関連情報

[プロンプト値の確認 \[163 ページ\]](#)

25.6 プロンプト値を変更する

1. [[データ](#)] パネルの上部にあるリストで、プロンプトを含むデータソースを選択します。
2. [[プロンプト](#)] ボタンをクリックします。
3. [[プロンプト](#)] ダイアログボックスで、新しいプロンプト値を選択します。

関連情報

[プロンプト値を入力する \[163 ページ\]](#)

25.7 プロンプトの結合

複数のクエリが設定されている Analysis のワークスペースでは、同じ変数を何回も使用することができます。複数のプロンプトを結合すると、重複するプロンプトの値を1度入力し、同じ値を他のすべてのインスタンスに適用することができます。複数の値を入力し、該当するすべてのクエリに同じ値が確実に適用されるようにする場合は、プロンプトの結合を使用するとより便利です。

① 注記

[[プロンプトの結合](#)] を有効にすると、バリエーションの使用が次のように変更されます。

- 新しいバリエーションの作成または保存はできません。

- ワークスペース内のすべてのアクティブな接続のバリエーションが、サブメニューに表示されます。
- 複数のバリエーションを適用すると、必ず、直前に適用したバリエーションの値がプロンプトによって取得されます。

 プロンプトを結合するには、**アクション** > **プロンプトの結合** をクリックします。

25.8 SAP バリエーションによるプロンプト値の設定

SAP バリエーションは、SAP BW クエリプロンプトの値を保存したもののセットです。複数のプロンプトが設定されている SAP BW クエリへの接続にかかる時間を短縮するために、バリエーションを使用してプロンプト値を設定することができます。プロンプトの値を個別に設定する代わりに、バリエーションを選択して複数のプロンプトの値を同時に指定します。多数のプロンプトが設定されているクエリに接続することが多く、いつも同じプロンプト値を指定するのであれば、バリエーションが便利です。

Analysis, edition for OLAP では、BEx Analyzer または Analysis, edition for Office で作成した既存の SAP バリエーションを使用できます。Analysis, edition for OLAP で作成した SAP バリエーションは、BEx Analyzer や Analysis, edition for Office でも使用できます。

利用できるバリエーションは次の 2 種類です。

- 個人用バリエーション: バリエーションの作成者のみが使用できます。
- パブリックバリエーション: 同じシステム上のすべてのユーザがアクセスできます。

複数のプロンプトが設定されている SAP BW クエリの場合は、次のタスクを実行できます。

- 新しいバリエーションを作成および保存する。
- バリエーションを使用してプロンプトを設定する。
- バリエーションをクエリのデフォルトとして設定する。
- バリエーションの値を変更する。
- バリエーションの名前を変更する。
- バリエーションを削除する。
- パブリックバリエーションを指定する。

① 注記

プロンプトの結合が有効になっている場合は、新しいバリエーションを作成できません。また、プロンプトの結合が有効になっている場合は、現在のシート上のすべての接続のバリエーションを使用できます。複数のバリエーションを適用できますが、必ず、直前にリクエストされたバリエーションの値がプロンプトで取得されます。

関連情報

[SAP BW データソースおよび SAP HANA データソースのプロンプト \[159 ページ\]](#)

25.8.1 新しいバリエントを作成する

1. **[プロンプト]** ダイアログボックスで、プロンプト値を設定します。
2. プロンプトの集合を新しいバリエントとして保存するには、**▶ バリエント ▶ 名前を付けて保存** をクリックします。
3. **[説明]** フィールドに説明を入力します。
説明は、バリエントの名前の役割も果たします。
4. バリエントをそのデータソースのデフォルトとして設定する場合は、**[このクエリのデフォルトとして設定]** を選択します。
5. 他のユーザにこのバリエントへのアクセスを許可する場合は、**[パブリックバリエントとして保存]** を選択して一意の技術名を指定します。
6. **[保存]** をクリックします。

関連情報

[プロンプト値を入力する \[163 ページ\]](#)

25.8.2 バリエントを使用してプロンプトを設定する

1. **[プロンプト]** ダイアログボックスで、**▶ バリエント ▶ 個人用バリエント** をクリックして個人用バリエントにアクセスするか、**▶ バリエント ▶ パブリックバリエント** をクリックしてパブリックバリエントにアクセスします。
最初の 10 個のバリエントがメニューにリストされます。
2. バリエントを選択します。
 - 使用するバリエントがリストに表示されれば、それをクリックします。
 - リストにバリエントが表示されない場合は、**[その他]** をクリックします。**[バリエント]** ダイアログボックスが表示され、すべてのパブリックバリエントまたは個人用バリエントがリストされます。名前または内容説明でリストを並べ替えて、該当するバリエントを検索できます。バリエントを選択し、**[OK]** をクリックします。

バリエントのプロンプト値が**[プロンプト]** ダイアログボックスに適用されます。メニューのバリエントの横にビュレットマーカが表示され、そのバリエントがアクティブであることが示されます。必要に応じて、1 つ以上のプロンプトの値を手動で指定できます。

25.8.3 バリエントのプロンプト値を変更する

1. バリエントを選択します。
2. プロンプト値を編集します。
3. **▶ バリエント ▶ 保存** の順にクリックします。

関連情報

[バリエントを使用してプロンプトを設定する \[167 ページ\]](#)

[プロンプト値を入力する \[163 ページ\]](#)

26 Microsoft Analysis Services のデータソース

Analysis では、Microsoft SQL Server Analysis Services データソースに接続して、パースペクティブや表示フォルダなどの Analysis Services の機能を利用できます。このセクションでは、これらの機能、およびワークスペースでの使用方法について説明します。Analysis Services の用語を理解するための定義もいくつか示します。

ディメンション

Analysis Services でのディメンションは、階層のコレクションを表します。

階層

属性はディメンションの構築ブロックであり、Analysis Services でキューブ内に含まれるメジャーを整理するために使用されます。

Analysis Services では、ディメンションは、データソースビュー内のテーブルで提供されるデータを記述する属性のコレクションを表します。

ビジネスユーザは、ディメンションの属性を Analysis などのクライアントアプリケーションから参照することができません。メンバーをキューブ内でナビゲートできるようにするには、最初に属性を階層に整理する必要があります。

属性から、属性階層およびユーザ階層の 2 種類の階層を作成することができます。

- 属性階層は、ディメンション内のすべての属性に対して作成され、属性と同じ名前が付いています。属性階層では 1 つの属性のメンバーを参照することができます。
属性階層には 1 つのレベルしかありません。属性階層では、ユーザ階層に依存しなくてもキューブのセルを参照できるため、セキュリティと計算はキューブのナビゲーションパスには依存しません。ビジネスユーザには独自に作成した階層と属性階層の違いは見えませんが、属性階層では 1 つの属性のメンバーを参照することができます。
属性階層は、旧バージョンの Analysis Services における仮想ディメンションの概念に代わるものです。
- ユーザ階層は、属性階層以外の階層です。ユーザ階層は、キューブ内のナビゲーションパスを示すレベルに整理された属性で構成されます。ユーザ階層のメンバー構造は、メンバーの相互関係に応じて、次の 4 つのフォームのいずれかで表されます。
 - バランス型階層
 - 非バランス型階層
 - 不完全型階層
 - 親子階層

属性階層とは異なり、ユーザ階層には多くのレベルが含まれるため、マルチレベル階層とも呼ばれます。

ファクトテーブル

ファクトテーブルは、ビジネスプロセスのメジャーまたはメトリクスが含まれるデータベーステーブルです。たとえば、食料品店のファクトテーブルには、"<売上げ>"、"<在庫>"、"<利益>"などのメジャーが含まれます。

ディメンションテーブル

ディメンションテーブルは、企業のビジネスエンティティを説明する属性を含むビジネステーブルです。属性は、データアナリストがデータベースクエリを制約およびグループ化するために使用します。たとえば、"<店舗>"テーブルには、店舗の場所や大きさが含まれます。

メジャーグループ

メジャーグループには、同じファクトテーブルの1つ以上のメジャーが含まれます。すべての Analysis Services キューブとパースペクティブには、1つ以上のメジャーグループが含まれます。

Analysis では、メジャーグループが[データ]パネルに表示されます。メンバー別にフィルタされたメジャーグループは[フィルタ]パネルに表示されます。

表示フォルダ

表示フォルダは、階層をフォルダ構造に整理するために Analysis Services サーバに設定できるオプションのフォルダです。フォルダ構造により、ユーザは単一のディメンション下にグループ化されている階層をクライアントアプリケーションから簡単にナビゲートできます。

Analysis では、表示フォルダは[データ]パネルにのみ表示されます。[フィルタ]パネルには表示されません。また、表示フォルダの選択はできません。表示フォルダ内の階層のみ選択できます。

パースペクティブ

キューブは非常に大きいため、SQL Server Analysis Services でのナビゲートが難しい場合があります。1つのキューブはデータウェアハウス全体の内容を表すことができ、キューブ内の各メジャーグループは単一のファクトテーブルを表し、各ディメンションは、データウェアハウス内のディメンションテーブルを表します。ビジネスインテリジェンスおよびレポート要件を満たすために通常1つのキューブのほんの一部分とだけ対話する必要があるユーザにとって、この状態を理解するのは困難です。

Analysis Services のパースペクティブを使用すると、キューブの表示可能なサブセットを定義できるため、キューブの見た目の複雑さを解消することができます。パースペクティブの定義では、ビジネスインテリジェンスアプリケーションに表示するキューブ内のオブジェクトを制御します。

Analysis では、パースペクティブが通常のキューブとして扱われます。たとえば、セントラル管理コンソールで新しいデータソース接続を作成する際には、パースペクティブは通常のキューブとして表示されます。

26.1 一部のメンバーが見つからないカスタム計算

MSAS データソースの場合、カスタム計算に含まれるメンバーがデータソース内で位置変更または削除されると、カスタム計算が無効になります。計算のセルの値は `Error` として表示されます。

計算を修正するには、計算を編集し、見つからないメンバーを削除します。どのメンバーがデータソース内で位置変更または削除されたかを把握している必要があります。

関連情報

[計算 \[89 ページ\]](#)

26.2 基になるリレーショナルデータへのドリルスルー

OLAP データの分析では、特定のセルの値の原因となった、基になるリレーショナルトランザクションからのデータも探索できます。これらのトランザクションからのデータを Excel または CSV ファイルにエクスポートすることもできます。

たとえば、ある顧客の集計されたオンライン購買の値を表示してドリルスルーし、各購買の詳細、たとえば発注された製品や購買価格、数量、および日付などを表示することができます。

分析で1つ以上のバックグラウンドフィルタが使用される場合、同じフィルタを基になるリレーショナルデータに適用するかどうかを決定することができます。

値の基になるリレーショナルデータへドリルスルーするには、関心のある値が入ったセルを右クリックし、適切なメニューオプションをクリックします。

- [\[ドリルスルー\]](#) では、フィルタされていないリレーショナルデータへドリルスルーします。
- [\[フィルタコンテキストによるドリルスルー\]](#) では、リレーショナルデータにフィルタを適用します。

リレーショナルデータが利用可能な場合、[\[ドリルスルー\]](#) パネルに表示され、そこで次のことができます。

- パネル下部のドリルスルー結果の行数を表示します。
- [\[クエリコンテキスト\]](#) をクリックして、ドリルスルー結果のコンテキストを表示または非表示にします。
- [\[Excel/CSV へエクスポート\]](#) をクリックして、ドリルスルー結果を Excel または CSV ファイルにエクスポートします。

① 注記

ページあたりの行数、表示される合計行数、および列の表示は、管理者が設定することができます。詳細については、*SAP BusinessObjects Analysis, edition for OLAP* 管理者ガイドの MDAS サーバの設定ファイルに関する節を参照してください。

関連情報

[リレーショナルデータをエクスポートする \[172 ページ\]](#)

26.2.1 リレーショナルデータをエクスポートする

基礎となるリレーショナルデータを Microsoft Excel または CSV にエクスポートすることができます。

ドリルスルー機能は、Microsoft SQL Server 2008 Analysis Services または Microsoft SQL Server の以降のバージョンでのみ利用可能です。

Microsoft SQL Server Analysis Services を使用する場合、データベース管理者はドリルスルー機能をキューブレベルで有効化し、キューブロールでドリルスルー操作を実行する権限をユーザに付与する必要があります。

[[ドリルスルー](#)] パネルで [[Excel/CSV へエクスポート](#)] をクリックし、エクスポートのファイルタイプを選択します。

27 Oracle Essbase データソース

Analysis から Oracle Essbase データソースに接続すると、メジャー階層や属性ディメンションといった Essbase の機能を使用できます。

関連情報

[クロスタブのメンバーの表示設定 \[128 ページ\]](#)

27.1 属性のディメンション

Oracle Essbase データソースでは、ディメンションのパースペクティブからデータを取得して分析するだけでなく、ディメンションの特性、つまり属性の観点からもデータを分析することができます。たとえば、サイズやパッケージングに基づいて製品の収益性を分析することができます。また、各市場地域の人口規模などの市場属性を取り入れて、分析からより効果的な結論を導き出すことができます。たとえば、このような分析を行うと、小規模市場においてカンで販売されるカフェイン抜きドリンクの収益が、予想よりも少ないことがわかります。

より詳細な情報を得るために、特定の属性基準（最小または最大売上げ、同様の市場区分におけるさまざまな製品の収益など）によって分析をフィルタ処理することができます。このようなタイプの分析を有効にするには、データベース アウトラインに属性ディメンションを作成します。

属性ディメンションは、何らかの他の属性をキャプチャします。Essbase キューブでは、属性ディメンションは単独ではディメンションとして存在しません。属性ディメンションは、標準のディメンションと関連付ける必要があります。標準のディメンションは、属性ディメンションとしてタグ付けされていないディメンションです。

Analysis では、属性ディメンションはクロスタブの行または列上の他のディメンションと同じように表示され、機能します。関連付けられているディメンションのデータをフィルタするときに、属性ディメンションが役立つことがあります。

27.1.1 フィルタ データへの属性のディメンションの使用

ディメンションのデータをフィルタするには、関連付けられている属性ディメンションを [\[バックグラウンド\]](#) フィルタ領域に追加します。クロスタブには、選択した属性メンバーに関連付けられているメンバーのデータのみが表示されます。

たとえば、"製品" という名前のディメンションをクロスタブの行に追加した場合、このディメンションに属性ディメンション "カフェイン入り" が関連付けられていれば、"カフェイン入り_True" という名前の属性ディメンションメンバーをバックグラウンドフィルタに選択できます。

この例では、カフェイン含有ドリンク製品に関連するデータのみが表示されます。カフェイン抜きのドリンク製品については NULL 値が表示されます。

27.2 メジャー階層

Essbase データソースでは、クロスタブで展開したり折りたたむことができるメジャー階層がサポートされています。このタイプのメジャーでは、メジャーを構成している別のコンポーネントまでドリルできます。たとえば、"利益" メジャーを展開して "売上げ" メジャーと "経費" メジャーまで表示することもできます。

メタデータエクスプローラでメジャー階層をナビゲートすることもできます。階層の子メンバーをクロスタブに追加すると、階層がメンバーでフィルタされます。たとえば、クロスタブの列に "利益" を追加した場合は、"利益" メンバーとその親および子のみが分析に含まれます。

クロスタブでメジャー階層の名前を右クリックすると、[レベルの表示] 機能と [レベルへの展開] 機能が使用できるようになります。

27.3 エイリアステーブルの選択

エイリアスとは、OLAP ワークスペースのディメンションおよびメジャーに使用できる代替名のことです。

エイリアスは、分析ワークスペースのディメンションおよびメジャーのエイリアステーブルから選択できます。

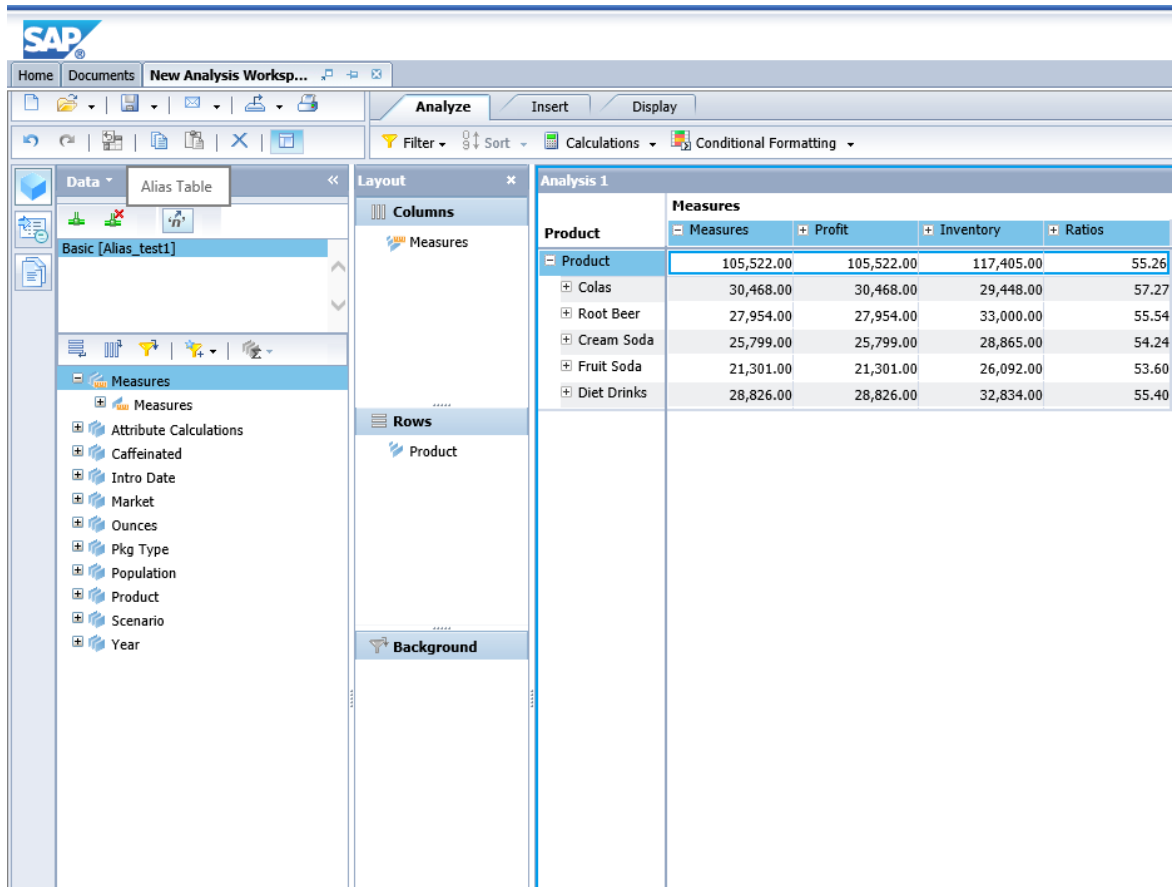
最初に、OLAP 分析ワークスペースに情報が表示されるときに、Oracle Essbase データソースからの OLAP ワークスペースのディメンションとメジャーのデフォルトのテーブル情報が使用されます。ただし、デフォルトのテーブルをエイリアステーブルの任意のその他のエイリアスに変更することができます。今後の使用で、選択したエイリアスがデフォルトとしてワークスペースに表示されるようにする場合は、OLAP 分析ワークスペースを保存します。

例: クロスタブに "Product" という名前のディメンションがあるとします。名前を "Product" から "New_Product" に変更するために、Oracle Essbase データソースでエイリアスを定義し、作成します。分析ワークスペースでエイリアスを使用するには、エイリアステーブルから適切なエイリアスを選択して、名前を "Product" から "New_Product" に変更します。クロスタブの名前が "New_Product" に変更されます。

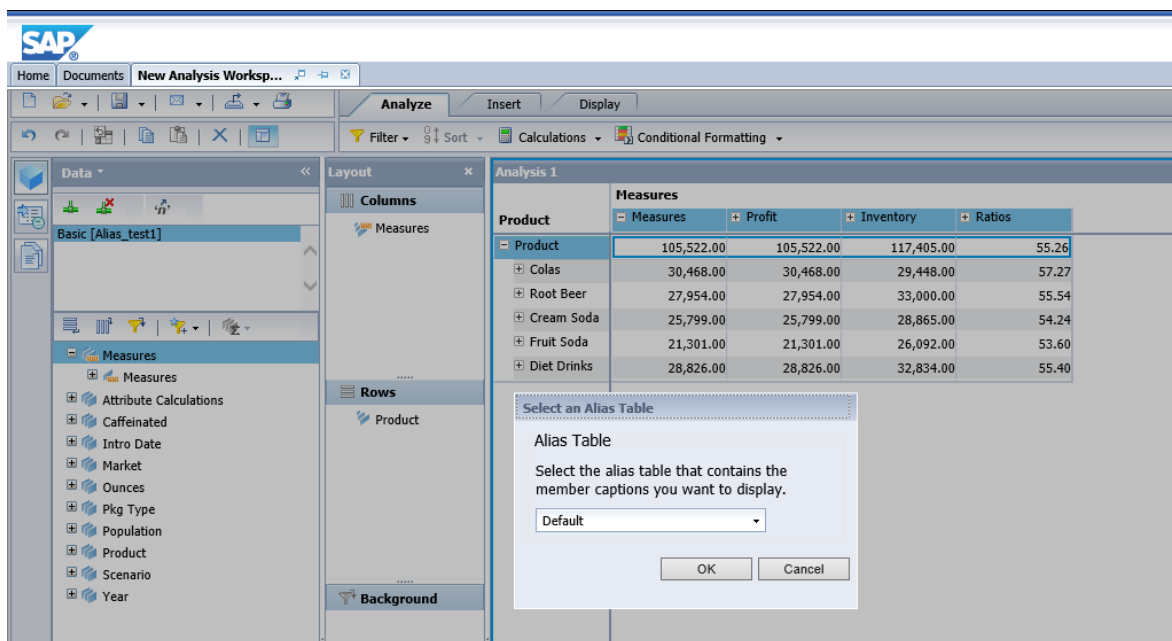
Oracle Essbase データソースでサポートされるエイリアステーブル。Oracle Essbase データソースの管理者がエイリアスを定義および作成し、データベースアウトラインに保存します。

エイリアステーブルを選択するには、次の手順に従います。

1. メジャーおよびディメンションをクロスタブに追加します。
2. [データ] パネルで、[エイリアステーブル] アイコンを選択します。



3. [エイリアステーブルの選択] ウィンドウで、ドロップダウンボックスからエイリアスを選択し、[OK] を選択します。



① 注記

- 選択したエイリアステーブルに従って、メジャーおよびディメンションが表示されます。
- エイリアスが選択したエイリアステーブルのディメンションまたはメジャー用に設定されていない場合は、該当するディメンションまたはメジャーのデフォルトのテーブルの値が表示されます。

4. 分析ワークスペースを保存して、選択したエイリアスを保存します。

分析ワークスペースでエイリアスが変更されます。

次回にこのワークスペースを開くと、ワークスペースで最後に保存されたエイリアスが選択されています。

28 アクセシビリティ

アクセシビリティモード

Analysis には、視覚障害または運動障害を持つユーザーのためのアクセシビリティモードがあります。アクセシビリティモードを有効化するには、以下のステップを実行します。

1. SAP BusinessObjects BI ラウンチパッドで [基本設定] ページを開きます。
2. [Analysis, edition for OLAP] をクリックします。
3. [アクセシビリティモード] チェックボックスを選択します。
4. BI ラウンチパッドからログオフし、再びログオンします。

アクセシビリティモードのツールヒントには、スクリーンリーダーサポートの詳細テキストがあります。アクセシビリティモードでは、このセクションで後述されているキーボードアクションも利用できます。

配色およびフォント

ユーザーを補助するために、Analysis には複数の配色とフォントの選択肢があります。これらのオプションは [プロパティ] パネルから選択できます。

キーボードショートカット

キー	アクション
Tab	フォーカスをクロスタブの次の領域へ移動します。 以下の領域には Tab キーを押してアクセスできます。 <ul style="list-style-type: none">• 列メンバー領域• 行メンバー領域• セル領域
方向キー	クロスタブでは、フォーカスを上、下、左、または右のセルへ1つ移動します。メタデータエクスプローラでは、フォーカスの上下移動やオブジェクトの展開と折りたたみができます。
スペースバー	フォーカスするセルまたはオブジェクトを選択します。
Shift + スペースバー	すでに選択されているセルから現在選択されているセルまで、セル選択を拡張します。
Ctrl + スペースバー	複数のメンバーヘッダを選択します。
+	親メンバーまたはオブジェクトを展開します。
-	親メンバーまたはオブジェクトを折りたたみます。

キー	アクション
Shift + 方向キー	セルを追加するために、選択を拡張します。
Ctrl + F4	クロstabまたはチャートコンポーネントを閉じます。
Shift + F10	フォーカスするセルを選択してから、コンテキスト (右クリック) メニューを表示します。
Ctrl + F10	クロstabまたはチャートコンポーネントを最大化または復元します。
Esc	以下のアクションのいずれかを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> • コンテキストメニューを閉じる • ドロップダウンリストを閉じる • その他のアクションを閉じる、または終了する

29 OLAP について

SAP BusinessObjects Analysis は、ビジネスデータ、特に OLAP (Online Analytical Processing) データを表示および分析するためのツールです。この節では、OLAP について説明します。

29.1 OLAP の概要

リレーショナルデータベースは、データを個々のレコードとして保存します。各レコードには多数のフィールドを含めることができますが、それらはすべて1つのレコードだけに関連付けられています。たとえば、製品レコードには、あらゆる地域のさまざまな顧客との販売取引など、製品に関する情報を含む多数のフィールドがあります。

このような情報の照会や更新には、OLTP (オンライントランザクション処理) アプリケーションが使用されます。OLTP は、多数のユーザが、比較的少数レコードを迅速に更新、検索できるように設計されています。

リレーショナルデータベースが、1レコードを単一のディメンション形式で一度に保持しても、ビジネス上の問題は通常、複数のディメンションが関連します。たとえば、典型的な例として、地域別および製品別に売上高を分析場合があります。そのような分析を行ってビジネスの状況を明確に把握するには、膨大な数のレコードを集計し、分析する必要があります。ところが、従来の OLTP アプリケーションを意思決定支援に使用すると、瞬時に数万個ものレコードを読み取って集計し、データベーステーブルを構築することが必要になります。OLTP アプリケーションはそのような目的で開発されいないため、大規模なデータベースでそのような処理を行うには、何時間も、あるいは何日もかかることがあります。

一方、OLAP (多次元データ分析) アプリケーションは、最初からオンラインのデータ分析を念頭に置いて設計されています。処理時間を最小限に短縮するために、リレーショナルデータはあらかじめ集計され、マトリックステーブル形式に統合されています。これらのテーブルは、通常3つ以上の次元を持つため "データキューブ" と呼ばれます。OLAP データは、各トランザクションの階層的集計を表します。これにより、集計データを、リレーショナルデータより大幅に短い時間で分析できます。

29.2 多次元データ キューブ

多次元データを理解するために、まず、各種製品がさまざまな市場でどのように売られているかを示すスプレッドシートについて考えます。

製品	地域			
		米国	カナダ	英国
	製品 1	534	212	231
	製品 2	45	21	12
	製品 3	321	324	112
	製品 4	234	120	43
	製品 5	78	43	31
	製品 6	32	12	2

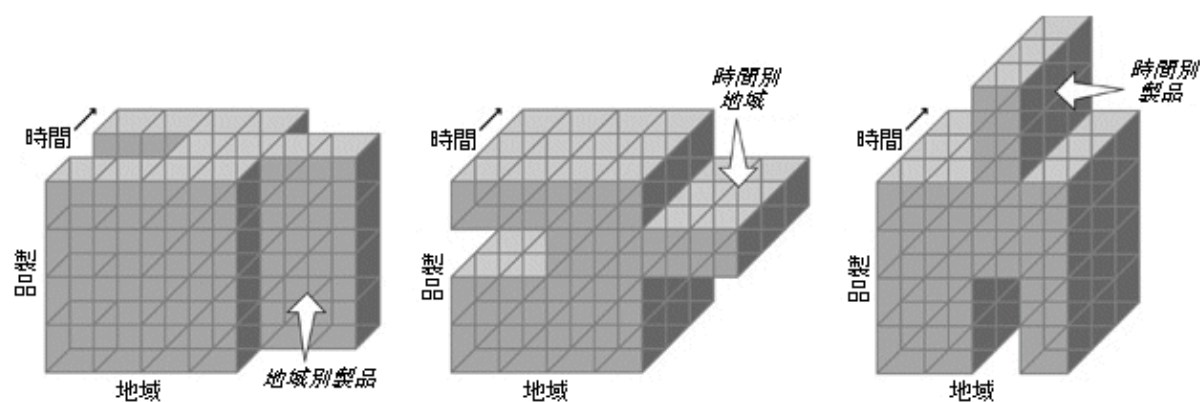
次のスプレッドシートは、各地域内の製品別売上高を示しています。このデータには、“<製品>”（列に表示）と“<地域>”（行に表示）の2つのディメンションがあります。また、各ディメンションは、いくつかの<メンバー>で構成されます。この例では、“<地域>”ディメンションのメンバーには、<USA>、<カナダ>、<UK>が含まれます。

このようなスプレッドシートは、ある時点における販売実績を示すだけで、その用途は限られています。さまざまな期間の実績を追跡調査するには、次のように、それぞれの期間ごとのスプレッドシートをいくつか重ねる必要があります。

製品	2月			
	3月			
	4月			
	5月			
	6月			
	地域			
		米国	カナダ	英国
	製品 1	534	212	231
製品 2	45	21	12	
製品 3	321	324	112	
製品 4	234	120	43	
製品 5	78	43	31	
製品 6	32	12	2	
				時間

このようなスプレッドシートの集合が、製品と地域に続く3番目の次元（時間）となります。

このように重ねたデータセルを表す別の方法として、考えられたのが次の「キューブ」です。



これを“データ キューブ”と呼びます。

データ キューブを使用することにより、アナリストは以下のようなさまざまなビジネス上の問題に対する答えを見つけるために、あらゆる角度からデータをスライスできます。

- 各地域での自社製品の現在の売れ行きはどうか（従来どおり“<地域>”別に“<製品>”を表示）。
- その年の異なる時期において、各市場での自社製品の売れ行きはどうか（“<時系列>”別にした“<地域>”別の“<製品>”を表示）。
- その年の異なる時期での自社製品の売れ行きはどうか（“<時系列>”別に“<製品>”を表示）。

この例では、3つの次元（ディメンション）を見てみました。OLAP アプリケーションは、4つ以上の次元を処理することができます。

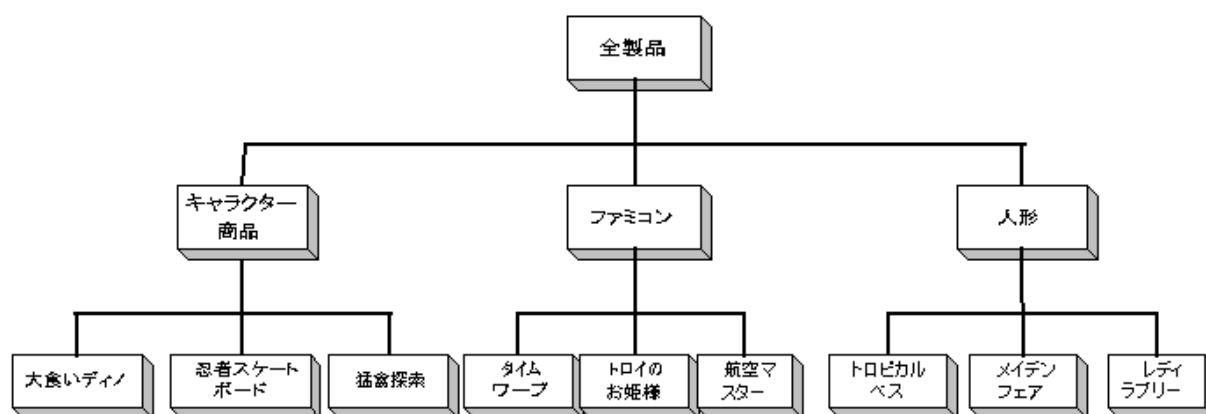
たとえば、4番目のディメンションとして<顧客>別にデータをスライスすることもできます。

3つ以上の次元のデータをビジュアルに考えるのは多少困難ですが、理論は同じです。もう1つ次元を加えると、キューブをスライスする角度がさらに増えます。たとえば「クリスマスには、英国のどの顧客がある特定の製品を最も多く（または少なく）購入しているか？」などの答えを見つけることができます。

29.3 階層データ

アナリストはOLAPを使用して、各データ ディメンションをサブグループと合計の階層に編成して、ビジネスの構造を反映させることができます。

たとえば、玩具店のスタッフが次のように、製品グループ別、店舗全体、製品別の売上を調べたいとします。



OLAP を使用すると、アナリストは、まずトップ レベルで“<すべての玩具>”のデータを表示してから、順次、詳細なレベルのドリル ダウンを行い、特定の実績の偏差理由をデータから正確に把握することができます。

データ キューブ内の複数のディメンションを使用できること、また、ディメンションごとに階層を1つ設定可能であることによって、保存されている情報の構造による制約を受けることなく、OLAP で実績をビジュアルに表示できます。

OLAP を利用することで、アナリストは、従来不可能とされていた情報の表示、比較、および処理を行って、実績をより正確に理解できるようになります。

30 ユーザーインターフェースのリファレンス

この節では、SAP BusinessObjects Analysis, edition for OLAP 内のユーザーインターフェース要素について説明します。タスクの実行については、このユーザガイドの適切な節を参照してください。

30.1 ワークスペースリファレンス

ワークスペースは、Analysis のデータ分析オブジェクトです。Analysis でワークスペースを作成し、その中でデータを分析します。ワークスペースを1つのファイルとしてBIプラットフォームリポジトリに保存すると、後でワークスペースを再度開いて分析を続行したり、他のユーザとワークスペースを共有したりできます。

デフォルトワークスペースには3枚のシートがあり、それぞれのクロスタブは空で分析は未定義です。分析の範囲が大きくなるに従って、分析ウィンドウにクロスタブコンポーネントやチャートコンポーネントを追加したり、ワークスペースに新たなシートを追加したりできます。

関連情報

[分析ウィンドウ リファレンス \[182 ページ\]](#)

[タスクパネルリファレンス \[185 ページ\]](#)

[ツールバーリファレンス \[193 ページ\]](#)

[クロスタブコンポーネントリファレンス \[206 ページ\]](#)

[チャートリファレンス \[213 ページ\]](#)

30.2 分析ウィンドウ リファレンス

主な作業領域は、分析ウィンドウと呼ばれます。分析ウィンドウの各シートに追加できるコンポーネント数は4個までで、クロスタブとチャートを自由に組み合わせることができます。

クロスタブコンポーネントとチャートコンポーネントは、分析ウィンドウの4つの象限の1つを占有したり、隣接する2つの象限を占有したり、または4つの象限を占有することも(シート上に1つのコンポーネントしかない場合)できます。

分析ウィンドウ内のこの領域は、コンポーネントをツールバーからドラッグできる場所で、ドロップゾーンと呼ばれます。分析ウィンドウにコンポーネントを追加したり、コンポーネントの場所を変更したりすると、コンポーネントのドロップゾーンの場所も変わります。

関連情報

[ワークスペースリファレンス \[182 ページ\]](#)
[タスクパネルリファレンス \[185 ページ\]](#)
[ツールバーリファレンス \[193 ページ\]](#)
[クロスタブコンポーネントリファレンス \[206 ページ\]](#)
[チャートリファレンス \[213 ページ\]](#)

30.3 【レイアウト】パネルリファレンス

【レイアウト】パネルでは、分析を定義する階層とメジャーを配置します。【レイアウト】パネルの【行】、【列】、または【バックグラウンド】領域では、1つの階層またはメジャーを配置することも、選択したメジャーのグループを配置することもできます。また、複雑な分析を定義するために、階層をネストすることもできます。



【レイアウト】パネルのオンとオフを切り替えるには、ツールバーのこのボタンをクリックします。

関連情報

[ワークスペースリファレンス \[182 ページ\]](#)
[分析 \[33 ページ\]](#)
[複合分析を作成するためのネストされた階層 \[38 ページ\]](#)

30.3.1 【レイアウト】パネルのドロップゾーン

【レイアウト】パネルには、分析を定義するときに階層を配置するドロップゾーンがあります。

空の軸にメンバーを追加したり、その軸の既存のメンバーを置き換えたりするには、階層か階層レベル、またはメジャーを中央のドロップゾーンにドラッグします。

その軸の既存のメンバーにメンバーを追加するには、階層か階層レベル、またはメジャーを上下のドロップゾーンにドラッグします。新しいメンバーは、既存のメンバーとネストされます。

関連情報

[複合分析を作成するためのネストされた階層 \[38 ページ\]](#)

30.3.2 [レイアウト] パネルの階層機能

[[レイアウト](#)] パネルで階層を右クリックすると、次の機能にアクセスできます。

- フィルタ - メンバー別またはメジャー別に階層をフィルタ処理します。
- 並べ替え - 並べ替えの種類を選択します。
- レベルの表示 - 表示する階層レベルを選択します。
- レベルへの展開 - 選択したレベルまで、階層全体を展開します。
- 表示方法 - メンバー名を表示するための書式を選択します。
- 移動 - 階層を別の軸に移動します。
- 前へ移動 - 階層を別の階層の前にネストします。
- 後ろへ移動 - 階層を別の階層の後ろにネストします。
- 交換 - 位置を別の階層と交換します。
- 削除 - クロスタブから階層を削除します。

関連情報

[データのフィルタリング \[64 ページ\]](#)

[並べ替え \[80 ページ\]](#)

[階層レベルの非表示 \[110 ページ\]](#)

[メンバーキーとテキストの表示を変更する \[73 ページ\]](#)

30.3.3 バックグラウンドフィルタでのカスタムグループと複数のメンバー

階層の既存の親メンバーに集計されないメンバーのグループのデータを表示することが必要になる場合があります。

たとえば、地域ごとの売上高を調べる場合、CA を選択すると、カリフォルニア州のすべての市の売上げの集計が表示されます。しかし、ロサンゼルスとポートランドの両市についてのみ調べる場合は、階層内のメンバーを 1 つ選択してこの 2 つの市だけの売上げを集計することはできません。また、カリフォルニア州のいくつかの市（全部の市ではなく）についてのみ調べる場合も、それらの市だけの売上げを集計する 1 つのメンバーというものはありません。

このようなメンバーのグループのデータを表示するには、バックグラウンドフィルタに複数のメンバーを指定するか、カスタムグループを作成します。

① 注記

メジャーディメンションから複数のメンバーをバックグラウンドフィルタとして選択することはできません。

① 注記

カスタムグループは、MSAS データおよび Essbase データにのみ使用できます。

関連情報

[カスタムグループとしてのメンバーの結合 \[111 ページ\]](#)

[バックグラウンドフィルタ \[77 ページ\]](#)

30.3.4 レイアウトパネルでの追加詳細

Analysis では、親情報とメンバー情報の追加詳細が表示されます。メンバーまたはディメンションをクロスタブに追加すると、メジャーまたはディメンションの親情報がレイアウトパネルに表示されます。

レイアウトパネルに追加詳細が表示されるようにするには、これらのステップを実行します。

1. SAP BusinessObjects BI ラUNCHパッドで [\[基本設定\]](#) ページを開きます。
2. [\[Analysis, edition for OLAP\]](#) を選択します。
3. [\[メタデータパネルの追加詳細\]](#) チェックボックスを選択します。
4. BI ラUNCHパッドからログオフし、再びログオンします。

30.4 タスクパネルリファレンス

タスクパネルはワークスペースの左側のパネルで、[データ] パネル、[プロパティ] パネル、および [アウトライン] パネルが含まれています。これらのパネルを使用して、分析を定義し、ディメンションと階層を表示し、データソースを追加および変更し、コンポーネントのプロパティを表示し、分析の全体構造を表示します。



タスクパネルを非表示にするには、パネルのタイトルバーにあるこのアイコンをクリックします。タスクパネルを開くには、次の任意のパネルボタンをクリックします。



[データ] パネル



[プロパティ] パネル



[アウトライン] パネル

関連情報

[ワークスペースリファレンス \[182 ページ\]](#)

[分析ウィンドウ リファレンス \[182 ページ\]](#)

[ツールバーリファレンス \[193 ページ\]](#)

[クロスタブコンポーネントリファレンス \[206 ページ\]](#)

[チャートリファレンス \[213 ページ\]](#)

30.4.1 [データ] パネル

[データ] パネルでは、データソースを追加して、それらのデータソースで定義されたディメンション、階層、および階層レベルを表示します。

関連情報

[タスクパネルリファレンス \[185 ページ\]](#)

[\[プロパティ\] パネル \[191 ページ\]](#)

[\[アウトライン\] パネル \[193 ページ\]](#)

30.4.1.1 [データ] パネルのデータソース領域

[データ] パネルの上部には、そのワークスペースに追加されたすべてのアクティブなデータソースとそれらの接続の名前の一覧があります。新しいワークスペースを作成すると最初のデータソースを追加するように求められますが、そのとき追加しなくても、後で必要な数のデータソースを追加できます。

→ ヒント

データソース上にマウスを移動すると、接続、キューブ、およびプロバイダがツールヒントに表示されます。



[[データソースへの接続](#)] をクリックすると、システム管理者が定義したデータソースの一覧が表示されます。

データソースの詳細については、[OLAP データソースオブジェクト \[144 ページ\]](#)を参照してください。OLAP データソース接続の定義については、管理者ガイドの「OLAP データソース接続の作成」に関する項を参照してください。

少なくとも1つのデータソースを追加すると、そのデータソースを選択して、メタデータエクスプローラでそのメタデータを表示したり、分析ウィンドウで分析を定義したりできます。

データソースが無効になると、無効になったデータソースに基づいた分析は実行されません。無効になったデータソースは、アクティブなデータソース一覧に表示されますが、使用できません。

関連情報

[無効なデータソース接続 \[148 ページ\]](#)

[タスクパネルリファレンス \[185 ページ\]](#)

[\[プロパティ\] パネル \[191 ページ\]](#)

30.4.1.2 [データ] パネルのデータソースボタン

[データ] パネルのデータソース領域の上にはいくつかのボタンがあり、それらを使用してデータソースを追加、削除、および最新表示できます。

データソースの追加と削除の詳細については、[データソースの追加 \[144 ページ\]](#)および[データソースの削除 \[147 ページ\]](#)を参照してください。



[データソースへの接続] ボタン

[データ] パネルのアクティブなデータソースの一覧にデータソースを追加するには、このボタンをクリックします。



[選択したデータソースを削除] ボタン

[データ] パネルのアクティブなデータソースの一覧からデータソースを削除するには、このボタンをクリックします。このボタンは、一覧でデータソースが選択されているときに有効になります。



[プロンプト] ボタン

分析が接続している SAP BW データ ソースまたは SAP HANA データ ソースのプロンプトを編集するには、このボタンをクリックします。

① 注記

このボタンは、プロンプトを含む SAP BW データソースまたは SAP HANA データソースが、データソース領域で選択されているときにのみ表示されます。

関連情報

[\[データ\] パネルのデータソース領域 \[186 ページ\]](#)

[\[データ\] パネルのメタデータエクスプローラ \[188 ページ\]](#)

[\[データ\] パネルのメタデータエクスプローラのボタン \[189 ページ\]](#)

[\[データ\] パネル \[186 ページ\]](#)

[\[アウトライン\] パネル \[193 ページ\]](#)

[\[プロパティ\] パネル \[191 ページ\]](#)












[SAP BW データソースおよび SAP HANA データソースのプロンプト \[159 ページ\]](#)

30.4.1.3 [データ] パネルのメタデータエクスプローラ

メタデータエクスプローラには、キューブのディメンションと階層がツリー構造で表示されます。

データソースを開くと、すべてのメジャーディメンションがメタデータエクスプローラに自動的に展開され、その構成要素となっているメジャーメンバーやメジャーグループが表示されます。

デフォルトの階層と表示属性は太字で表示されます。

	ディメンション
	メジャーまたはキー数値のディメンション
	グループ表示属性
	お気に入りフィルタ
	階層 (デフォルトの階層は太字で表示されます。)
	階層レベル
	単一メジャー
	個別表示属性 (デフォルトの階層は太字で表示されます。)
	[カスタムグループ] フォルダ
	個人用カスタムグループ
	共有カスタムグループ

メタデータエクスプローラを使用して、分析を定義します。階層とメジャーを選択し、それらを分析ウィンドウのクロスタブまたはチャートに追加します。

分析の定義方法については、[分析 \[33 ページ\]](#)を参照してください。クロスタブおよびチャートの使用方法の詳細については、[クロスタブ \[40 ページ\]](#)および [チャート \[43 ページ\]](#)を参照してください。

関連情報

[タスクパネルリファレンス \[185 ページ\]](#)

[\[プロパティ\] パネル \[191 ページ\]](#)

[\[アウトライン\] パネル \[193 ページ\]](#)

30.4.1.4 [データ] パネルのメタデータエクスプローラのボタン

[データ] パネルのメタデータエクスプローラ領域の上部にあるボタンを使用すると、[レイアウト] パネルやクロスタブに階層やメジャーをドラッグしなくても、分析にメタデータを追加することができます。

クロスタブコンポーネントやチャートコンポーネントにデータを取り込むには、まずコンポーネントを選択してから、メタデータエクスプローラでメタデータオブジェクト (ディメンション、階層、階層レベル、表示属性、またはメジャー) を選択し、次にボタンの 1 つをクリックして選択したメタデータをコンポーネントに追加します。階層ディメンションを選択する場合、ディメンション内のデフォルトの階層がコンポーネントに追加されます。表示属性を選択すると、その属性に関連付けられた階層もコンポーネントに追加されます。

個別のメタデータオブジェクト、またはオブジェクトの範囲を選択できます。

- 選択または選択解除する個別のメタデータオブジェクトをクリックします。
- オブジェクトの範囲を指定して選択または選択解除するには、**Shift** キーを押しながらオブジェクトをクリックします。

バックグラウンドフィルタは特別なケースです。バックグラウンドフィルタの使用方法的詳細については、[Analysis クロスタブの概要 \[40 ページ\]](#)および[タスクパネルリファレンス \[185 ページ\]](#)を参照してください。



[行に追加] ボタン

このボタンは、ビジュアルコンポーネントが選択され、メタデータエクスプローラで少なくとも 1 つのメタデータオブジェクトが選択されている場合に有効になります。

- クロスタブの行が空の場合、このボタンをクリックすると、選択したデータがそのクロスタブの行軸に追加されます。
- クロスタブの行に、選択したデータと同じ階層のデータが含まれている場合、このボタンをクリックすると、選択したデータによって既存のデータが置換されます。
- クロスタブの行に、選択したメンバーとは別の階層のメンバーが含まれている場合、このボタンをクリックすると、その行軸上で、選択したメンバーの内部に既存のメンバーがネストされます。

① 注記

同じソース階層に由来するメンバーが、クロスタブのその行軸以外の軸にすでに指定されている場合、ソース階層からの既存のメンバーはそのクロスタブから削除されます。



[列に追加] ボタン

このボタンは、ビジュアルコンポーネントが選択され、メタデータエクスプローラで少なくとも 1 つのメタデータオブジェクトが選択されている場合に有効になります。

- クロスタブの列が空の場合、このボタンをクリックすると、選択したデータがそのクロスタブの列軸に追加されます。
- クロスタブの列に、選択したメンバーと同じ階層のメンバーが含まれている場合、このボタンをクリックすると、選択したデータによって既存のデータが置換されます。
- クロスタブの列に、選択したメンバーとは別の階層のメンバーが含まれている場合、このボタンをクリックすると、その列軸上で、選択したメンバーの内部に既存のメンバーがネストされます。

① 注記

同じソース階層に由来するメンバーが、クロスタブのその列軸以外の軸にすでに指定されている場合、ソース階層からの既存のメンバーはそのクロスタブから削除されます。


【バックグラウンドフィルタに追加】ボタン

このボタンは、ビジュアルコンポーネントが選択され、メタデータエクスプローラで少なくとも1つのメタデータオブジェクトが選択されている場合に有効になります。

- クロスタブのバックグラウンドフィルタ領域が空の場合、このボタンをクリックすると、選択したデータがそのクロスタブのバックグラウンドフィルタに追加されます。
- クロスタブのバックグラウンドフィルタに、選択したメンバーと同じ階層のメンバーが含まれている場合、このボタンをクリックすると、選択したデータによって既存のデータが置換されます。
- クロスタブのバックグラウンドフィルタに、選択したメンバーとは別の階層のメンバーが含まれている場合、このボタンをクリックすると、そのバックグラウンドフィルタで、選択したメンバーの内部に既存のメンバーがネストされます。

バックグラウンドフィルタでの複数メンバーの使用についての詳細は、[タスクパネルリファレンス \[185 ページ\]](#)を参照してください。

【お気に入りフィルタの作成】ボタン

このボタンをクリックして、お気に入りフィルタを作成します。このフィルタを保存すると、フィルタが専用のアイコンと共にメタデータエクスプローラに表示されます。 

【お気に入りフィルタの編集】ボタン

このボタンをクリックして、お気に入りフィルタに定義されているメンバーを変更できます。

【お気に入りフィルタの削除】 ボタン

このボタンをクリックすると、お気に入りフィルタが削除されます。

【カスタムグループの作成】 ボタン

このボタンをクリックして、カスタムグループを作成します。

【カスタムグループの編集】 ボタン

このボタンをクリックして、選択したカスタムグループを編集します。

【カスタムグループの削除】 ボタン

このボタンをクリックして、選択したカスタムグループを削除します。

関連情報

[タスクパネルリファレンス \[185 ページ\]](#)

[\[プロパティ\] パネル \[191 ページ\]](#)

[\[アウトライン\] パネル \[193 ページ\]](#)

[カスタムグループとしてのメンバーの結合 \[111 ページ\]](#)

30.4.2 【プロパティ】 パネル

[プロパティ] パネルには、選択したオブジェクトに対する一連のプロパティが表示されます。クロstabまたはチャートを選択すると、そのオブジェクトに対するプロパティが [プロパティ] パネルに表示されます。[プロパティ] パネルで表示や修正のできるプロパティは、選択したコンポーネントによって異なります。

次のオブジェクトプロパティは、[プロパティ] パネルで修正できます。

オブジェクト	修正可能なプロパティ
クロスタブ	<ul style="list-style-type: none"> 分析名 説明 列幅 行の高さ 列テキストを折り返す 行テキストを折り返す 合計の強調表示 書式付きセル値の表示 NULL のセルの表示方法 <p>これらのプロパティに関する詳細については、クロスタブコンポーネントリファレンス [206 ページ]を参照してください。</p>
チャート	<ul style="list-style-type: none"> サブ分析名 説明 スタイル パレット フォント ビジュアル トータルの表示 階層別ラベルの表示 凡例を表示 X 軸のラベル Y 軸のラベル Z 軸のラベル Y 軸目盛 Y 軸目盛シンボル X 軸メジャー Y 軸メジャー バブルサイズ計数 手動によるチャートラベルの非表示 より小さいラベルを非表示にする 実際の値の表示 <p>これらのプロパティに関する詳細については、チャートリファレンス [213 ページ]を参照してください。</p>

これらのプロパティとその使用方法については、[クロスタブコンポーネントリファレンス \[206 ページ\]](#)および[チャートリファレンス \[213 ページ\]](#)を参照してください。

関連情報

[タスクパネルリファレンス \[185 ページ\]](#)

[\[データ\] パネル \[186 ページ\]](#)

[\[アウトライン\] パネル \[193 ページ\]](#)

30.4.3 [アウトライン] パネル

アウトライン パネルには、すべてのシートの分析とビジュアルコンポーネント (クロスタブとチャート) の関係が表示されます。

関連情報

[タスクパネルリファレンス \[185 ページ\]](#)

[\[データ\] パネル \[186 ページ\]](#)

[\[プロパティ\] パネル \[191 ページ\]](#)

30.5 ツールバーリファレンス

データ分析タスクの大半はツールバーで実行できます。

① 注記

ツールバーのボタンの一部が無効になっていることがありますが、それは、セントラル管理コンソールでユーザーに割り当てられた権限や、分析ウィンドウで選択されたオブジェクトやコンポーネントによって異なります。

セントラル管理コンソールでの権限の詳細については、システム管理者に問い合わせるか、*SAP BusinessObjects Analysis, edition for OLAP* 管理者ガイドを参照してください。

ツールバーの使用方法の詳細については、次のトピックを参照してください。

関連情報

[ワークスペースリファレンス \[182 ページ\]](#)

[分析ウィンドウ リファレンス \[182 ページ\]](#)

[タスクパネルリファレンス \[185 ページ\]](#)

[クロスタブコンポーネントリファレンス \[206 ページ\]](#)

[チャートリファレンス \[213 ページ\]](#)

30.5.1 ツールバーの概要

ツールバーには、よく使用される機能のボタンが用意されており、その多くはタブによってグループ分けされています。

複数の機能が関連付けられているボタンもあります。たとえば、[計算]ボタンを使用すると、何種類かの計算を実行できます。

複数の機能を持つボタンには、デフォルトの動作が関連付けられているものがあります。たとえば、[並べ替え]ボタンの横にある矢印をクリックすると、選択したメンバーに適用できる並べ替え操作が表示されますが、[並べ替え]ボタン自体をクリックすると、デフォルトの[昇順]での並べ替えが適用されます。

チャートボタンをクリックすると、該当する種類のチャートを分析ウィンドウ内のデフォルト位置に追加でき、そのボタンをドラッグすると、分析ウィンドウ内の指定した位置にチャートを追加できます。

① 注記

ツールバーに用意されている機能の多くは、右クリックして表示されるショートカットメニューにもあります。たとえば、階層またはメンバーヘッダを右クリックすると、関連オプションを含むメニューが表示されます。

30.5.2 アプリケーションボタン

30.5.2.1 [ワークスペースの新規作成] ボタン



新しい Analysis ワークスペースを作成するには、このボタンを使用します。

関連情報

[Analysis ワークスペースの作成 \[18 ページ\]](#)

30.5.2.2 [開く] ボタン



▼ SAP BusinessObjects リポトリから既存のワークスペースを開くには、このボタンを使用します。[開く] ボタンをクリックすると、デフォルトの[ワークスペースを開く]機能が実行されます。[開く] ボタンの横の矢印をクリックすると、ワークスペースまたは分析ビューを開くためのオプションが表示されます。

関連情報

[別の Analysis ワークスペースの開始 \[30 ページ\]](#)

30.5.2.3 [保存]ボタン



ワークスペースを SAP BusinessObjects リポジトリに保存するには、このボタンを使用します。[保存]ボタンをクリックすると、デフォルトの[保存]機能が実行されます。[保存]ボタンの横の矢印をクリックすると、ファイルを保存するためのオプションが表示されます。

以下の保存オプションを使用できます。

オプション	関数
保存	現在のワークスペースを保存します。 新しいワークスペースを作成してまだ保存していない場合は、[保存]を選択すると[名前を付けて保存]機能が実行されます。
名前を付けて保存	現在のワークスペースが新しいリポジトリオブジェクトとして保存されます。新しく作成したワークスペースまたは修正した既存のワークスペースを保存できます。 [名前を付けて保存]機能では、新しいワークスペースの場所と名前を選択できます。

関連情報

[ワークスペースの保存 \[28 ページ\]](#)

30.5.2.4 [送信先] ボタン



ワークスペースを別の BI プラットフォームユーザまたは電子メール受信者へ送信するには、このボタンを使用します。[送信先] ボタンをクリックすると、デフォルトの“SAP BusinessObjects 受信ボックス”機能が実行されます。[送信先] ボタンの横の矢印をクリックすると、ワークスペースを送信するオプションが表示されます。

次のオプションを使用できます。

オプション	関数
SAP BusinessObjects の受信ボックス	ワークスペースを別の BI プラットフォームユーザの受信トレイに送信します。
電子メール	ワークスペースを電子メール内のリンクとして、電子メールの受信者に送信します。受信者は、BI プラットフォームにログインしてワークスペースを表示する必要があります。
ドキュメントのリンク	ワークスペースの URL を表示します。

関連情報

[別のユーザへの Analysis ワークスペースの送信 \[133 ページ\]](#)

30.5.2.5 [エクスポート]ボタン



▼分析からデータを次の任意のエクスポート先にエクスポートするには、このボタンを使用します。

- Microsoft Excel (.xls または .xlsx)
- カンマ区切り値ファイル (.csv)
- PDF (配布または印刷用)
- 分析ビュー
- 分析アプリケーション

[エクスポート] ボタンをクリックすると、Excel にデータがエクスポートされます。[エクスポート] ボタンの横の矢印をクリックすると、エクスポートのオプションを選択できます。

関連情報

[Excel にデータをエクスポート \[139 ページ\]](#)

[カンマ区切り \(..csv\) ファイルへのデータのエクスポート \[140 ページ\]](#)

[印刷と PDF ファイル \[136 ページ\]](#)

[その他の SAP BusinessObjects アプリケーションでの分析の使用 \[151 ページ\]](#)

[分析アプリケーションへのエクスポート \[141 ページ\]](#)

30.5.2.6 [印刷]ボタン



PDF ファイルにデータを出力するには、このボタンを使用します。このボタンをクリックすると、[PDF にエクスポート] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスで、選択したシートまたは未処理データを出力できます。PDF ファイルビューアでは、出力を PDF ファイルとして保存したり、プリンタに送ったりできます。

関連情報

[印刷と PDF ファイル \[136 ページ\]](#)

30.5.2.7 [元に戻す]ボタン

 このボタンを使用して、直前の操作を元に戻します。

① 注記

データソースを削除すると、元に戻す/やり直しの履歴は分析 ([アウトライン] パネル上) またはシートからクリアされます。


① 注記

元に戻す操作は、最大 10 回分保存されます。

関連情報

[\[元に戻す\]ボタン \[197 ページ\]](#)

30.5.2.8 [やり直し]ボタン

 このボタンを使用して、[元に戻す]ボタンで戻された操作を再び適用します。


① 注記

やり直し操作は、最大 10 回分保存されます。

30.5.2.9 [変更を破棄する] ボタン

 ワークスペースを開いてから変更されたすべての内容を破棄するには、このボタンを使用します。

30.5.2.10 [コピー]ボタン

 このボタンを使用して、現在選択されているクロスタブまたはチャートコンポーネントをコピーします。コピーしたコンポーネントは、同じシートまたは別のシートに貼り付けることができます。

① 注記

クロスタブまたはチャートコンポーネントを選択するまで[コピー]ボタンは無効になります。

関連情報

[コンポーネントのコピー \[121 ページ\]](#)

30.5.2.11 [貼り付け]ボタン



コピーしたクロスタブまたはチャートコンポーネントを同じシートまたは別のシートに貼り付けるには、このボタンを使用します。

① 注記

クロスタブまたはチャートコンポーネントをコピーするまで[貼り付け]ボタンは使用できません。

関連情報

[コンポーネントのコピー \[121 ページ\]](#)

30.5.2.12 [削除]ボタン



選択したクロスタブまたはチャートをシートから削除するには、このボタンを使用します。

① 注記

クロスタブコンポーネントまたはチャートコンポーネントを選択するまで[削除]ボタンは使用できません。

30.5.2.13 [レイアウトパネルの非表示] ボタン



[レイアウト] パネルのオンとオフを切り替えるには、このボタンを使用します。

30.5.2.14 [ヘルプ]ボタン



Analysis オンラインヘルプを開くには、このボタンを使用します。

30.5.2.15 [自動更新] ボタン

レイアウトの自動更新のオンとオフを切り替えるには、[自動更新] ボタンを使用します。

関連情報

30.5.3 [分析] タブのボタン

30.5.3.1 [フィルタ]ボタン

データをフィルタ処理してクロスタブまたはチャートに表示するには、[フィルタ] ボタンを使用します。

一覧からメンバーを選択してデータをフィルタ処理するには、[メンバー別] を選択します。

フィルタルールを定義してデータをフィルタ処理するには、[メジャー別] を選択します。

BEx 条件を選択して、SAP Business Explorer で定義された条件を使用した SAP BW データをフィルタします。

① 注記

クロスタブ内で1つの行または列を選択するまで [フィルタ] ボタンは使用できません。

① 注記

メジャーによるフィルタは、SAP HANA データを基準にした分析には使用できません。

① 注記

クロスタブにネストされた階層が含まれている場合、フィルタは最も内側の階層のメンバーにのみ追加できません。

関連情報

[データのフィルタリング \[64 ページ\]](#)

[BEx 条件による SAP BW データのフィルタ \[76 ページ\]](#)

30.5.3.2 [並べ替え]ボタン

クロスタブのデータを並べ替えるには、[並べ替え] ボタンを使用します。

[並べ替え]ボタンをクリックすると、デフォルトの昇順並べ替えが適用されます。[並べ替え]ボタンの横の矢印をクリックすると、並べ替えのオプションが表示されて、そこからオプションを選択できます。

以下の並べ替えオプションを使用できます。

オプション	関数
昇順(デフォルト)	選択された行または列を昇順に並べ替えます。 メンバーの階層構造は維持されます。
降順	選択された行または列を降順に並べ替えます。 メンバーの階層構造は維持されます。
削除	行または列の並べ替えを元に戻します。

① 注記

クロスタブ内で1つの行または列を選択するまで[並べ替え]ボタンは使用できません。



① 注記

[削除] オプションは、クロスタブで並べ替えが適用されている1つの行または列を選択するまで無効です。

① 注記

クロスタブにネストされた階層が含まれている場合、並べ替えは最も内側の階層のメンバーにのみ追加できます。

メンバーに並べ替えが適用されている場合、そのメンバー名の横にアイコンが表示され、並べ替えが昇順か降順かを示します。

アイコン	オプション	関数
	昇順	行または列が昇順に並べ替えられていることを示します。
	降順	行または列が降順に並べ替えられていることを示します。

このアイコンをクリックすると、昇順と降順が逆になります。

関連情報

[並べ替え \[80 ページ\]](#)

30.5.3.3 [計算] ボタン

クロスタブに計算 (計算メンバー) を追加するには、[計算] ボタンを使用します。

カスタム計算を作成する場合は、[計算] ボタンをクリックして [\[計算\]](#) パネルを開きます。計算オプションをさらに使用するには、[計算] ボタンの横の矢印をクリックします。

① 注記

1つのメンバーを選択してから [計算] ボタンをクリックすると、動的な計算にアクセスできます。2つのメンバーを選択してから [計算] ボタンをクリックすると、単純算術計算にアクセスできます。

以下の計算オプションを使用できます。

計算	説明
加算	選択した行または列の値を加算します。
減算	選択した行または列の値を減算します。 最初に選択した行または列のセル値から 2 番目に選択した行または列の値が引かれます。
乗算	選択した行または列の値を乗算します。
除算	選択した行または列の値を除算します。 最初に選択したメンバーの行または列のセル値が、2 番目に選択した行または列の値で割られます。
動的な計算	動的な計算の一覧が開きます。
カスタム計算	[計算] パネルが開きます。これにより、式を定義して計算を作成できるようになります。

関連情報

[計算 \[89 ページ\]](#)

30.5.3.4 [条件付き書式設定] ボタン

クロスタブのセルのデータに色の適用や記号の追加を行ったり、重要な差異や注目すべき結果を強調表示するには、[条件付き書式設定] ボタンを使用します。

たとえば、事前に決定された値よりも大きい値または小さい値を強調表示することができます。

① 注記


クロスタブ内で 1 つのメンバーを選択するまで [条件付き書式設定] ボタンは使用できません。

関連情報

[条件付き書式設定 \(例外の強調表示\) \[84 ページ\]](#)

30.5.4 [挿入] タブのボタン

30.5.4.1 [クロスタブの挿入]ボタン

 シートにクロスタブを配置するには、[クロスタブの挿入] ボタンを使用します。シートに配置できるビジュアルコンポーネント数は4個までで、クロスタブとチャートを自由に組み合わせることができます。

シートにクロスタブを配置するには、ツールバーから分析ウィンドウに [クロスタブ] をドラッグします。または、[クロスタブ] ボタンをクリックして、現在のシートにクロスタブを挿入できます。シートの既存のコンポーネントの下または右にコンポーネントが追加されます。ただし、後で分析ウィンドウ内のコンポーネントの配置を変更できます。

他のオプションを使用するには、[クロスタブの挿入] ボタンの横の矢印をクリックします。

関連情報

[クロスタブ \[40 ページ\]](#)

[クロスタブコンポーネントリファレンス \[206 ページ\]](#)

30.5.4.2 [チャート]ボタン

シートにチャートを配置するには、チャートのボタンを使用します。シートに配置できるビジュアルコンポーネント数は4個までで、クロスタブとチャートを自由に組み合わせることができます。

チャートをシートに配置するには、チャートのボタンをクリックします。または、シートに追加するチャートに対応するボタンがなく、代わりにチャートファミリーの1つのメンバーである場合は、そのチャートファミリーのボタンの横にある矢印をクリックしてから、一覧からチャートタイプを選択します。シートの既存のコンポーネントの下または右にコンポーネントが追加されます。ただし、後で分析ウィンドウ内のコンポーネントの配置を変更できます。

以下のチャートタイプを使用できます。

チャートタイプ	
	縦棒チャートファミリー
	 集合縦棒
	 積み上げ縦棒
	 100% 積み上げ縦棒
	 3D 集合縦棒

チャートタイプ	
	折れ線チャート
	円チャート
	棒チャートファミリー
	集合棒
	積み上げ棒
	100% 積み上げ棒
	その他のチャート
	散布図
	バブル
	ボックスプロット
	レーダー
	ウォーターフォール

関連情報

[チャート \[43 ページ\]](#)

[チャートリファレンス \[213 ページ\]](#)

30.5.4.3 [次に切替] ボタン

クロスタブをチャートに変更したり、チャートをクロスタブまたは他のタイプのチャートに変更するには、[次に切替] ボタンを使用します。

30.5.5 [表示] タブのボタン

30.5.5.1 [軸の交換] ボタン

選択したコンポーネントの水平軸と垂直軸を交換するには、[軸の交換] ボタンを使用します。

分析のすべての並べ替えおよびフィルタは保持されます。

① 注記

クロstabまたはチャートを選択するまで [軸の交換] ボタンは使用できません。

30.5.5.2 [階層] ボタン

[階層] ボタンを使用して、ネストされた階層の通常表示と、軸の最小表示を切り替えます。

① 注記

軸の最小表示は、SAP BW データでのみ使用できるため、[階層] ボタンは SAP BW データを使用しているときにのみ利用できます。

30.5.5.3 [メジャー書式] ボタン

書式を追加してデータの外観を変更するには、[メジャー書式] ボタンを使用します。

追加できる書式の種類には次のようなものがあります。

- クロstabでの数値の表示書式(たとえば、科学表記での表示など)。
- 表示される小数点以下の桁数(0 から 99 までの任意の桁数で、デフォルトは 2)。
- 負数の値の表示書式。

関連情報

[データの書式設定 \[126 ページ\]](#)

30.5.5.4 [合計] ボタン

[合計] ボタンを使用して、合計と親をクロstabのどこに表示するかを設定します。

関連情報

[合計、親、および集計 \[100 ページ\]](#)

30.5.5.5 [NULL] ボタン

クロスタブに表示されている、NULL 値のみが入力されている列と行を非表示にするには、[\[NULL\]](#) ボタンを使用します。

行のみ、列のみ、行と列の両方を非表示にすることもできます。

関連情報

[NULL 値およびゼロ値の削除 \[78 ページ\]](#)

30.5.5.6 [NULL & ゼロ] ボタン

クロスタブに表示されている、NULL またはゼロの値のみが入力されている列と行をすべて非表示にするには、[\[NULL & ゼロ\]](#) ボタンを使用します。

行のみ、列のみ、行と列の両方を非表示にすることもできます。

関連情報

[NULL 値およびゼロ値の削除 \[78 ページ\]](#)

30.5.5.7 [フォーカス分析] ボタン

フォーカス分析モードのオンとオフを切り替えるには、[\[フォーカス分析\]](#) ボタンを使用します。

関連情報

[サブ分析でのデータのサブセットの表示 \[62 ページ\]](#)

30.5.5.8 [サブ分析の更新] ボタン

サブ分析の更新のオンとオフを切り替えるには、[\[サブ分析の更新\]](#) ボタンを使用します。

関連情報

[サブ分析 \[61 ページ\]](#)

30.5.5.9 【サブ分析のリンク解除】 ボタン

サブ分析をメイン分析からリンク解除するには、[サブ分析のリンク解除] ボタンを使用します。

関連情報

[サブ分析のリンク解除 \[63 ページ\]](#)

30.6 クロスタブコンポーネントリファレンス

次の図に、クロスタブコンポーネントの要素を示します。

The screenshot shows a window titled 'Analysis 1' containing a cross-tab component. The component has a row dimension 'Product Model Category' and a column dimension 'Measures'. The row dimension is expanded to show 'All Products', 'Accessories', 'Bikes', 'Clothing', and 'Components'. The column dimension shows 'Internet Sales Amount', 'Internet Order Quantity', 'Internet Extended /', 'Internet Tax Amount', 'Internet Freight Cost', and 'Internet'. The data is displayed in a grid. Red circles with numbers 1 through 4 point to specific elements: 1 points to the row dimension header, 2 points to the column dimension header, 3 points to a row member ('All Products'), and 4 points to a column member ('Internet Sales Amount').

Product Model Category	Internet Sales Amount	Internet Order Quantity	Internet Extended /	Internet Tax Amount	Internet Freight Cost	Internet
All Products	29,358,677.2	60,398	\$ 29,358,677.22	\$ 2,348,694.23	\$ 733,969.61	\$ 17,2
Accessories	700,760.0	36,092	\$ 700,759.96	\$ 56,060.80	\$ 17,520.56	\$ 2
Bikes	28,318,144.7	15,205	\$ 28,318,144.65	\$ 2,265,451.62	\$ 707,954.31	\$ 16,8
Clothing	339,772.6	9,101	\$ 339,772.61	\$ 27,181.81	\$ 8,494.74	\$ 2
Components						

1. 行の階層またはディメンション
2. 列の階層またはディメンション
3. 行メンバー
4. 列メンバー

関連情報

[クロスタブ \[40 ページ\]](#)

[ワークスペースリファレンス \[182 ページ\]](#)

[分析ウィンドウ リファレンス \[182 ページ\]](#)

[タスクパネルリファレンス \[185 ページ\]](#)

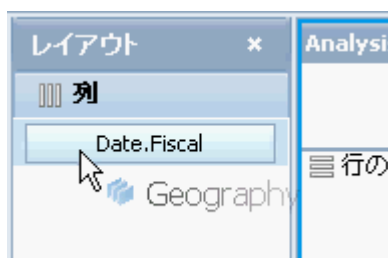
[ツールバーリファレンス \[193 ページ\]](#)

[チャートリファレンス \[213 ページ\]](#)

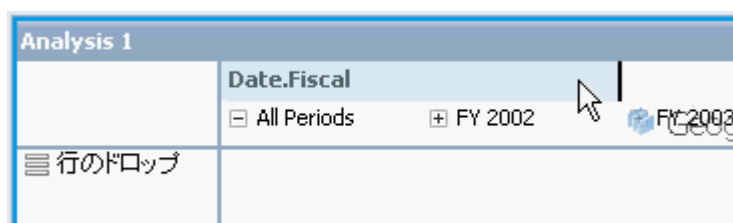
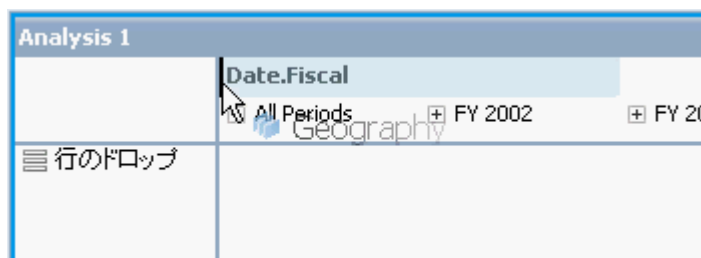
30.6.1 クロスタブのドロップゾーン

[レイアウト] パネルでは、分析を定義する階層とメジャーを配置します。クロスタブグリッド内の他のドロップゾーンは、クロスタブにメジャーディメンションのメンバーを追加するときに使用します。詳細については、[クロスタブコンポーネントリファレンス \[206 ページ\]](#)を参照してください。

空の軸にメンバーを追加したり、その軸の既存のメンバーを置き換えたりするには、階層または階層レベルを中央のドロップゾーンにドラッグします。



その軸の既存のメンバーにメンバーを追加するには、階層または階層レベルを左右のドロップゾーンにドラッグします。新しいメンバーは、既存のメンバーとネストされます。



関連情報

[複合分析を作成するためのネストされた階層 \[38 ページ\]](#)

30.6.2 クロスタブの階層機能

[[レイアウト](#)] パネルで階層またはメジャーを右クリックすると、次の機能にアクセスできます。

- フィルタ - メンバー別またはメジャー別に階層をフィルタ処理します。
- 並べ替え - 並べ替えの種類を選択します。
- レベルの表示 - 表示する階層レベルを選択します。

→ ヒント

ディメンションにカーソルを合わせて、どの階層レベルが表示されるかをすばやく確認することができます。

- レベルへの展開 - 選択したレベルまで、階層全体を展開します。
- 表示方法 - メンバー名を表示するための書式を選択します。
- 移動 - 階層を別の軸に移動します。
- 前へ移動 - 階層を別の階層の前にネストします。
- 後ろへ移動 - 階層を別の階層の後ろにネストします。
- 交換 - 位置を別の階層と交換します。
- 削除 - クロスタブから階層を削除します。

関連情報

[データのフィルタリング \[64 ページ\]](#)

[並べ替え \[80 ページ\]](#)

[階層レベルの非表示 \[110 ページ\]](#)

[メンバーキーとテキストの表示を変更する \[73 ページ\]](#)

[クロスタブコンポーネントリファレンス \[206 ページ\]](#)

[クロスタブ \[40 ページ\]](#)

[クロスタブコンポーネントリファレンス \[206 ページ\]](#)

[クロスタブコンポーネントリファレンス \[206 ページ\]](#)

[クロスタブコンポーネントリファレンス \[206 ページ\]](#)

30.6.3 クロスタブグリッド

クロスタブグリッドはメンバーヘッダとデータが表示される場所です。

行と列のサイズ変更

行および列のメンバーヘッダの縁をドラッグすると、サイズを変更できます。

メンバーヘッダのアイコン

あるメンバーに並べ替えまたは計算を適用している場合、そのメンバーのヘッダにアイコンが表示されます。

メンバー関数

クロスタブグリッドのメンバーヘッダを右クリックすると、次の機能にアクセスできます。

- ドリル - メンバーの展開および折りたたみについては、[親メンバーの展開と折りたたみ \[104 ページ\]](#)を参照してください。
- 並べ替え - データの並べ替えについては、[並べ替え \[80 ページ\]](#)を参照してください。
- 条件付き書式設定 - 条件付き書式設定のデータへの追加については、[条件付き書式設定の適用 \[84 ページ\]](#)を参照してください。
- 計算 - 計算の追加と定義については、[計算の作成 \[90 ページ\]](#)を参照してください。
- 動的な計算 - 計算の追加と定義については、[計算の作成 \[90 ページ\]](#)を参照してください。
- カスタム計算 - 計算の追加と定義については、[計算の作成 \[90 ページ\]](#)を参照してください。
- 次をピボット - 階層のピボットについては、[階層のピボット \[107 ページ\]](#)を参照してください。
- メンバーの並べ替え - メンバーの並べ替えについては、[メンバーの並べ替え \[111 ページ\]](#)を参照してください。
- カスタムグループ - カスタムグループについては、[カスタムグループとしてのメンバーの結合 \[111 ページ\]](#)を参照してください。
- ジャンプリンク - 他のドキュメントへのリンクの作成については、[レポートへのリンク \[149 ページ\]](#)を参照してください。
- メンバーの保持 - メンバーの保持については、[個別のメンバーを削除または追加する \[69 ページ\]](#)を参照してください。
- 削除 - メンバーの非表示については、[個別のメンバーを削除または追加する \[69 ページ\]](#)を参照してください。

セルドロップゾーン

クロスタブにメジャーを追加するには、メジャーを行軸、列軸、またはバックグラウンドフィルタにドラッグします。また、メジャーをメインのセル領域にドラッグしても追加できます。このドロップゾーンは、メジャーディメンションのメンバーの変更または追加にのみ使用されます。メジャーディメンション以外のメンバーをセルドロップゾーンにドロップしたり、メジャーディメンション全体をセルドロップゾーンにドロップしたりすることはできません。

セルドロップゾーンにメジャーをドロップすると、それらのメジャーは列軸に配置されます。

行軸または列軸にメジャーディメンションの一部のメンバーが配置済みの場合、さらにセルドロップゾーンにメジャーをドロップすると、それらのメジャーが同じ軸の他のメジャーに追加されます。

バックグラウンドフィルタにメジャーメンバーが配置済みの場合、セルドロップゾーンに他のメンバーをドロップすると、メジャーディメンションが列軸に交換され、新しいメンバーが選択に追加されます。

セル選択

選択したセルにのみ条件付き書式設定を適用する場合、クロスタブ内をクリックしてドラッグすることによってセル範囲を選択することができます。

関連情報

[クロスタブコンポーネントリファレンス \[206 ページ\]](#)

[クロスタブ \[40 ページ\]](#)

[クロスタブコンポーネントリファレンス \[206 ページ\]](#)

[クロスタブコンポーネントリファレンス \[206 ページ\]](#)

30.6.4 クロスタブの表示オプション

次のオプションを使用して、クロスタブの外観をカスタマイズできます。これらのオプションには、[プロパティ] パネルからアクセスできます。これらのプロパティに関する詳細については、[クロスタブコンポーネントリファレンス \[206 ページ\]](#)を参照してください。

オプション	値
分析名	50 文字以内のテキスト文字列
説明	255 文字以内のテキスト文字列
列幅[レツハバ]	数値
行の高さ	数値
列テキストを折り返す	はい、いいえ
行テキストを折り返す	はい、いいえ
合計の強調表示	はい、いいえ
書式付きセル値の表示	はい、いいえ
NULL のセルの表示方法	50 文字以内のテキスト文字列

30.6.4.1 クロスタブの表示オプションの説明

分析名

このオプションは、クロスタブコンポーネントに表示される分析の名前を定義します。この名前はクロスタブのタイトルバーに表示され、[\[アウトライン\]](#) パネルでクロスタブを特定するためにも使用されます。デフォルト値は、クロスタブの作成時に自動的に生成される名前です。

説明

クロスタブの名前のほかに、最大 255 文字までクロスタブを説明するコメントを追加することができます。説明は任意であり、クロスタブコンポーネントには表示されませんが、クロスタブを PDF ドキュメントに出力すると、説明はページヘッダまたはページフッタに追加されます。

列の幅

このオプションは、クロスタブの列の幅をピクセル単位で定義します。入力した値は、クロスタブのすべての列に適用されます。

入力可能な最小値は、20 です。

行の高さ

このオプションは、クロスタブの行の高さをピクセル単位で定義します。入力した値は、クロスタブのすべての行に適用されます。

入力可能な最小値は、20 です。

列テキストを折り返す

このオプションは、クロスタブの列ヘッダのテキストを折り返すかどうかを定義します。

デフォルト値は No です。

行テキストを折り返す

このオプションは、クロスタブの行ヘッダのテキストを折り返すかどうかを定義します。

デフォルト値は No です。

合計の強調表示

このオプションでは、合計をクロスタブで独自の色によって強調表示するかどうかを定義します。

デフォルト値は "はい" です。

書式付きセル値の表示

このオプションは、セルの値の表示に [メジャー書式] ダイアログボックスで定義した書式を適用するかどうかを定義します。メジャーの書式設定の詳細については、[データの書式設定 \[126 ページ\]](#)を参照してください。

デフォルト値は "はい" です。

NULL のセルの表示方法

このオプションは、NULL 値の表示方法を定義します。最大 50 文字までの、任意の文字を入力できます。入力には常に(数値が入力された場合でも)テキストとして処理されます。

デフォルトでは、NULL 値は空のセルとして表示されます。

関連情報

[タスクパネルリファレンス \[185 ページ\]](#)

[クロスタブコンポーネントリファレンス \[206 ページ\]](#)

[クロスタブ \[40 ページ\]](#)

[クロスタブコンポーネントリファレンス \[206 ページ\]](#)

[クロスタブコンポーネントリファレンス \[206 ページ\]](#)

30.6.5 クロスタブのツールヒント

メンバーヘッダのツールヒントには、メンバーのレベルとテキストが表示されます。

関連情報

[クロスタブコンポーネントリファレンス \[206 ページ\]](#)

[クロスタブ \[40 ページ\]](#)

[クロスタブコンポーネントリファレンス \[206 ページ\]](#)

[クロスタブコンポーネントリファレンス \[206 ページ\]](#)

30.7 チャートリファレンス

チャートコンポーネントはメインのチャートグラフで構成されており、データセットが大きい場合は、チャートのデータをナビゲートするための範囲スライダが表示されます。

関連情報

[チャート \[43 ページ\]](#)

[チャートの範囲スライダ \[213 ページ\]](#)

[チャートのグラフ \[215 ページ\]](#)

[チャートの表示オプション \[217 ページ\]](#)

[ワークスペースリファレンス \[182 ページ\]](#)

[分析ウィンドウ リファレンス \[182 ページ\]](#)

[タスクパネルリファレンス \[185 ページ\]](#)

[ツールバーリファレンス \[193 ページ\]](#)

[クロスタブコンポーネントリファレンス \[206 ページ\]](#)

30.7.1 チャートの範囲スライダ



1. 概要スクロールバー
2. 選択範囲
3. 範囲スライダバー
4. [非表示/復元] ボタン

5. [ページ移動] ボタン

チャートの範囲スライダを使用すると、大きいデータ セットを含むチャート内をスクロールして表示できます。チャートのデータ セットが大きすぎてメインのチャート グラフでの表示が見にくい場合、自動的に範囲スライダが表示されます。範囲スライダは以下の種類のチャートで使用できます。

- 縦棒チャート（立体集合縦棒チャートを除く）
- 折れ線チャート
- 円チャート
- 棒チャート

範囲スライダ バー

範囲スライダ バーを使用すると、範囲スライダ コントロール内で選択される範囲のサイズを変更したり、配置を変更したりできます。目的の場所の近くにバーを移動して、マウスボタンを離すと、最も近い論理的データ要素にバーが配置されます。

選択範囲

範囲スライダ バーの間の領域が、選択範囲です。この範囲は、メインのチャート グラフに展開されます。範囲スライダ内で選択範囲をドラッグして、チャート内をスクロールすることもできます。

概要スクロール バー

データ セットが非常に大きい場合は、範囲スライダではデータ セット全体を見やすく表示することができません。その場合、範囲スライダは完全なデータ セットの一部を表示するのに対して、概要スクロール バーはデータ セット全体を表示します。概要スクロール バー内のスクロール ボックスの相対的なサイズは、範囲スライダに表示される部分がデータ セット全体に占めるパーセンテージを表します。

概要スクロール バーを使用して、完全なデータ セットの別のサブセットに範囲スライダを移動します。

[非表示/復元] ボタン

メインのチャート グラフをチャート コンポーネントでより大きい領域に表示するには、範囲スライダの端にある矢印ボタンをクリックして、範囲スライダを非表示にすることができます。この矢印ボタンを再度クリックすると、範囲スライダが復元されます。

[ページ移動] ボタン

範囲スライダの両端にある矢印ボタンは、範囲スライダ内のページ要素単位で選択した範囲を移動します。ページは、選択した範囲の現在のサイズとして定義されます。

データセットが非常に大きい場合は、範囲スライダは完全なデータセットの一部だけを表します。このような場合、矢印ボタンは、通常どおり、選択範囲が範囲スライダの終端に達するまで、ページ単位で選択範囲を移動します。再度矢印ボタンをクリックすると、選択範囲はさらに移動しますが、範囲スライダも完全なデータセットの内部を移動します。

範囲スライダでのサイズの自動調整

範囲スライダでは、値のサイズはスライダに合わせて自動的に調整されます。たとえば、縦棒チャートまたは棒チャートで、範囲スライダに現在表示されているデータのサブセットが1から100までの値を含む場合、値2は非常に短いライザーで表示されます。しかし、範囲スライダを、1から2までの値があるデータの別のサブセットにスクロールした場合、値のサイズが調整されるので、値2は長いライザーで表されます。

関連情報

[チャート内のスクロール \[53 ページ\]](#)

[チャートリファレンス \[213 ページ\]](#)

[チャートリファレンス \[213 ページ\]](#)

[チャートリファレンス \[213 ページ\]](#)

30.7.2 チャートのグラフ

チャートのグラフは、定義した分析またはサブ分析によって返されたデータを表示します。

メンバー関数

チャートがサブ分析を表している場合、チャートのグラフを右クリックするとチャートの種類を変更することができます。チャートが分析を表している場合、チャート内のメンバーを右クリックすると、次の機能にアクセスできます。

- 展開、折りたたみ - メンバーの展開および折りたたみについては、[親メンバーの展開と折りたたみ \[104 ページ\]](#)を参照してください。
- 削除 - メンバーの削除については、[個別のメンバーを削除または追加する \[69 ページ\]](#)を参照してください。
- 別のチャートの種類または別のクロスタブへの切り替え - チャートの種類については、[チャートの種類 \[46 ページ\]](#)を参照してください。

関連情報

[チャートリファレンス \[213 ページ\]](#)

[チャートリファレンス \[213 ページ\]](#)

[チャートリファレンス \[213 ページ\]](#)

30.7.2.1 大きいデータ セットを含むチャート

使用可能な領域に効率的にグラフが描画されるようにチャートの要素のサイズを自動的に変更します。そのために、インテリジェント表示方式を使用して、読みやすいメンバーテキストを可能な限りチャート上に表示します。しかし、チャートのデータセットが大きい場合は、すべての要素を表示できない場合や、一部のメンバーテキストが省略される場合があります。

チャート内のメンバーテキスト

1つの軸に多くのメンバーがあるチャートの場合、メンバーテキストをずらして再構成して、可能な限り多くのテキストが表示されます。しかし、メンバーの数が非常に多い場合は、他のテキストを読み取ることができるように、メンバーテキストのサブセットのみがチャートに表示されることもあります。

メンバーにマウスポイントを置くと、チャートから除外されたメンバーテキストをツールヒントに表示できます。

関連情報

[チャートリファレンス \[213 ページ\]](#)

30.7.2.2 チャートの色とスタイル

チャートの表示には、いくつかのカラーパレットとスタイルを使用できます。

関連情報

[チャートリファレンス \[213 ページ\]](#)

30.7.2.3 データ型に関する留意点

キューブに対して定義されたメジャーは、メジャーまたはデータ型と同じ単位に基づいていない場合があります。たとえば、“売上げ数”、“店舗経費”、“店舗”の売上げなどのメジャーはデータ型 `double` を使用し、“販売数”メジャーはデータ型 `integer` を使用しているとします。チャートが描画されるときは、すべての数値がデータ型 `double` に変換されます。

30.7.3 チャートの表示オプション

次のオプションを使用して、チャートをカスタマイズできます。これらのオプションには、[\[プロパティ\]](#) パネルからアクセスできます。これらのプロパティに関する詳細については、[チャートリファレンス \[213 ページ\]](#)を参照してください。

オプション	値
分析名	50 文字以内のテキスト文字列
説明	255 文字以内のテキスト文字列
スタイル	デフォルト シャドー プレゼンテーション プレゼンテーション シャドー
パレット	デフォルト クール ウォーム ホット ラベンダー ローズ デザート フォレスト オーシャン モノクロ
フォント	システム管理者によって設定されたフォント
合計を表示	はい、いいえ
階層別ラベルの表示	はい、いいえ
凡例を表示	はい、いいえ
X 軸のラベル	50 文字以内のテキスト文字列
Y 軸のラベル	50 文字以内のテキスト文字列

オプション	値
Z 軸のラベル	50 文字以内のテキスト文字列
Y 軸目盛	目盛なし、十億、百万、千、千分の一、百万分の一
Y 軸目盛シンボル	50 文字以内のテキスト文字列
X 軸メジャー	分析で使用可能なメジャー
Y 軸メジャー	分析で使用可能なメジャー
バブルサイズ計数	分析で使用可能なメジャー
手動によるチャートラベルの非表示	はい、いいえ
より小さいラベルを非表示にする	0 ～ 100 の値
実際の値の表示	はい、いいえ

30.7.3.1 チャートの表示オプションの説明

分析名

このオプションは、チャート コンポーネントの名前を定義します。この名前はチャートのタイトルバーに表示され、[アウトライン] パネルでチャートを特定するためにも使用されます。デフォルト値は、チャートの作成時に自動的に生成される名前です。

説明

チャートの名前のほかに、最大 255 文字までチャートを説明するコメントを追加することができます。説明は任意であり、チャートコンポーネントには表示されませんが、チャートを PDF ドキュメントに出力すると、説明はページヘッダまたはページフッタに追加されます。

パレット

チャートコンポーネントのカスタマイズに使用できる、事前定義されたいくつかのカラーパレットがあります。

スタイル

チャートのカスタマイズに使用できる次のスタイルが提供されています。

スタイル	効果
デフォルト	なし
シャドー	立体効果
プレゼンテーション	黒背景
プレゼンテーション シャドー	黒背景の立体効果

フォント

[印刷] ダイアログボックスおよびチャートの [プロパティ] パネルで利用できるフォントは、デフォルトフォントです。システム管理者は追加のフォントを有効にできます。

合計を表示

クロスタブに合計が表示されている場合には、同じ分析にリンクされたチャートの合計を表示させることができます。

階層別ラベルの表示

階層別ラベル表示がオンの場合、チャートの軸ラベルにはメンバーの親子関係が表示されます。デフォルト値は“いいえ”です。階層別ラベルは、[親の表示] オプションが [はい] に設定されている場合にのみ適用されます。

凡例を表示

凡例を表示する場合は、“はい”を選択します。デフォルト値は“はい”です。

① 注記

チャート コンポーネントで利用できるスペースが限られている場合は、チャート凡例が自動的に削除されます。

X 軸のラベル

X 軸は水平軸です。

Y 軸のラベル

Y 軸は垂直軸です。

Y 軸目盛

表示されている値の目盛を設定できます。たとえば、チャートに 5,000,000 から 20,000,000 までのいくつかの値が含まれる場合、百万の目盛を使用して、これらの値を 5 から 20 と表示できます。

Y 軸目盛シンボル

Y 軸目盛に適用されるラベルを指定できます。たとえば、[百万](#)の目盛を選択した場合、ラベル“(百万ドル)”を追加できます。

Z 軸のラベル

Z 軸は 3D 集合縦棒チャートの右下軸です。

X 軸メジャー

散布図およびバブルチャートの場合、このオプションは、チャートの X 軸にプロットされる、分析で使用可能なメジャーを定義します。

Y 軸メジャー

散布図およびバブルチャートの場合、このオプションは、チャートの Y 軸にプロットされる、分析で使用可能なメジャーを定義します。

バブルサイズ計数

バブルチャートの場合、このオプションは、バブルのサイズで表す、分析で使用可能なメジャーを定義します。

手動によるチャートラベルの非表示

円チャートの場合、このオプションを使用すると小さな円スライスのラベルを非表示にできます。このオプションがはいに設定されている場合、[\[より小さいラベルを非表示にする\]](#) プロパティが有効になります。

より小さいラベルを非表示にする

円チャートの場合、このオプションは円スライスのラベルを非表示にするレベルを設定します。このオプションは、[\[手動によるチャートラベルの非表示\]](#) プロパティが[はい]に設定されている場合に限り、有効になります。

実際の値の表示

円チャートラベルにパーセント値ではなく実際の値を反映させる場合は、[はい]を選択します。デフォルト値は"いいえ"です。

関連情報

[\[プロパティ\] パネル \[191 ページ\]](#)

[チャートリファレンス \[213 ページ\]](#)

[チャートの範囲スライダ \[213 ページ\]](#)



[チャートのグラフ \[215 ページ\]](#)

[チャートの種類 \[46 ページ\]](#)

重要免責事項および法的情報

ハイパーリンク

リンクの一部は、アイコンやマウスオーバーテキストで分類されています。これらのリンクから、追加の情報を得ることができます。アイコンについて。

-  このアイコンが付いたリンク: SAP がホストしているものではない Web サイトに移動します。これらのリンクを使用することで、お客様は (お客様と SAP との契約書に別段の明示的な記載がない限り) 以下のことに同意することになります。
 - リンク先のサイトのコンテンツが SAP のドキュメンテーションではないこと。お客様は、この情報に基づいて SAP に対する製品クレームを推断することはできません。
 - SAP が、リンク先のサイトのコンテンツについて同意することも反対することもなく、また SAP がその利用可能性や正確性について保証しないこと。SAP は、かかるコンテンツの使用により発生した損害が、SAP の重大な過失又は意図的な違法行為が原因で発生したものでない限り、その損害に対して一切責任を負いません。
-  このアイコンが付いたリンク: 当該の特定の SAP 製品又はサービスのドキュメンテーションから離れ、SAP がホストしている Web サイトに移動します。これらのリンクを使用することで、お客様は (お客様と SAP との契約書に別段の明示的な記載がない限り)、この情報に基づいて SAP に対する製品クレームを推断することはできないことに同意します。

外部プラットフォームでホストされているビデオ

一部のビデオは、サードパーティのビデオホスティングプラットフォームに置かれている場合があります。SAP では、これらのプラットフォームに保存されているビデオが将来にわたって利用できると保証することはできません。また、これらのプラットフォームにホストされている、いかなる広告またはその他のコンテンツ (関連ビデオまたは同じサイトでホストされている別のビデオに移動する場合など) については、SAP の管理外であり責任を負いません。

ベータおよびその他の試験的機能

試験的機能は、SAP が将来のリリースを保証する正式に提供される機能の範囲外です。これは、試験的機能は、SAP により通知なく理由の如何を問わず随時変更される場合があることを意味します。試験的機能は、本稼働使用のためのものではありません。お客様は、試験的機能を実際の運用環境で、又は十分なバックアップがとられていないデータとともに、デモンストレーション、テスト、試験、評価その他の方法で使用してはなりません。

試験的機能の目的は、早期にフィードバックを得ることで、それに応じて顧客の皆様やパートナーが将来の製品に影響を与えることを可能にすることです。SAP コミュニティなどにおいてフィードバックを提供することで、お客様は、投稿物や二次的著作物の知的財産権が SAP の独占的所有物であり続けることを承認することになります。

コード例

ソフトウェアのコーディングやコードスニペットはすべて、例です。それらは、本稼働使用のためのものではありません。コード例は、構文や表現規則を分かりやすく説明し視覚化することのみを目的としています。SAP は、コード例の正確性や完全性について保証しません。SAP は、コード例の使用により発生した過誤や損害が、SAP の重大な過失又は意図的な違法行為が原因で発生したものでない限り、損害に対して一切責任を負いません。

偏見のない表現

SAP は、ダイバーシティ & インクルージョンの文化を支持しています。SAP の文書では、可能な限り、文化、民族性、ジェンダー、および障がいの有無を問わず、すべての人々に対する偏見を伴わない表現を採用します。

© 2024 SAP SE or an SAP affiliate company. All rights reserved.

本書のいかなる部分も、SAP SE 又は SAP の関連会社の明示的な許可なくして、いかなる形式でも、いかなる目的にも複製又は伝送することはできません。本書に記載された情報は、予告なしに変更されることがあります。

SAP SE 及びその頒布業者によって販売される一部のソフトウェア製品には、他のソフトウェアベンダーの専有ソフトウェアコンポーネントが含まれています。製品仕様は、国ごとに変わる場合があります。

これらの文書は、いかなる種類の表明又は保証もなしで、情報提供のみを目的として、SAP SE 又はその関連会社によって提供され、SAP 又はその関連会社は、これら文書に関する誤記脱漏等の過失に対する責任を負うものではありません。SAP 又はその関連会社の製品及びサービスに対する唯一の保証は、当該製品及びサービスに伴う明示的保証がある場合に、これに規定されたものに限られます。本書のいかなる記述も、追加の保証となるものではありません。

本書に記載される SAP 及びその他の SAP の製品やサービス、並びにそれらの個々のロゴは、ドイツ及びその他の国における SAP SE（又は SAP の関連会社）の商標若しくは登録商標です。本書に記載されたその他のすべての製品およびサービス名は、それぞれの企業の商標です。

商標に関する詳細の情報や通知については、<https://www.sap.com/japan/about/legal/trademark.html> をご覧ください。